

Dell XC630 ウェブスケールハイパーコンバージ ドアプライアンス オーナーズマニュアル

規制モデル: E14S Series
規制タイプ: E14S001



メモ、注意、警告

-  **メモ:** メモでは、コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** 注意では、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 警告では、物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2016 Dell Inc. 無断転載を禁じます。この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell、および Dell のロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2016 - 05

Rev. A04

目次

1 システムについて	8
サポートされる構成.....	8
前面パネルの機能とインジケータ.....	8
診断インジケータ.....	10
ハードドライブインジケータコード.....	12
iDRAC ダイレクト LED インジケータコード.....	12
背面パネルの機能とインジケータ.....	14
NIC インジケータコード.....	16
電源インジケータコード.....	16
参照文書.....	19
Quick Resource Locator (QRL)	19
2 初期システム設定の実行	21
システムのセットアップ.....	21
iDRAC の IP アドレスのセットアップおよび設定方法	21
iDRAC へのログインに関する情報.....	22
オペレーティングシステムのインストール方法.....	22
リモート管理.....	22
ドライバとファームウェアのダウンロードとインストール.....	22
3 プレオペレーティングシステム管理アプリケーション	24
ナビゲーションキー.....	24
セットアップユーティリティについて.....	25
セットアップユーティリティの起動.....	25
セットアップユーティリティのメインメニュー.....	26
システム BIOS 画面設定の編集.....	26
システム情報の編集.....	27
メモリ設定の編集.....	28
プロセッサ設定の編集.....	29
SATA 設定の編集.....	31
起動設定画面の編集.....	34
ネットワーク設定の編集.....	35
内蔵デバイス詳細の編集.....	36
シリアル通信設定の編集.....	38
システムプロファイルの編集	39
システムセキュリティの編集.....	40
その他の設定の編集.....	43
起動マネージャについて.....	44

起動マネージャの起動	44
起動マネージャのメインメニュー	44
起動順序の変更	45
システム起動モードの選択	45
システムパスワードおよびセットアップパスワードの割り当て	46
既存のシステムパスワードおよびセットアップパスワードの削除または変更	47
4 システムコンポーネントの取り付けと取り外し	48
安全にお使いいただくために	48
システム内部の作業を始める前に	48
システム内部の作業を終えた後に	48
推奨ツール	49
前面ベゼル (オプション)	49
前面ベゼルの取り外し	49
前面ベゼルの取り付け	50
システムカバーの取り外し	50
システムカバーの取り付け	51
システムの内部	51
冷却エアフローカバー	52
冷却エアフローカバーの取り外し	53
冷却エアフローカバーの取り付け	53
システムメモリ	54
メモリモジュール取り付けガイドライン	56
モードごとのガイドライン	57
メモリ構成の例	58
メモリモジュールの取り外し	59
メモリモジュールの取り付け	60
ハードドライブ	61
2.5 インチハードドライブダミーの取り外し	62
2.5 インチハードドライブダミーの取り付け	62
ホットスワップ対応ハードドライブの取り外し	63
ホットスワップ対応ハードドライブの取り付け	64
ハードドライブキャリアからのハードドライブの取り外し	64
ハードドライブキャリアへのハードドライブの取り付け	65
SATADOM	65
SATADOM に関する重要な情報	65
SATADOM の取り外し	66
SATADOM の取り付け	67
冷却ファン	68
冷却ファンの取り外し	68
冷却ファンの取り付け	69
拡張カードと拡張カードライザー	69


拡張カードの取り付けガイドライン.....	69
拡張カードの取り外し.....	71
拡張カードの取り付け.....	72
拡張カードライザーの取り外し.....	72
拡張カードライザーの取り付け.....	74
内蔵デュアル SD モジュール.....	75
内蔵デュアル SD モジュールの取り外し	75
内蔵デュアル SD モジュールの取り付け	77
内蔵 SD カード.....	77
内蔵 SD カードの取り外し.....	77
内蔵 SD カードの取り付け.....	78
内蔵ストレージコントローラカード.....	78
内蔵ストレージコントローラカードの取り外し.....	78
内蔵ストレージコントローラカードの取り付け.....	80
ネットワークドーターカード.....	80
ネットワークドーターカードの取り外し.....	80
ネットワークドーターカードの取り付け.....	81
ヒートシンクとプロセッサ.....	82
プロセッサの取り外し.....	82
プロセッサの取り付け.....	86
電源装置ユニット.....	88
ホットスワップ機能.....	88
電源装置ユニットダミーの取り外し.....	89
電源装置ユニットダミーの取り付け.....	90
AC 電源装置ユニットの取り外し.....	90
AC 電源装置ユニットの取り付け.....	91
DC 電源装置ユニットのケーブル接続の手順.....	92
DC 電源装置ユニットの取り外し.....	93
DC 電源装置ユニットの取り付け.....	94
システムバッテリー.....	94
システムバッテリーの交換.....	94
ハードドライブバックプレーン.....	95
ハードドライブバックプレーンの取り外し.....	95
ハードドライブバックプレーンの取り付け.....	97
コントロールパネルアセンブリ.....	98
コントロールパネルの取り外し - ハードドライブ 10 台	98
コントロールパネルの取り付け - ハードドライブ 10 台搭載システム.....	99
システム基板.....	100
システム基板の取り外し.....	100
システム基板の取り付け.....	102
Trusted Platform Module	104
Trusted Platform Module (TPM) の取り付け	105


BitLocker ユーザー向け TPM の再有効化.....	105
TXT ユーザー向け TPM の再有効化.....	106
5 システムのトラブルシューティング.....	107
作業にあたっての注意.....	107
システム起動エラーのトラブルシューティング.....	107
外部接続のトラブルシューティング.....	107
ビデオサブシステムのトラブルシューティング.....	107
USB デバイスのトラブルシューティング.....	107
iDRAC ダイレクト (USB XML 設定) のトラブルシューティング.....	108
iDRAC ダイレクト (ノートブック接続) のトラブルシューティング.....	109
シリアル I/O デバイスのトラブルシューティング.....	109
NIC のトラブルシューティング.....	110
システムが濡れた場合のトラブルシューティング.....	110
システムが損傷した場合のトラブルシューティング.....	111
システムバッテリーのトラブルシューティング.....	112
電源装置ユニットのトラブルシューティング.....	112
電源の問題.....	112
電源装置ユニットの問題.....	113
冷却問題のトラブルシューティング.....	113
冷却ファンのトラブルシューティング.....	114
システムメモリのトラブルシューティング.....	114
SD カードのトラブルシューティング.....	115
ハードドライブのトラブルシューティング.....	116
ストレージコントローラのトラブルシューティング.....	117
拡張カードのトラブルシューティング.....	117
プロセッサのトラブルシューティング.....	118
システムメッセージ.....	119
警告メッセージ.....	119
診断メッセージ.....	119
アラートメッセージ.....	119
6 システム診断の使用.....	120
Dell Embedded System Diagnostics.....	120
内蔵システム診断を使用する状況.....	120
起動マネージャからの内蔵されたシステム診断プログラムの実行.....	120
Dell Lifecycle Controller からの内蔵されたシステム診断プログラムの実行.....	120
システム診断プログラムのコントロール.....	121
7 ジャンパとコネクタ.....	122
システム基板のジャンパ設定.....	122
システム基板のコネクタ.....	123

パスワードを忘れたとき.....	125
8 困ったときは.....	126
デルへのお問い合わせ.....	126
Dell SupportAssist.....	126
お使いのシステムのサービスタグの位置.....	127
Quick Resource Locator (QRL)	127

システムについて

Dell XC630 は、Intel Xeon E5-2600 v3 プロセッサシリーズベースの 2 つのプロセッサ、最大 24 の DIMM、および最大 10 ドライブスロットのストレージ容量をサポートする Dell PowerEdge R630 ベースのウェブスケール統合型アプライアンスです。

 **メモ:** このシステムは、ホットスワップ対応の内蔵ハードドライブのみをサポートします。

 **メモ:** 本書では、HDD とは総称的に HDD と SSD の両方を指します。

サポートされる構成

表 1. サポートされる構成

システム	構成
ハードドライブ 10 台搭載のシステム	2.5 インチハードドライブ 10 台

前面パネルの機能とインジケータ

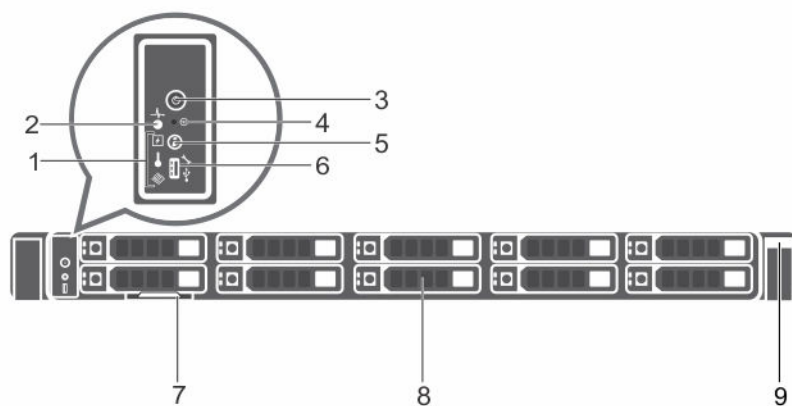


図 1. 前面パネルの機能とインジケータ – ハードドライブ 10 台搭載システム

表 2. 前面パネルの機能とインジケータ

項目	インジケータ、ボタン、またはコネクタ	アイコン	説明
1	診断インジケータ		診断インジケータは、エラーステータスを示すために点灯します。
2	システム正常性インジケータ		システム障害が検出されると、システム正常性インジケータが橙色に点滅します。
3	電源インジケータ、電源ボタン		電源インジケータは、システムの電源が入っている時に点灯します。電源ボタンによってシステムへの電源の供給を制御します。  メモ: Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 対応のオペレーティングシステムでは、電源ボタンを使ってシステムの電源を切ることにより、システムへの電力が切断される前にシステムが正常なシャットダウンを行います。
4	NMI ボタン		特定の OS の実行中にソフトウェアおよびデバイスドライバエラーのトラブルシューティングを行うには、マスク不可能な割り込み (NMI) ボタンを使用します。ペーパークリップの先端を使って、NMI ボタンを押します。 NMI ボタンは、認定を受けたサポート担当者によって指示された場合、または OS のマニュアルで指示されている場合にのみ使用してください。
5	システム識別ボタン		前面パネルと背面パネルの識別ボタンを使用して、ラック内の特定のシステムの位置を確認することができます。これらのボタンの 1 つを押すと、背面にあるシステムステータスインジケータが、ボタンの 1 つがもう一度押されるまで点滅します。 ボタンを押してシステム識別のオン / オフを切り替えます。 POST 中にシステムの機能が停止した場合は、システム識別ボタンを 5 秒以上押し続けて BIOS プログレスモードに入ります。 iDRAC をリセットするには (F2 を押すことによる iDRAC セットアップモードの起動によって無効にされていない場合)、ボタンを 15 秒以上長押しします。
6	Mini USB コネクタ / iDRAC ダイレクト		USB デバイスをシステムに接続を可能にする、または iDRAC ダイレクト機能へのアクセスを提供します。詳細については、 Dell.com/idracmanuals の『 <i>Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide</i> 』 (Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド) を参照してください。ポートは USB 2.0 対応です。

項目	インジケータ、ボタン、 またはコネクタ	アイコン	説明
7	情報タグ		サービスタグ、NIC、MAC アドレスなどのシステム情報を記録することができる、引き出し式のラベルパネルです。
8	ハードディスクドライブ (10 台)		最大 10 台のホットスワップ対応 2.5 インチハードドライブ。最大 6 台のホットスワップ対応 2.5 インチのハードドライブと最大 4 台の 2.5 インチ Dell PowerEdge Express Flash デバイス (PCIe SSD)。
9	Quick Sync		Quick Sync が有効化されたシステムであることを示します。オプションの Quick Sync 機能には、Quick Sync ベゼルが必要です。この機能は、モバイルデバイスを使用してシステムを管理することを可能にします。この機能を使用すると、ハードウェアまたはファームウェアのインベントリと、システムのトラブルシューティングに使用できる様々なシステムレベルの診断およびエラー情報が集約されます。詳細については、 Dell.com/idracmanuals の『Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide』 (Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド) を参照してください。

診断インジケータ

システムの前面パネルにある診断インジケータには、システム起動時にエラーステータスが表示されます。









 **メモ:** システムの電源が切れているときは、どの診断インジケータも点灯しません。システムを起動するには、機能している電源に接続してから電源ボタンを押します。

表 3. 診断インジケータ

アイコン	説明	状態	対応処置
	ヘルスインジケータ	システムの電源がオンで、良好な状態の場合、インジケータは青色に点灯します。 システムの電源がオンまたはスタンバイ状態で、(ファンまたはハードドライブに障害があるなどの) エラーが発生している場合、インジケータは橙色に点滅します。	不要。 特定の問題については、システムイベントログまたはシステムメッセージを確認してください。エラーメッセージの詳細については、 Dell.com/openmanagemanuals > OpenManage software にある『 <i>Dell Event and Error Messages Reference Guide</i> 』 (Dell イベントおよびエラーメッセージリファレンスガイド) を参照してください。 メモリ構成が無効な場合は、起動時にビデオ出力がなく、システムが停止することがあります。「 困ったときは 」を参照してください。

アイコン	説明	状態	対応処置
	ハードドライブインジケータ	ハードドライブにエラーが発生すると、インジケータが黄色に点滅します。	エラーが発生している HDD または SSD を特定するには、システムイベントログを参照してください。適切なオンライン診断テストを実行します。システムを再起動し、組み込み型診断 (ePSA) を実行します。
	電気インジケータ	システムに電氣的なエラー (電圧の異常、電源装置ユニットや電圧レギュレータの障害など) が発生すると、このインジケータが橙色に点滅します。	特定の問題については、「システムイベントログ」または「システムメッセージ」を参照してください。電源装置が原因である場合は、電源装置の LED を確認します。電源装置をいったん取り外して取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「 困ったときは 」を参照してください。
	温度インジケータ	システムに温度に関するエラー (温度の異常やファンの障害など) が発生すると、このインジケータが黄色に点滅します。	次の状態が発生していないことを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> 冷却ファンが取り外されている、または故障している。 システムカバー、冷却用エアフローカバー、EMI フィルターパネル、メモリモジュールのダミー、または背面フィルターブラケットが取り外されている。 室温が高すぎる。 外部の通気が遮断されている。 「 困ったときは 」を参照してください。
	メモリインジケータ	メモリエラーが発生すると、このインジケータが黄色に点滅します。	障害が発生したメモリの位置については、「システムイベントログ」または「システムメッセージ」を参照してください。メモリデバイスを取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「 困ったときは 」を参照してください。
	PCIe インジケータ	PCIe カードにエラーが発生すると、このインジケータが黄色に点滅します。	システムを再起動します。PCIe カードに必要なドライバをすべてアップデートします。カードを取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「 困ったときは 」を参照してください。 <p> メモ: サポートされる PCIe カードの詳細については、「拡張カードの取り付けガイドライン」を参照してください。</p>

ハードドライブインジケータコード

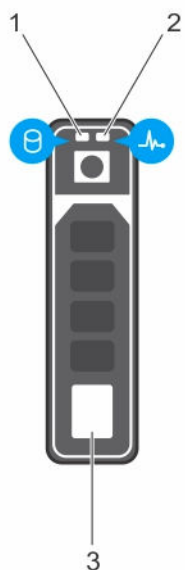


図 2. ハードドライブインジケータ

1. ハードドライブアクティビティインジケータ
2. ハードドライブステータスインジケータ
3. ハードドライブ

メモ: ハードディスクドライブが AHCI (Advanced Host Controller Interface) モードの場合、ステータスインジケータ (右側) は機能せず、消灯したままになります。

表 4. ハードドライブインジケータ

ドライブステータスインジケータのパターン	状態
1 秒間に 2 回緑色に点滅	ドライブの識別中または取り外し準備中
1 秒間に 4 回黄色に点滅	ドライブに障害発生
緑色の点灯	ドライブオンライン状態

iDRAC ダイレクト LED インジケータコード

メモ: iDRAC ダイレクト LED インジケータが USB モードには点灯しない。

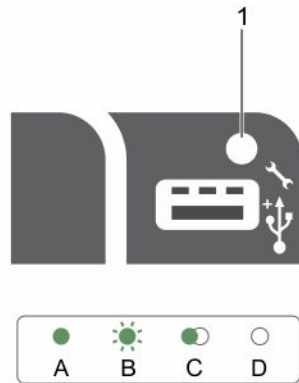


図 3. iDRAC ダイレクト LED インジケータ

1. iDRAC ダイレクトステータスインジケータ

次の表は、管理ポート(USB XML インポート)を使用して、iDRAC ダイレクトを設定する際の、iDRAC ダイレクトの動作状況を示しています。

表 5. 管理ポートを使用した iDRAC ダイレクト LED インジケータ

表記規則	iDRAC ダイレクト LED インジケータパターン	状態
A	緑色	ファイル転送の開始時と終了時に最低 2 秒間、緑色に点灯します。
B	緑色の点滅	ファイル転送や操作タスクを示します。
C	緑色の消灯	ファイル転送が完了したことを示します。
D	消灯	USB を取り外す準備ができたことを示しているか、タスクが完了したことを示しています。

以下の表は、ノートブック PC とケーブル（ノートブック PC 接続）を使用して iDRAC ダイレクトの設定する時々の iDRAC ダイレクトの動作状況を示しています。

表 6. ノートブック PC とケーブルを使用した iDRAC ダイレクト LED インジケータ

iDRAC ダイレクト LED インジケータパターン	状態
2 秒間緑に点灯	ノートブック PC が接続されていることを示します。
緑色の点滅 (2 秒間オンになり 2 秒間オフになる)	ノートブック PC が接続されていることが認識されていることを示しています。
消灯	ノートブック PC が電源に接続されていないことを示します。

背面パネルの機能とインジケータ

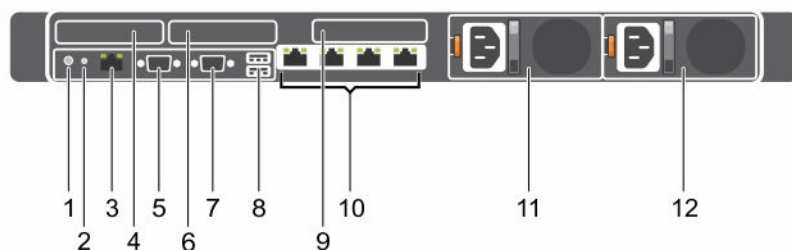






図 4. 背面パネルの機能とインジケータ - ハードディスクドライブ 10 台搭載システム (PCIe 拡張カード 3 枚)

表 7. 背面パネルの機能とインジケータ

項目	インジケータ、ボタン、またはコネクタ	Icon	説明
1	システム識別ボタン		<p>前面パネルと背面パネルの識別ボタンは、ラック内の特定のシステムの位置を確認するために使用します。</p> <p>ハードドライブ 10 台搭載システム これらのボタンの 1 つを押すと、背面のシステムステータスインジケータは、ボタンの 1 つがもう一度押されるまで点滅を続けます。</p> <p>ボタンを押してシステム識別のオン / オフを切り替えます。POST 中にシステムの反応が停止した場合は、システム識別ボタンを 5 秒以上押し続けて BIOS プログレスモードに入ります。</p> <p>iDRAC をリセットするには (F2 iDRAC セットアップで無効に設定されていない場合)、15 秒以上長押しします。</p>
2	システム識別コネクタ		オプションのケーブルマネジメントアームを通して、オプションのシステムステータスインジケータアセンブリを接続することができます。
3	iDRAC8 Enterprise ポート		<p>専用の管理ポートです。</p> <p> メモ: ポートは、お使いのシステムに iDRAC8 Enterprise ライセンスがインストールされている場合に限り、使用できます。</p>
4	LP PCIe 拡張カードスロット (ライザー 1)		ロープロファイル PCI Express 拡張カードを 1 枚接続できます。

項目	インジケータ、ボタン、 またはコネクタ	Icon	説明
5	シリアルコネクタ		シリアルデバイスをシステムに接続するときに使用します。
6	LP PCIe 拡張カードスロット (ライザー 2)		ロープロファイル PCI Express 拡張カードを 1 枚接続できます。
7	ビデオコネクタ		VGA ディスプレイをシステムに接続するときに使用します。
8	USB コネクタ (2)		システムに USB デバイスを接続できます。ポートは USB 3.0 に準拠しています。
9	LP PCIe 拡張カードスロット (ライザー 3)		LP PCIe 拡張カードを 1 枚接続できます。
10	イーサネットコネクタ (4)		内蔵 10/100/1000 Mbps NIC コネクタ 4 個 または 内蔵コネクタ 4 個 : <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵 10/100/1000 Mbps NIC コネクタ 2 個 • 内蔵 100 Mbps/1 Gbps/10 Gbps SFP+ コネクタ 2 個
11	電源ユニット (PSU1)		AC 495 W、750 W、または 1100 W
12	電源装置ユニット (PSU2)		DC 750 W または 1100 W

NIC インジケータコード

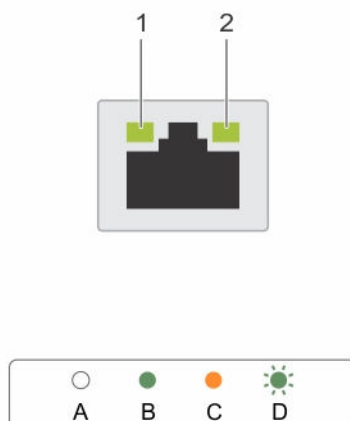


図 5. NIC インジケータ

1. リンクインジケータ

2. アクティビティインジケータ

表 8. NIC インジケータ

表記規則	インジケータ	インジケータコード
A	リンクおよびアクティビティインジケータが消灯	NIC がネットワークに接続されていません。
B	リンクインジケータが緑色	NIC は、最大ポート速度（1 Gbps または 10 Gbps）で有効なネットワークに接続されています。
C	リンクインジケータが橙色	NIC は、最大ポート速度未満で有効なネットワークに接続されています。
D	アクティビティインジケータが緑色に点滅	ネットワークデータの送信中または受信中です。

電源インジケータコード

各 AC 電源装置ユニットには光源付きの透明なハンドルがあり、各 DC 電源装置ユニット（使用可能な場合）には LED があり、これらは電源が供給されているかどうか、または電源障害が発生したかどうかを示すインジケータとしての役目を果たします。



図 6. AC 電源装置ユニットのステータスインジケータ

1. AC 電源装置ユニットのステータスインジケータ / ハンドル

表 9. AC 電源インジケータ

表記規則	電源インジケータのパターン	状態
A	緑色	ハンドルインジケータが緑色に点灯している場合は、電源装置ユニットに有効な電源が接続されていて、電源装置ユニットが稼動していることを示します。
B	緑色の点滅	電源装置ユニットのファームウェアをアップデートする際は、電源装置ユニットのハンドルが緑色に点滅します。
C	緑色の点滅と消灯	電源装置ユニット (PSU) にホットアドを行う場合、電源装置ユニットのハンドルが 4 Hz レートで 5 回緑色が点滅し、電源が切れます。このシグナルが出た場合、電源装置ユニットがもう一台の電源装置ユニットと適合していないことを示します (効率、機能設定、正常性状態、対応電圧に関して)。インジケータが点滅している電源装置ユニットをもう一台の取り付けられている電源装置ユニットの容量に適合する電源装置ユニットと交換します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <p>メモ: AC 電源装置ユニットについては、拡張電源パフォーマンス (EPP) ラベルが背面に貼付されている PSU のみを使用してください。旧世代のサーバからの PSU を混在させると、PSU の不整合が発生し、電源が入らなくなる可能性があります。</p> </div>
D	橙色の点滅	電源装置ユニットに問題があることを示します。

- △ 注意: 電源装置のミスマッチを解決する場合は、インジケータが点滅している電源装置ユニットのみを交換してください。ペアを一致させるために反対側の電源装置を交換すると、エラー状態および予期しないシステムシャットダウンの原因となる場合があります。高出力構成から低出力構成、またはその逆へ変更するには、システムの電源を切る必要があります。
- △ 注意: AC 電源装置は、220 V および 110 V 入力電圧の両方をサポートします。220 V のみをサポートする Titanium 電源装置を除き、2 台の同じ電源装置に異なる入力電圧が供給されると、異なるワット数が出力され、不一致を生じる場合があります。
- △ 注意: 2 台の電源装置を使用する場合は、どちらも同じタイプで最大出力電力も同一である必要があります。
- △ 注意: AC および DC 電源ユニットの併用はサポートされておらず、ミスマッチの原因となります。

E

消灯

電源が接続されていません。

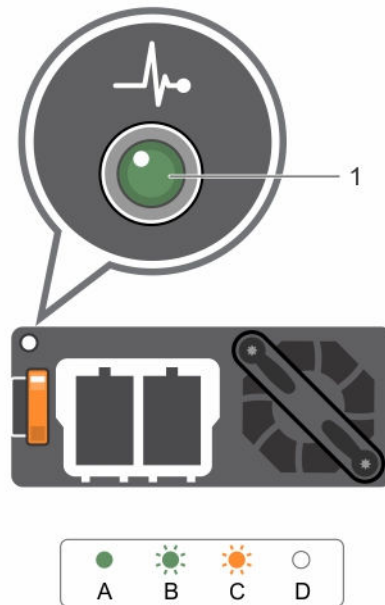






図 7. DC 電源装置ユニットのステータスインジケータ

1. DC 電源装置ユニットのステータスインジケータ

表 10. DC 電源インジケータ

表記規則	電源インジケータの パターン	状態
A	緑色	ハンドル /LED インジケータが緑色に点灯している場合は、電源装置ユニットに有効な電源が接続されていて、電源装置ユニットが稼働していることを示します。
B	緑色の点滅	電源装置ユニット (PSU) にホットアドを行う場合、電源装置ユニットの LED が緑色に点滅します。これは、電源装置ユニットがもう一台の電源装置ユニットと適合していないことを示します (効率、機能設定、正常性状態、対応電圧に関して)。インジケータが点滅している電源装置ユニットをもう一台の取り付けられている電源装置ユニットの容量に適合する電源装置ユニットと交換します。
C	橙色の点滅	電源装置ユニットに問題があることを示します。  注意: 電源装置のミスマッチを解決する場合は、インジケータが点滅している電源装置ユニットのみを交換してください。ペアを一致させるために反対側の電源装置を交換すると、エラー状態および予期しないシステムシャットダウンの原因となる場合があります。高出力構成から低出力構成、またはその逆へ変更するには、システムの電源を切る必要があります。  注意: AC 電源装置は、220 V のみをサポートする Titanium 電源装置を除き、220 V および 110 V 入力電圧の両方をサポートします。2 台の同じ電源装置に異なる入力電圧が供給されると、異なるワット数が出力され、不一致を生じる場合があります。  注意: 2 台の電源装置を使用する場合は、どちらも同じタイプで最大出力電力も同一である必要があります。  注意: AC および DC 電源ユニットの併用はサポートされておらず、ミスマッチの原因となります。
D	消灯	電源が接続されていません。

参照文書

デル文書についての情報は、お使いの製品に固有のサポートマトリックスを参照してください。

特定のリリースの Nutanix ソリューションソフトウェアに該当する Nutanix 文書についての情報は、お使いの製品に固有のサポートマトリックスを参照してください。

Quick Resource Locator (QRL)

Quick Resource Locator (QRL) を使用して、システム情報やハウツービデオに素早くアクセスします。これには、Dell.com/QRL にアクセスするか、スマートフォンまたはタブレット、およびお使いの Dell システム上にあるモデル固有の Quick Resource (QR) コードを使用します。QR コードをお試しになるには、次のイメージをスキャンしてください。



☒ 8. Quick Resource Locator (QRL)

初期システム設定の実行

システムの受け取り後は、システムをセットアップし、オペレーティングシステムをインストール（事前にインストールされていない場合）して、システムの iDRAC IP アドレスをセットアップして設定する必要があります。

システムのセットアップ

1. サーバを開梱します。
2. サーバーをラックに取り付けます。ラックへのサーバーの取り付けに関する詳細については、Dell.com/xcseriesmanuals にあるお使いのシステムの『*Rack Installation Placemat*』（ラック取り付けプレースマット）を参照してください。
3. 周辺機器をシステムに接続します。
4. システムを電源コンセントに接続します。
5. 電源ボタンを押す、または iDRAC を使用してシステムの電源を入れます。
6. 接続されている周辺機器の電源を入れます。

iDRAC の IP アドレスのセットアップおよび設定方法

次のいずれかのインタフェースのうちのひとつを使用して、Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) IP アドレスをセットアップできます。

- iDRAC 設定ユーティリティ
- Lifecycle Controller
- Dell Deployment Toolkit
- サーバーの LCD パネル

iDRAC IP は、以下を使用して設定できます。

1. iDRAC ウェブインタフェース
iDRAC のセットアップおよび設定の詳細については、『*Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide*』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。
2. Dell Remote Access Controller Admin (RACADM)
詳細については、『*RACADM Command Line Interface Reference Guide*』（RACADM コマンドラインインタフェースリファレンスガイド）および『*Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide*』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。
3. Web Services Management (WS-Man) を含む Remote Services
詳細については、『*Lifecycle Controller Remote Services Quick Start Guide*』（Lifecycle Controller Remote Services クイックスタートガイド）を参照してください。

iDRAC へのログインに関する情報

iDRAC には、iDRAC ローカルユーザー、Microsoft Active Directory ユーザー、または Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ユーザーとしてログインすることができます。また、シングルサインオンまたはスマートカードを使用してログインすることも可能です。デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **calvin** です。iDRAC へのログインおよび iDRAC ライセンスの詳細については、Dell.com/idracmanuals にある『*Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide*』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。

RACADM を使用して iDRAC にアクセスすることもできます。詳細については、Dell.com/idracmanuals にある、『*RACADM Command Line Interface Reference Guide*』（RACADM コマンドラインインタフェースリファレンスガイド）および『*Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide*』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。

オペレーティングシステムのインストール方法

サーバーにオペレーティングシステムが装備されていない場合は、次の方法のいずれかを使用してサーバに対応するオペレーティングシステムをインストールします。

- Dell Systems Management Tools and Documentation media。 Dell.com/operatingsystemmanuals でオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
- Dell Lifecycle Controller。 Dell.com/idracmanuals で Lifecycle Controller のマニュアルを参照してください。
- Dell OpenManage Deployment Toolkit。 Dell.com/openmanagemanuals で OpenManage のマニュアルを参照してください。

お使いのシステムでサポートされているオペレーティングシステムのリストの詳細については、Dell.com/ossupport でオペレーティングシステムのサポートマトリックスを参照してください。

リモート管理

iDRAC を使用して帯域外システム管理を実行するには、リモートアクセス用に iDRAC を設定し、管理ステーションと管理下システムをセットアップして、サポートするウェブブラウザを設定する必要があります。詳細については、Dell.com/idracmanuals の『*Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide*』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。

Dell OpenManage Server Administrator ソフトウェアと OpenManage Essentials システム管理コンソールを使用して、サーバーをリモートで監視および管理することも可能です。詳細については、Dell.com/openmanagemanuals を参照してください。


ドライバとファームウェアのダウンロードとインストール

Dell では、お使いのシステムには最新の BIOS、ドライバ、およびシステム管理ファームウェアをダウンロードしてインストールすることを推奨しています。

前提条件

ウェブブラウザのキャッシュをクリアするようにしてください。

手順

1. dell.com/support/drivers にアクセスします。
2. 左上の、ホームアイコンの右側にある**サポート**をクリックし、サポートセクションの**サービスタグまたはエクスプレスサービスコード**ボックスにお使いのシステムのサービスタグを入力します。
 **メモ:** サービスタグがない場合は、**使用の検出**を選択してシステムにサービスタグを自動的に検出させるか、製品サポートでお使いの製品を選択します。
3. **ドライバおよびダウンロード**をクリックします。
ユーザーの選択した項目に該当するドライバが表示されます。
4. 必要なドライバをディスクドライブ、USB ドライブ、CD、または DVD にダウンロードします。

プレオペレーティングシステム管理アプリケーション

お使いのシステムのプレオペレーティングシステム管理アプリケーションは、オペレーティングシステムを起動せずに、お使いのシステムの異なる設定や機能を管理するために役立ちます。


お使いのシステムには、次のプレオペレーティングシステム管理アプリケーションがあります。

- セットアップユーティリティ
- 起動マネージャ
- Dell Lifecycle Controller

Dell Lifecycle Controller では、BIOS およびハードウェアの設定、オペレーティングシステムの導入、ドライバのアップデート、およびハードウェアプロファイルの保存などの便利なタスクを実行することができます。Dell Lifecycle Controller の詳細については、Dell.com/idracmanuals にあるマニュアルを参照してください。

ナビゲーションキー

ナビゲーションキーは、プリオペレーティングシステム管理アプリケーションへのアクセスに便利です。

キー	説明
<Page Up>	前の画面に移動します。
<Page Down>	次の画面に移動します。
上矢印	前のフィールドに移動します。
下矢印	次のフィールドへ移動します。
<Enter>	選択したフィールドに値を入力するか (該当する場合)、フィールド内のリンクに移動することができます。
スペースバー	ドロップダウンリストがある場合は、展開したり折りたたんだりします。
タブ	次のフォーカス対象領域に移動します。
	 メモ: この機能は、標準のグラフィカルブラウザにのみ適用されます。
<Esc>	メイン画面が表示されるまで、前のページに移動します。メイン画面で Esc を押すとシステム BIOS/iDRAC 設定 / デバイス設定 / サービスタグ設定が終了し、システム起動が続行されます。
F1	セットアップユーティリティ のヘルプを表示します。
F2	セットアップユーティリティ を起動することができます。

キー	説明
F10	Dell Lifecycle Controller を起動することができます。
F11	起動マネージャを起動することができます。
F12	PXE ブートを起動することができます。

セットアップユーティリティについて

セットアップユーティリティを使用して、お使いのシステムの BIOS 設定、iDRAC 設定およびデバイス設定を構成できます。


 **メモ:** システムのセットアップ中、UEFI または RAID といったこのシステムには適用されない汎用サーバー設定がいくつか表示されます。

セットアップユーティリティにアクセスするには、次の 2 つの方法があります。

- 標準グラフィカルブラウザ デフォルトでは有効になっています。
- テキストブラウザ コンソールのリダイレクトを使用して有効にします。

コンソールリダイレクトを有効にするには、次の手順を実行します。

- **System Setup** (セットアップユーティリティ) ページで、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
- **Serial Communications** (シリアル通信) ページで **Serial Communications** (シリアル通信) をクリックし、**On with Console Redirection** (コンソールリダイレクトでオン) を選択します。

 **メモ:** デフォルトでは、選択したフィールドのヘルプテキストはグラフィカルブラウザ内に表示されません。テキストブラウザ内でヘルプテキストを表示するには、<F1> を押してください。

セットアップユーティリティから実行できる操作は次のとおりです。


- ハードウェアの追加または削除後に NVRAM 設定を変更する。
- システムハードウェアの構成を表示する。
- 内蔵デバイスの有効 / 無効を切り替える。
- パフォーマンスと電力管理のしきい値を設定する。
- システムセキュリティを管理する。


セットアップユーティリティの起動

1. システムの電源を入れるか、再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに F2 を押します。

F2 = System Setup

F2 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを起動して再試行してください。

 **メモ:** システム起動中にエラーメッセージが表示された場合は、そのメッセージをメモしてください。詳細については、「[システムメッセージ](#)」を参照してください。

 **メモ:** メモリのアップグレード後、最初にシステムを起動する際にメッセージが表示されるのは正常です。

セットアップユーティリティのメインメニュー

表 11. セットアップユーティリティのメインメニュー

オプション	説明
System BIOS (システム BIOS)	BIOS 設定を構成できます。
iDRAC Settings (iDRAC 設定)	iDRAC を設定できます。 iDRAC 設定ユーティリティは、UEFI を使用することで iDRAC パラメータをセットアップして設定するためのインターフェースです。iDRAC 設定ユーティリティを使用することで、さまざまな iDRAC パラメータを有効または無効にすることができます。このユーティリティの詳細については、 Dell.com/idracmanuals の『 <i>Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide</i> 』(Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド) を参照してください。
Device Settings (デバイス設定)	デバイスを設定できます。

システム BIOS 画面設定の編集

System BIOS (システム BIOS) 画面を使用して、BIOS の設定を表示することができます。また、起動順序、システムパスワード、セットアップパスワード、USB ポートの有効化または無効化といったいくつかの設定の編集も可能です。

System Setup Main Menu (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。

System BIOS (システム BIOS) 画面が表示されます。

システム BIOS 画面設定

システム BIOS 画面の詳細は次の通りです。

表 12. System BIOS (システム BIOS)

メニュー項目	説明
システム情報	システムモデル名、BIOS バージョン、サービスタグのようなシステムに関する情報が表示されます。
メモリ設定	取り付けられているメモリに関連する情報とオプションが表示されます。
プロセッサ設定	速度、キャッシュサイズなど、プロセッサに関する情報とオプションが表示されます。
SATA 設定	内蔵 SATA コントローラとポートの有効 / 無効を切り替えるオプションが表示されます。
起動設定	起動モード (BIOS または UEFI) を指定するオプションが表示されます。UEFI と BIOS の起動設定を変更することができます。
ネットワーク設定	ネットワーク設定を変更するためのオプションが表示されます。
内蔵デバイス	内蔵デバイスコントローラとポートの有効 / 無効の切り替え、および関連する機能とオプションの指定を行うオプションが表示されます。

メニュー項目	説明
シリアル通信	シリアルポートの有効 / 無効の切り替え、および関連する機能とオプションの指定を行うオプションが表示されます。
システムプロファイル設定	プロセッサの電力管理設定、メモリ周波数などを変更するオプションが表示されます。
システムセキュリティ	システムパスワード、セットアップパスワード、Trusted Platform Module (TPM) セキュリティなどのシステムセキュリティ設定を行うオプションが表示されます。また、システムの電源ボタンおよび NMI ボタンの有効 / 無効の切り替えも可能です。
その他の設定	システムの日時などを変更するオプションが表示されます。

システム情報の編集

System Information (システム情報) 画面を使用して、サービスタグ、システムモデル、および BIOS バージョンなどのシステムプロパティを表示することができます。

1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
2. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**System Information** (システム情報) をクリックします。
System Information (システム情報) 画面が表示されます。

システム情報画面設定

System Information (システム情報画面) の詳細は、次の通りです。

表 13. システム情報

メニュー項目	説明
システムモデル名	システムモデル名を表示します。
システム BIOS バージョン	システムにインストールされている BIOS バージョンが表示されます。
System Management Engine Version (システム管理エンジンバージョン)	管理エンジンファームウェアの現在のリビジョンを表示します。
システムサービスタグ	システムのサービスタグが表示されます。
システムメーカー	FRU メーカーの名前を表示します。
システムメーカー連絡先情報	システム製造元の連絡先情報が表示されます。
システム CPLD バージョン	システム CPLD ファームウェアの現在のリビジョンを表示します。
UEFI Compliance Version (UEFI 準拠バージョン)	システムファームウェア UEFI 準拠レベルが表示されます。

メモリ設定の編集

Memory Settings (メモリ設定) 画面を使用して、すべてのメモリ設定を表示することができます。システムメモリテストやノードインターリーピングといったいくつかのメモリ設定を有効化または無効化することも可能です。

1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
2. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Memory Settings** (メモリ設定) をクリックします。
Memory Settings (メモリ設定) 画面が表示されます。

メモリ画面設定

Memory Settings (メモリ設定) 画面の詳細は、次の通りです。

表 14. メモリ設定

メニュー項目	説明
System Memory Size (システムメモリのサイズ)	システムに取り付けられているメモリの容量が表示されます。
System Memory Type (システムメモリのタイプ)	システムに取り付けられているメモリのタイプが表示されます。
System Memory Speed (システムメモリ速度)	システムメモリの速度が表示されます。
System Memory Voltage (システムメモリ電圧)	システムメモリの電圧が表示されます。
Video Memory (ビデオメモリ)	ビデオメモリの容量が表示されます。
System Memory Testing (システムメモリテスト)	システム起動時にシステムメモリテストを実行するかどうかを指定します。オプションは Enabled (有効) および Disabled (無効) です。デフォルトでは、 System Memory Testing (システムメモリテスト) オプションは Disabled (無効) に設定されています。
Memory Operating Mode (メモリ動作モード)	メモリの動作モードを指定します。お使いのシステムのメモリ構成に応じて使用可能なオプションは、 Optimizer Mode (オプティマイザモード)、 Advanced ECC Mode (アドバンス ECC モード)、 Mirror Mode (ミラーモード)、 Spare Mode (スペアモード)、 Spare with Advanced ECC Mode (アドバンス ECC モードのスペア)、および Dell Fault Resilient Mode (Dell 耐障害性モード) です。 Memory Operating Mode (メモリ動作モード) オプションはデフォルトで Optimizer Mode (オプティマイザモード) に設定されています。  メモ: Memory Operating Mode (メモリ動作モード) には、お使いのシステムのメモリ設定に基づいて、異なるデフォルトおよび利用可能オプションがあります。  メモ: Dell Fault Resilient Mode (Dell 耐障害性モード) は、耐障害性を持つメモリ領域を確立します。このモードは、この機能をサポートするオペレーティングシステムによる、重要なアプリケーションのロード、またはオペレーティングシステムカーネルの有効化のための使用が可能で、システムの可用性を最大化します。

メニュー項目	説明
Node Interleaving (ノードインターリーブ)	NUMA (Non-Uniform Memory Architecture) をサポートするかどうかを指定します。このフィールドが Enabled (有効) になっている場合は、対称的なメモリ構成がインストールされている場合にメモリのインターリーブがサポートされます。 Disabled (無効) になっている場合は、システムは NUMA (非対称) メモリ構成をサポートします。デフォルトでは、 Node Interleaving (ノードインターリーブオプション) は Disabled (無効) に設定されています。
Snoop Mode (スヌープモード)	スヌープモードオプションを指定します。使用可能なスヌープモードオプションは、 Home Snoop (ホームスヌープ) 、 Early Snoop (アーリースヌープ) 、 Cluster on Die (クラスタオンダイ) です。デフォルトでは、スヌープモードは Early Snoop (アーリースヌープ) に設定されています。ノードインターリーブが Disabled (無効) の場合のみ、フィールドは利用可能です。

プロセッサ設定の編集

Processor Settings (プロセッサ設定) 画面を使用して、プロセッサの設定を表示することができます。また、仮想化テクノロジー、ハードウェアプリフェッチャ、論理プロセッサのアイドルングを有効化することも可能です。



1. **System Setup Main Menu (セットアップユーティリティメインメニュー)** にアクセスし、**System BIOS (システム BIOS)** をクリックします。
2. **System BIOS (システム BIOS)** 画面で、**Processor Settings (プロセッサ設定)** をクリックします。
Processor Settings (プロセッサ設定) 画面が表示されます。

プロセッサ設定画面

Processor Setting (プロセッサ設定) 画面の詳細は、次の通りです。

表 15. プロセッサ設定

メニュー項目	説明
論理プロセッサ	論理プロセッサを有効または無効にして、論理プロセッサの数を表示します。 Logical Processor (論理プロセッサ) オプションが Enabled (有効) に設定されていると、BIOS にはすべての論理プロセッサが表示されます。このオプションが Disabled (無効) に設定されていると、BIOS にはコアごとに 1 つの論理プロセッサのみが表示されます。デフォルトでは、 Logical Processor (論理プロセッサ) オプションは Enabled (有効) に設定されています。
Alternate RTID (Requestor Transaction ID) Setting (代替 RTID (要求元トランザクション ID) 設定)	リモートソケットへの RTID の割り当てを増やして、ソケット間のキャッシュパフォーマンスを高めるか、または NUMA の標準モードでシステムを動作させることができます。 Alternate RTID (Requestor Transaction ID) Setting (代替 RTID (要求元トランザクション ID) 設定) はデフォルトで Disabled (無効) に設定されています。
仮想化テクノロジー	仮想化のために提供されている追加のハードウェア機能の有効 / 無効を切り替えます。 Virtualization Technology (仮想化テクノロジー) オプションはデフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
Address Translation Service (ATS) (アドレス変換サービス)	デバイスのアドレス変換キャッシュ (ATC) を定義して、DMA トランザクションをキャッシュします。このフィールドはチップセットのアドレス変換と保護テーブルにインタフェースを提供し、DMA アドレスをホストアド

メニュー項目	説明
	レスに変換します。デフォルトでは、オプションは Enabled (有効) に設定されています。
隣接キャッシュラインのプリフェッチ	シーケンシャルメモリアクセスの頻繁な使用が必要とされるアプリケーションのためにシステムを最適化します。デフォルトでは、 Adjacent Cache Line Prefetch (隣接キャッシュラインのプリフェッチ) オプションが Enabled (有効) に設定されています。ランダムメモリアクセスの頻繁な使用が必要とされるアプリケーションについては、このオプションを無効にすることができます。
ハードウェアプリフェッチャー	ハードウェアプリフェッチャーを有効または無効にします。 Hardware Prefetcher (ハードウェアプリフェッチャ) オプションはデフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
DCU ストリーマプリフェッチャー	データキャッシュユニット (DCU) ストリーマプリフェッチャを有効化または無効化することができます。 DCU ストリーマプリフェッチャ オプションは、デフォルトで 有効 に設定されています。
DCU IP プリフェッチャー	データキャッシュユニット (DCU) IP プリフェッチャを有効または無効にします。 DCU IP Prefetcher (DCU IP プリフェッチャ) オプションはデフォルトで Enabled 有効 に設定されています。
無効化を実行する	メモリ保護テクノロジーの無効化実行を有効または無効にします。 Execute Disable (無効化実行オプション) はデフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
論理プロセッサのアイドルリング	消費電力を削減するために、論理プロセッサをアイドル状態にする OS 機能を有効または無効にします。このオプションはデフォルトで Disabled (無効) に設定されています。
設定可能な TDP	熱設計電力 (TDP) の再構成でレベルを下げるすることができます。TDP は冷却システムが熱の放散に必要とする最大電力量を参照していません。
X2Apic モード	X2Apic モードを有効または無効にします。
Dell Controlled Turbo	 メモ: インストールされている CPU の数に応じて、最大 4 台のプロセッサのリストがあります。 ターボエンゲージメントを制御します。このオプションは、 System Profile (システムプロファイル) が Performance (パフォーマンス) に設定されている場合のみ有効にします。
プロセッサごとのコア数	各プロセッサ内の有効なコアの数を制御します。デフォルトでは、 Number of Cores per Processor (プロセッサごとのコア数) オプションは All (すべて) に設定されています。
プロセッサ 64 ビットサポート	プロセッサが 64 ビット拡張をサポートするかどうかを指定します。
プロセッサコアスピード	プロセッサの最大コア周波数が表示されます。
プロセッサ 1	 メモ: 取り付けられた CPU の数に応じて、最大 4 つのプロセッサリストが存在する場合があります。次の設定は、システムに取り付けられているプロセッサごとに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Family-Model-Stepping (シリーズ-モデル-ステップング) : Intel によって定義されたプロセッサのシリーズ、モデル、およびステップングが表示されます。

メニュー項目	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • Brand (ブランド) : プロセッサによって報告されるブランド名が表示されます。 • Level 2 Cache (レベル 2 キャッシュ) : L2 キャッシュの合計が表示されます。 • Level 3 Cache (レベル 3 キャッシュ) : L3 キャッシュの合計が表示されます。 • Number of Cores (コア数) : 各プロセッサのコア数が表示されます。

SATA 設定の編集

SATA Settings (SATA 設定) 画面を使用して、SATA デバイスの SATA 設定を表示し、お使いのシステムで RAID を有効にすることができます。

1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
2. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**SATA Settings (SATA 設定)** をクリックします。
SATA Settings (SATA 設定) 画面が表示されます。

SATA 設定画面

SATA Settings (SATA 設定) 画面の詳細は次の通りです。

表 16. SATA 設定

メニュー項目	説明
組み込み SATA	内蔵 SATA を Off (オフ)、 ATA モード、 AHCI モード、または RAID モードに設定することができます。 Embedded SATA (内蔵 SATA) オプションはデフォルトで AHCI に設定されています。
Security Freeze Lock	POST 中に組み込み SATA ドライブにセキュリティフリーズロックコマンドを送信します。このオプションは、ATA と AHCI モードにのみ適用されます。
書き込みキャッシュ	POST 中に組み込み SATA ドライブの コマンドを有効または無効にします。
Port A (ポート A)	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p> <p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>

メニュー項目	説明
Port B (ポート B)	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p> <p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>
Port C (ポート C)	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p> <p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>
Port D (ポート D)	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p> <p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>
Port E (ポート E)	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必</p>

メニュー項目	説明
	<p>必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p> <p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>
<p>Port F (ポート F)</p>	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p> <p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>
<p>Port G (ポート G)</p>	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p> <p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>
<p>Port H (ポート H)</p>	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p>

メニュー項目	説明
	<p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>
Port I (ポート I)	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p> <p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>
Port J (ポート J)	<p>選択されたデバイスのドライブタイプを設定します。 Embedded SATA settings (組み込み SATA 設定) が ATA モードに設定されている場合、BIOS サポートを有効にするには、このフィールドを Auto (自動) に設定する必要があります。BIOS サポートをオフにするには、OFF (オフ) に設定します。</p> <p>AHCI モードまたは RAID モードの場合は、BIOS サポートは常に有効となります。</p> <p>Model (モデル) : 選択されたデバイスのドライブモデルを表示します。</p> <p>Drive Type (ドライブタイプ) : SATA ポートに接続されているドライブのタイプを表示します。</p> <p>Capacity (容量) : ハードドライブの合計容量を表示します。このフィールドは、光学ドライブなどのリムーバブルメディアデバイス用には定義されていません。</p>

起動設定画面の編集

Boot Settings (起動設定) 画面を使用して、起動モードを **BIOS**、または **UEFI** に設定することができます。起動順序を指定することも可能です。





1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
2. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Boot Settings** (起動設定) をクリックします。

Boot Settings (起動設定) 画面が表示されます。

起動設定

Boot Settings (起動設定) 画面の詳細は、次の通りです。

表 17. 起動設定

メニュー項目	説明
Boot Mode (起動モード)	<p>システムの起動モードを設定できます。</p> <p> メモ: このシステムは BIOS 起動モードのみをサポートしています。</p> <p> 注意: OS インストール時の起動モードが異なる場合、起動モードを切り替えるとシステムが起動しなくなることがあります。</p> <p> メモ: このフィールドを UEFI に設定すると、BIOS Boot Settings (BIOS 起動設定) メニューが無効になります。このフィールドを BIOS に設定すると、UEFI Boot Settings (UEFI 起動設定) メニューが無効になります。</p> <p>オペレーティングシステムが UEFI をサポートしている場合は、このオプションを UEFI に設定できます。このフィールドを BIOS に設定すると、UEFI 非対応のオペレーティングシステムとの互換性が有効になります。Boot Mode (起動モード) オプションはデフォルトで BIOS に設定されています。</p> <p> メモ: このシステムは BIOS 起動モードのみをサポートしています。</p>
Boot Sequence Retry (起動順序再試行)	<p>起動順序の再試行機能を有効または無効にします。このフィールドが有効に設定されていて、システムが起動に失敗した場合、システムは 30 秒後に起動を再試行します。デフォルトでは、Boot Sequence Retry (起動順序再試行) オプションは Enabled (有効) に設定されています。</p>
ハードディスクフェイルオーバー	<p>起動順序で試行する Hard-Disk Drive Sequence (ハードドライブシーケンス) のデバイスを指定します。オプションが Disabled (無効) の場合は、リスト内の最初のハードディスクデバイスだけで起動が試行されます。Enabled (有効) に設定すると、すべてのハードディスクデバイスが Hard-Disk Drive Sequence (ハードディスクドライブシーケンス) のリスト順に試行されます。このオプションは、UEFI 起動モードでは使用できません。</p>
Boot Option Settings (起動オプション設定)	<p>起動順序と起動デバイスを設定します。</p>

ネットワーク設定の編集

Network Settings (ネットワーク設定) 画面を使用して、プレブート実行環境 (PXE) デバイスの設定を変更できます。ネットワーク設定を使用できるのは、UEFI 起動モードのみです。BIOS は、BIOS 起動モードではネットワーク設定の制御しません。BIOS 起動モードの場合、ネットワーク設定はネットワークコントローラのオプション ROM によって処理されます。

1. **System Setup Main Menu (セットアップユーティリティメインメニュー)** にアクセスし、**System BIOS (システム BIOS)** をクリックします。
2. **System BIOS (システム BIOS)** 画面で、**Network Settings (ネットワーク設定)** をクリックします。**Network Settings (ネットワーク設定)** 画面が表示されます。

ネットワーク設定画面

Network Sttings (ネットワーク設定) 画面の詳細は、次の通りです。

表 18. ネットワーク設定

メニュー項目	説明
PXE Device n (PXE デバイス n) (n は 1~4)	デバイスを有効または無効にします。有効の場合は、UEFI 起動オプションをデバイスに作成します。
PXE Device n Settings (PXE デバイス n 設定) (n は 1~4)	PXE デバイスの設定を制御できます。

内蔵デバイス詳細の編集


Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面を使用して、ビデオコントローラ、内蔵 RAID コントローラおよび USB ポートを含むすべての内蔵デバイスの設定を表示および設定することができます。

1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
2. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Integrated Devices** (内蔵デバイス) をクリックします。
Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面が表示されます。

内蔵デバイス画面の詳細

Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面の詳細は次の通りです。

表 19. 内蔵デバイス

メニュー項目	説明
USB 3.0 Setting (USB 3.0 の設定)	USB 3.0 のサポートを有効または無効にします。お使いの OS が USB 3.0 をサポートしている場合のみ、このオプションを有効にします。このオプションをオフにすると、デバイスは USB 2.0 速度で動作します。USB 3.0 はデフォルトで無効となっています。
User Accessible USB Ports (ユーザーのアクセスが可能な USB ポート)	USB ポートを有効または無効にします。 Only Back Ports On (バックポートのみをオン) を選択すると、前面 USB ポートが無効になり、 All Ports Off (すべてのポートをオフ) を選択すると、すべての USB ポートが無効になります。USB キーボードおよびマウスは、特定のオペレーティングシステム起動プロセスの間に動作します。起動プロセスが完了後、ポートが無効になっている場合、USB キーボードとマウスは機能しません。  メモ: Only Back Ports On (背面ポートのみオン) および All Ports Off (すべてのポートをオフ) を選択すると USB 管理ポートが無効になり、iDRAC 機能へのアクセスも制限されます。
Internal USB Port (内蔵 USB ポート)	内蔵 USB ポートの有効 / 無効を切り替えます。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
Integrated RAID Controller (内蔵 RAID コントローラ)	内蔵 RAID コントローラの有効 / 無効を切り替えます。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
Integrated Network Card 1 (内蔵ネットワークカード 1)	内蔵ネットワークカードの有効 / 無効を切り替えます

メニュー項目	説明
Embedded NIC1 and NIC2 (内蔵 NIC1 および NIC2)	 メモ: Embedded NIC 1 and NIC 2 オプションは Integrated Network Card (内蔵ネットワークカード 1) がないシステムでのみ使用できます。 Embedded NIC 1 および NIC 2 の有効 / 無効を切り替えます。 Disabled (無効) に設定されている場合、NIC は、組込み管理コントローラにより共有ネットワークアクセス用に引き続き使用可能となっている可能性があります。埋め込みの NIC 1 と NIC 2 オプションは NDC がないシステムでのみご利用いただけます。このオプションは、内蔵ネットワークカード 1 オプションと同時に指定することはできません。この機能をシステムの NIC 管理ユーティリティを使用するように設定してください。
I/OAT DMA エンジン	I/OAT オプションの有効 / 無効を切り替えます。ハードウェアおよびソフトウェアがこの機能をサポートしている場合にのみ有効にします。
Embedded Video Controller (組込みビデオコントローラ)	Embedded Video Controller (組込みビデオコントローラ) を有効または無効にします。デフォルトでは、内蔵ビデオコントローラは Enabled (有効) です。 Current state of Embedded Video Controller (組込みビデオコントローラの現在の状態) は Enabled (有効)です。 Current state of Embedded Video Controller (組込みビデオコントローラの現在の状態) は読み取り専用フィールドであり、組込みビデオコントローラの現在の状態を示しています。システム内で組込みビデオコントローラが表示機能のみである場合 (つまり、増設グラフィックカードが取り付けられていない)、たとえ、その組込みビデオコントローラは、設定が Disabled (無効) となっても、自動的にプライマリディスプレイとして使用されます。
Current state of Embedded Video Controller (組込みビデオコントローラの現在の状態)	Embedded Video Controller (組込みビデオコントローラ) の現在の状態が表示されます。 Current state of Embedded Video Controller (組込みビデオコントローラの現在の状態) は、読み取り専用フィールドで、組込みビデオコントローラの現在の状態を示しています。
SR-IOV Global Enable (SR-IOV グローバル有効)	SR-IOV (Single Root I/O Virtualization) デバイスの BIOS 設定の有効 / 無効を切り替えます。デフォルトでは、 SR-IOV Global Enable (SR-IOV グローバル有効) オプションは Enabled (有効) に設定されています。
OS Watchdog Timer (OS ウォッチドッグタイマー)	システムが応答を停止した場合、この OS ウォッチドッグタイマーがオペレーティングシステムのリカバリを援助します。このフィールドが Enabled (有効) に設定されていると、OS はタイマーを初期化することができます。このオプションが Disabled (無効) (デフォルト) に設定されている場合、タイマーはシステムに影響しません。
Memory Mapped I/O above 4 GB (4GB を超える I/O のメモリマップ化)	大容量メモリを必要とする PCIe デバイスのサポートの有効 / 無効を切り替えます。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
スロット無効化	お使いのシステムで利用可能な PCIe スロットの有効 / 無効を切り替えます。 Slot Disablement (スロット無効) 機能により、指定のスロットに取り付けられている PCIe カードの構成が管理されます。スロット無効の使用は、取り付けられている周辺機器 (拡張) カードによって OS の起動が妨げられているか、またはシステムの起動の遅延が生じて場合のみでなければなりません。スロットが無効になると、Option ROM と UEFI ドライバの両方が無効になります。

シリアル通信設定の編集





Serial Communication (シリアル通信) 画面を使用して、シリアル通信ポートのプロパティを表示します。

1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
2. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で **Serial Communication** (シリアル通信) をクリックします。
Serial Communication (シリアル通信) 画面が表示されます。

シリアル通信画面設定

シリアル通信 (Serial Communication) 画面の詳細は次の通りです。

表 20. シリアル通信

メニュー項目	説明
シリアル通信	BIOS でシリアル通信デバイス (シリアルデバイス 1 およびシリアルデバイス 2) を選択します。これが、BIOS コンソールのリダイレクトを選択し、ポートアドレスを指定することができるメニューです。デフォルトでは、 Serial Communication (シリアル通信) オプションは Auto (自動) に設定されています。
シリアルポートアドレス	シリアル通信では、シリアルデバイスのポートアドレスを設定することができます。デフォルトでは、 Serial Port Address (シリアルポートアドレス) オプションは Serial Device 1=COM2 (シリアルデバイス 1=COM2) 、 Serial Device 2=COM1 (シリアルデバイス 2=COM1) に設定されています。  メモ: SOL (Serial Over LAN) に使用できるのは Serial Device 2 (シリアルデバイス 2) のみです。SOL でコンソールのリダイレクトを使用するには、コンソールのリダイレクトとシリアルデバイスに同じポートアドレスを設定します。  メモ: システムを起動するたびに、BIOS は iDRAC で保存された設定でシリアル MUX を同期します。iDRAC において、シリアル MUX の設定を独立して変更することができます。したがって、BIOS セットアップユーティリティから BIOS のデフォルト設定をロードしても、シリアルデバイス 1 のデフォルト設定に戻らない場合があります。
外付けシリアルコネクタ	External Serial Connector (外付けシリアルコネクタ) では、External Serial Connector (外付けシリアルコネクタ) を Serial Device 1 (シリアルデバイス 1)、Serial Device 2 (シリアルデバイス 2) または Remote Access Device (リモートアクセスデバイス) に関連付けることができます。  メモ: SOL (Serial Over LAN) に使用できるのは Serial Device 2 (シリアルデバイス 2) のみです。SOL でコンソールのリダイレクトを使用するには、コンソールのリダイレクトとシリアルデバイスに同じポートアドレスを設定します。  メモ: システムを起動するたびに、BIOS は iDRAC で保存された設定でシリアル MUX を同期します。iDRAC において、シリアル MUX の設定を独立して変更することができます。したがって、BIOS セットアップユーティリティから BIOS のデフォルト設定をロードしても、シリアルデバイス 1 のデフォルト設定に戻らない場合があります。
フェイルセーフボーレート	コンソールのリダイレクトに使用されているフェイルセーフボーレートが表示されます。BIOS は自動的にボーレートの決定を試みます。このフェ

メニュー項目	説明
	イルセーフボーレートは、その試みが失敗した場合にのみ使用されます。また、値は変更しないでください。デフォルトでは、 Failsafe Baud Rate (フェイルセーフボーレート) オプションは 115200 に設定されています。
リモートターミナルのタイプ	リモートコンソールターミナルのタイプを設定します。デフォルトでは、 Remote Terminal Type (リモートターミナルのタイプ) オプションは VT 100/VT 220 に設定されています。
起動後のリダイレクト	オペレーティングシステム の読み込み時に BIOS コンソールのリダイレクトの有効または無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 Redirection After Boot (起動後のリダイレクト) オプションは 有効 に設定されています。

システムプロファイルの編集


System Profile Settings (システムプロファイル設定) 画面を使用して、電源管理などのシステムパフォーマンス設定を有効にできます。

1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
2. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**System Profile Settings** (システムプロファイル設定) をクリックします。
System Profile Settings (システムプロファイル設定) 画面が表示されます。

システムプロファイル画面設定

System Profile Settings (システムプロファイル設定) 画面の詳細は次の通りです。

表 21. システムプロファイル設定

メニュー項目	説明
System Profile (システムプロファイル)	システムプロファイルを設定します。 System Profile (システムプロファイル) オプションを Custom (カスタム) 以外に設定すると、残りのオプションが BIOS によって自動的に設定されます。モードを Custom (カスタム) に設定している場合に限り、残りのオプションを変更できます。デフォルトでは、 System Profile (システムプロファイル) オプションは Performance Per Watt Optimized (DAPC) (ワットあたりのパフォーマンス最適化 (DAPC)) に設定されています。DAPC は Dell Active Power Controller (Dell アクティブ電力コントローラ) の略です。  メモ: 以下のパラメータは、 System Profile (システムプロファイル) が Custom (カスタム) に設定されている場合に限り利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • CPU Power Management (システム電力管理) : CPU 電力管理を設定します。CPU Power Management (CPU 電力管理) オプションはデフォルトで System DBPM (DAPC) (システム DBPM (DAPC)) に設定されています。DBPM は Demand-Based Power Management (デマンドベースの電力管理) の略です。 • Memory Frequency (メモリ周波数) : システムメモリの速度を設定します。Maximum Performance (最大パフォーマンス)、Maximum Reliability (最大信頼度)、または特定の速度を選択することができます。 • Turbo Boost (ターボブースト) : ターボブーストモードでのプロセッサの操作を有効または無効にします。Turbo Boost (ターボブースト) オプションはデフォルトで Enabled (有効) に設定されています。 • Energy Efficient Turbo (省エネルギーターボ) : Energy Efficient Turbo (省エネルギーターボ) を有効または無効にします。

メニュー項目	説明
	<p>省エネルギーターボ (EET) は、プロセッサのコア周波数を作業負荷に基づくターボ範囲内に調節するオペレーションモードです。</p> <ul style="list-style-type: none"> C1E : プロセッサがアイドル状態の時に、プロセッサの最小パフォーマンス状態への切り替えを有効または無効にします。 C1E オプションはデフォルトで Enabled (有効) に設定されています。 C States (C ステート) : 利用可能なすべての電源状態でのプロセッサの動作を有効または無効にします。 C States (C ステート) オプションはデフォルトで Enabled (有効) に設定されています。 Collaborative CPU Performance Control : CPU 電源管理を有効または無効にします。 Enabled (有効) に設定すると、CPU 電源管理が OS DBPM およびシステム DBPM (DAPC) によって制御されます。このオプションは、デフォルトで Disabled (無効) に設定されています。 Memory Patrol Scrub (メモリパトロールスクラブ) : メモリパトロールスクラブの頻度を設定します。 Memory Patrol Scrub (メモリパトロールスクラブ) オプションはデフォルトで Standard (標準) に設定されています。 Memory Refresh Rate (メモリリフレッシュレート) : メモリリフレッシュレートを 1x または 2x に設定します。 Memory Refresh Rate (メモリリフレッシュレート) オプションはデフォルトで 1x に設定されています。 Uncore Frequency (アンコア周波数) : Processor Uncore Frequency (プロセッサアンコア周波数) を選択します。 動的モードでは、プロセッサで実行時のコアおよびアンコア全体の電源リソースを最適化できます。電力を節約、またはパフォーマンスを最適化するためのアンコア周波数の最適化は、Energy Efficiency Policy (省エネルギーポリシー) の設定の影響を受けます。 Energy Efficient Policy (エネルギー効率ポリシー) : Energy Efficient Policy (エネルギー効率ポリシー) を選択できます。 CPU はプロセッサの内部動作を操作するための設定を使用して、より高いパフォーマンスを求めると、それともより良い省電力を求めるとを判断します。 Number of Turbo Boost Enabled Cores for Processor 1 (プロセッサ 1 のターボブースト有効コア数) : <ul style="list-style-type: none">  メモ: システムに取り付けられているプロセッサが 2 台ある場合は、Number of Turbo Boost Enabled Cores for Processor 2 (プロセッサ 2 のターボブースト有効コア数) のエントリが表示されます。 <p>プロセッサ 1 でのターボブースト有効コア数を制御します。コアの最大数は、デフォルトでは有効になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> Monitor/Mwait : プロセッサ内の Monitor/Mwait 命令を有効にすることができます。Monitor/Mwait オプションはデフォルトで Custom (カスタム) を除くすべてのシステムプロファイルに対して Enabled (有効) に設定されています。 <ul style="list-style-type: none">  メモ: このオプションを無効にできるのは、Custom (カスタム) モードで C States (C ステート) オプションが無効になっている場合のみです。  メモ: Custom (カスタム) モードで C States (C ステート) が有効に設定されていると、Monitor/Mwait 設定を変更してもシステム的能力 / パフォーマンスは影響を受けません。

システムセキュリティの編集

System Security (システムセキュリティ) 画面を使用して、システムパスワード、セットアップパスワードの設定、および電源ボタンの無効化などのいくつかの設定を編集できます。



1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
2. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で **System Security** (システムセキュリティ) をクリックします。

System Security (システムセキュリティ) 画面が表示されます。

システムセキュリティ画面設定

System Security Settings (システムセキュリティ設定) 画面の詳細は次の通りです。

表 22. システムセキュリティ設定

メニュー項目	説明
Intel AES-NI	Advanced Encryption Standard Instruction Set を使用して暗号化および復号を行うことによって、アプリケーションの速度を向上させます。これはデフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
システムパスワード	システムパスワードを設定します。このオプションは、デフォルトで Enabled (有効) に設定されており、システムにパスワードジャンプが取り付けられていない場合は、読み取り専用になります。
セットアップパスワード	セットアップパスワードを設定設定します。システムにパスワードジャンプが取り付けられていない場合、このオプションは読み取り専用です。
スワードステータス	システムパスワードをロックします。デフォルトでは、 Password Status (パスワードステータスオプション) が Unlocked (ロック解除) に設定されています。
TPM セキュリティ	 メモ: TPM メニューは、TPM モジュールがインストールされている場合のみ使用可能です。 信頼済みプラットフォームモジュール (TPM) の報告モードを制御することができます。デフォルトでは、 TPM Security (TPM セキュリティ) オプションは Off (オフ) に設定されています。 TPM Status (TPM ステータス) フィールド、TPM Activation (TPM の有効化) フィールド、および Intel TXT フィールドは、TPM Status (TPM ステータス) フィールドが On with Pre-boot Measurements (起動前測定ありでオン) または On without Pre-boot Measurements (起動前測定なしでオン) のいずれかに設定されている場合に限り、変更できます。
TPM 情報	TPM の動作状態を変更します。デフォルトでは、 TPM Activation (TPM の有効化) オプションは No Change (変更なし) に設定されています。
TPM ステータス	TPM の状態が表示されます。
TPM コマンド	 注意: TPM をクリアすると、TPM 内のすべてのキーが失われます。TPM キーが失われると、OS の起動に影響するおそれがあります。 TPM の全コンテンツをクリアします。デフォルトでは、 TPM Clear (TPM のクリア) オプションは No (なし) に設定されています。
Intel TXT	Intel Trusted Execution Technology (TXT) を有効または無効にします。 Intel TXT を有効にするには、仮想化テクノロジーを有効化し、TPM セキュリティを起動前測定付きで Enabled (有効) に設定する必要があります。 Intel TXT オプションは、デフォルトで Off (オフ) に設定されています。
Power Button (電源ボタン)	システム前面にある電源ボタンを有効または無効にします。 Power Button (電源ボタン) オプションはデフォルトで Enabled (有効) に設定されています。
NMI ボタン	システム前面の NMI ボタンを有効または無効にします。デフォルトでは、 NMI Button (NMI ボタン) オプションは Enabled (有効) に設定されています。

メニュー項目	説明
AC 電源リカバリ	AC 電源が回復した後のシステムの動作を設定します。デフォルトでは、 AC Power Recovery (AC 電源の回復) オプションは Last (前回) に設定されています。
AC 電源リカバリ遅延	AC 電源が回復した後、電源投入の時期をシステムがどのようにサポートするかを設定します。デフォルトで、 AC Power Recovery Delay (AC AC 電源リカバリ遅延) オプションは Immediate (即時) に設定されています。
ユーザー定義の遅延 (60~240 秒)	AC Power Recovery Delay (AC 電源リカバリ遅延) に User Defined (ユーザー定義) オプションが選択されている場合、 User Defined Delay (ユーザー定義の遅延) を設定します。
UEFI 変数アクセス	さまざまなレベルのセキュア UEFI 変数を提供します。 標準 (デフォルト) に設定されている場合、UEFI 変数は UEFI 仕様によってオペレーティングシステムでアクセス可能です。 Controlled (制御) に設定されている場合、選択した EFI 変数は環境に保護され、新しい UEFI 起動エントリは、現在の起動順序の最後に行なわれます。
Secure Boot (安全起動)	セキュアブートを有効にします。ここでは BIOS はセキュアブートポリシーの証明書を使用して各プリブートイメージを認証します。セキュアブートはデフォルトで無効になっています。
Secure Boot Policy (セキュアブートポリシー)	セキュアブートが Standard (標準) になっている場合、BIOS はシステムの製造元のキーと証明書を使用してプリブートイメージを認証します。セキュアブートポリシーが Custom (カスタム) になっている場合、BIOS はユーザー定義のキーおよび証明書を使用します。セキュアブートポリシーはデフォルトで Standard (標準) に設定されています。
セキュアブートポリシーの概要	認証されたイメージにセキュアブートで使用する証明書とハッシュのリストを表示します。

セキュアブートカスタムポリシーの設定画面

セキュアブートカスタムポリシーの設定は、**Secure Boot Policy** (セキュアブートポリシー) が **Custom** (カスタム) に設定されている場合のみ表示されます。

System Setup Main Menu (セットアップユーティリティのメインメニュー) で、**System BIOS** (システム BIOS) → **System Security** (システムセキュリティー) → **Secure Boot Custom Policy Settings** (セキュリティーブートカスタムポリシーの設定) の順にクリックします。

Secure Boot Custom Policy Settings (セキュアブートカスタムポリシーの設定) 画面の詳細は、次の通りです。

表 23. セキュアブートカスタムポリシー設定

メニュー項目	説明
Platform Key (プラットフォームキー)	プラットフォームキー (PK) をインポート、エクスポート、削除、復元します。
Key Exchange Key Database (キー交換キーデータベース)	キー交換キー (KEK) データベース内のエントリをインポート、エクスポート、削除、または復元できます。
Authorized Signature Database (認証済み署名データベース)	認証済み署名データベース (db) のエントリをインポート、エクスポート、削除、または復元します。
Forbidden Signature Database (禁止署名データベース)	禁止されている署名のデータベース (dbx) のエントリをインポート、エクスポート、削除、または復元します。

その他の設定の編集

Miscellaneous Settings (その他の設定) 画面を使用して、資産タグの更新やシステム日付と時刻の変更といったいくつかの設定を行うことができます。


1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) にアクセスし、**System BIOS** (システム BIOS) をクリックします。
2. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で、**Miscellaneous Settings** (その他の設定) をクリックします。
Miscellaneous Settings (その他の設定) 画面が表示されます。

その他の設定画面

Miscellaneous Settings (その他の設定) 画面の詳細は、次の通りです。

表 24. その他の設定

メニュー項目	説明
System Time	System Time (システム時間) では、システムの時刻を設定することができます。
System Date	System Date (システム日付) では、システムの日付を設定することができます。
Asset Tag (資産タグ)	資産タグが表示され、セキュリティと追跡目的のためにタグを変更することができます。
キーボード NumLock	Keyboard NumLock (キーボード NumLock) では、NumLock が有効または無効のどちらの状態でもシステムが起動するかを設定することができます。 Keyboard NumLock (キーボード NumLock) はデフォルトで On (オン) に設定されています。  メモ: このフィールドは 84 キーのキーボードには適用されません。
F1/F2 Prompt on Error (エラー時 F1/F2 プロンプト)	エラー時 F1/F2 プロンプトを有効または無効にします。 F1/F2 Prompt on Error (エラー時 F1/F2 プロンプト) はデフォルトで Enabled (有効) に設定されています。F1/F2 プロンプトには、キーボードエラーも含まれます。
Load Legacy Video Option ROM (レガシービデオオプション ROM のロード)	システム BIOS がビデオコントローラからレガシービデオ (INT 10H) オプション ROM をロードするかどうかを決定できます。オペレーティングシステムで Enabled (有効) を選択すると、UEFI ビデオ出力標準はサポートされません。このフィールドは UEFI 起動モード限定です。 UEFI Secure Boot (UEFI セキュアブート) モードが Enabled (有効) の場合、このフィールドを有効に設定することはできません。
システム内特性化	このオプションは、 In-System Characterization (インシステムキャラクタライゼーション) を有効または無効にします。 In-System Characterization (インシステムキャラクタライゼーション) はデフォルトで Disabled (無効) に設定されています。他の 2 つ

メニュー項目	説明
	<p>のオプションは、Enabled（有効） および Enabled - No Reboot（有効 - 再起動なし）です。</p> <p> メモ: In-System Characterization（インシステムキャラクタライゼーション）のデフォルト設定は今後の BIOS のリリースで変更されることがあります。</p> <p>有効の場合、In-System Characterization（インシステムキャラクタライゼーション）は、システム設定における関連変更の検知時に POST 中実行され、システムの電力とパフォーマンスを最適化します。ISC の実行には約 20 秒かかり、ISC の結果を適用するにはシステムをリセットする必要があります。</p> <p>Enabled - No Reboot（有効 - 再起動なし）オプションでは、ISC を実行し、次のシステムリセットが行われるまで ISC の結果を適用せずに動作を継続します。Enabled（有効）オプションでは、ISC を実行し、システムの即時リセットを強制して ISC 結果の適用を可能にします。システムの強制リセットのため、システムの準備には時間がかかります。無効の場合、ISC は実行されません。</p>

起動マネージャについて

起動マネージャでは、ブートオプションを追加、削除、および変更することができます。また、システムを再起動せずにセットアップユーティリティとブートオプションにアクセスすることも可能です。

起動マネージャの起動

Boot Manager（起動マネージャ）画面では、起動オプションと診断ユーティリティを選択できます。

1. システムの電源を入れるか、再起動します。
2. F11 = Boot Manager というメッセージが表示されたら F11 を押します。
F11 を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを起動して再試行してください。

起動マネージャのメインメニュー

メニュー項目	説明
Continue Normal Boot (通常の起動を続行)	システムは起動順序の先頭にあるデバイスから順に起動を試みます。起動が失敗すると、システムは起動順序内の次のデバイスから起動を試みます。起動が成功するか、起動オプションがなくなるまで処理は続行されます。
One Shot Boot Menu (ワンショット起動メニュー)	起動メニューに移動し、起動するワнтаイム起動デバイスを選択できます。
Launch System Setup (セットアップユーティリティの起動)	セットアップユーティリティにアクセスできます。

メニュー項目	説明
Launch Lifecycle Controller (Lifecycle Controller の起動)	起動マネージャを閉じ、Lifecycle Controller プログラムを起動します。
System Utilities (システムユーティリティ)	システム診断および UEFI シェルなどのシステムユーティリティメニューを開きます。

起動順序の変更

USB キーまたは光学ドライブから起動する場合は、起動順序を変更する必要がある場合があります。ここに示す指示は、**Boot Mode** (起動モード) に **BIOS** を選択した場合は異なる可能性があります。


1. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティのメインメニュー) 画面で、**System BIOS** (システム BIOS) → **Boot Settings** (起動設定) の順にクリックします。
2. **Boot Option Settings** (起動オプション設定) → **Boot Sequence** (起動順序) の順にクリックします。
3. 矢印キーを使用して起動デバイスを選択し、+ キーと - キーを使用してデバイスの順番を上下に動かします。
4. 終了時に設定を保存するには、**Exit** (終了) をクリックして、**Yes** (はい) をクリックします。


システム起動モードの選択

セットアップユーティリティでは、オペレーティングシステムをインストールするための起動モードを指定することができます。

- BIOS 起動モード (デフォルト) は、標準的な BIOS レベルの起動インタフェースです。
- UEFI 起動モードは、システム BIOS にオーバーレイする UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) 仕様に基づく拡張 64 ビット起動インタフェースです。


起動モードの選択は、セットアップユーティリティの **Boot Settings** (起動設定) 画面の **Boot Mode** (起動モード) フィールドで行う必要があります。起動モードを指定すると、システムは指定された起動モードで起動し、そのモードからオペレーティングシステムのインストールに進むことができます。それ以降は、インストールしたオペレーティングシステムにアクセスするには同じ起動モード (BIOS または UEFI) でシステムを起動する必要があります。ほかの起動モードからオペレーティングシステムの起動を試みると、システムは起動時に停止します。

 **メモ:** UEFI 起動モードからインストールする OS は UEFI 対応である必要があります。DOS および 32 ビットの OS は UEFI 非対応で、BIOS 起動モードからのみインストールできます。

 **メモ:** 対応オペレーティングシステムの最新情報については、Dell.com/ossupport を参照してください。

システムパスワードおよびセットアップパスワードの割り当て

前提条件

 **メモ:** パスワードジャンプによって、システムパスワードとセットアップパスワードの機能の有効/無効を切り替えることができます。パスワードジャンプの設定に関する詳細については、「[システム基板のコネクタ](#)」を参照してください。

新しい **System Password** (システムパスワード) と **Setup Password** (セットアップパスワード) の割り当て、または既存の **System Password** (システムパスワード) と **Setup Password** (セットアップパスワード) の変更は、パスワードジャンプの設定が **enabled** (有効) で **Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) の場合のみ可能です。

パスワードジャンプの設定を無効にすると、既存の **System Password** (システムパスワード) と **Setup Password** (セットアップパスワード) は削除され、システムの起動にシステムパスワードを入力する必要がなくなります。

このタスクについて

System Password (システムパスワード) と **Setup Password** (セットアップパスワード) を割り当てるには、次の手順を実行します。

手順

1. **System Setup** (セットアップユーティリティ) にアクセスするには、電源投入または再起動の直後に **F2** を押します。
2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で **System BIOS** (システム BIOS) を選択し、**Enter** を押します。
3. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で **System Security** (システムセキュリティ) を選択し、**Enter** を押します。
4. **System Security** (システムセキュリティ) 画面で **Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) に設定されていることを確認します。
5. **System Password** (システムパスワード) を選択してシステムパスワードを入力し、**Enter** または **Tab** を押します。

以下のガイドラインに従ってシステムパスワードを設定します。


- パスワードの文字数は 32 文字までです。
- 0 から 9 までの数字を含めることができます。
- 特殊文字は、空白スペース、(")、(+)、(.)、(-)、(/)、(;)、(|)、(\)、(|)、(') のみが利用可能です。

システムパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。

6. システムパスワードをもう一度入力し、**OK** をクリックします。
7. **Setup Password** (セットアップパスワード) を選択してシステムパスワードを入力し、<Enter> または <Tab> を押します。

セットアップパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。

8. セットアップパスワードをもう一度入力し、**OK** をクリックします。
9. **Esc** を押して **System BIOS** (システム BIOS) 画面に戻ります。もう一度 **Esc** を押します。変更の保存を求めるプロンプトが表示されます。

 **メモ:** システムが再起動するまでパスワード保護機能は有効になりません。

既存のシステムパスワードおよびセットアップパスワードの削除または変更

前提条件







既存のシステムパスワードおよび / またはセットアップパスワードの削除または変更を試みる前に、パスワードジャンプが有効に設定され、**Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) になっていることを確認します。**Password Status** (パスワードステータス) が **Locked** (ロック) の場合、既存のシステムパスワードやセットアップパスワードを削除または変更することはできません。

手順

1. **System Setup** (セットアップユーティリティ) にアクセスするには、電源投入または再起動の直後に **F2** を押します。
2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) 画面で **System BIOS** (システム BIOS) を選択し、**Enter** を押します。
System BIOS (システム BIOS) 画面が表示されます。
3. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で **System Security** (システムセキュリティ) を選択し、**Enter** を押します。
System Security (システムセキュリティ) 画面が表示されます。
4. **System Security** (システムセキュリティ) 画面で **Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) に設定されていることを確認します。
5. **System Password** (システムパスワード) を選択し、既存のシステムパスワードを変更または削除して、**Enter** または **Tab** を押します。
6. **Setup Password** (セットアップパスワード) を選択し、既存のセットアップパスワードを変更または削除して、**<Enter>** または **<Tab>** を押します。
システムパスワードおよびセットアップパスワードを変更する場合は、新しいパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。システムパスワードおよびセットアップパスワードを削除する場合は、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
7. **Esc** を押して **System BIOS** (システム BIOS) 画面に戻ります。もう一度 **Esc** を押すと、変更の保存を求めるプロンプトが表示されます。

システムコンポーネントの取り付けと取り外し

安全にお使いいただくために

-  **警告:** システムを持ち上げる必要がある場合は、必ずだれかの手を借りてください。けがを防ぐため、決してシステムを一人で持ち上げようとしないでください。
-  **警告:** システムの電源が入っている状態でシステムカバーを開いたり取り外したりすると、感電するおそれがあります。
-  **注意:** システムは、カバー無しで5分以上動作させないでください。
-  **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。
-  **メモ:** デルは、システム内部のコンポーネントでの作業中は常に静電マットと静電ストラップを使用することをお勧めします。
-  **メモ:** システムの正常な動作と冷却を確保するため、システム内のすべてのベイにはモジュールまたはダミーを常時装着しておく必要があります。

システム内部の作業を始める前に

1. システムとすべての周辺機器の電源を切ります。
2. システムを電源コンセントと周辺機器から外します。
3. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
詳細については、「[前面ベゼルの取り外し](#)」を参照してください。
4. システムカバーを取り外します。
詳細については、「[システムカバーの取り外し](#)」を参照してください。

システム内部の作業を終えた後に

1. システムカバーを取り付けます。
詳細については、「[システムカバーの取り付け](#)」を参照してください。
2. オプションのベゼルを取り付けます。
詳細については、「[前面ベゼルを取り付け](#)」を参照してください。
3. システムを電源コンセントおよび周辺機器に再度接続します。
4. システムとすべての周辺機器の電源を入れます。

推奨ツール

取り外しと取り付け手順を実行するには、以下のツールが必要になります。

- ベゼルロック用のキー。これはベゼルが装着されている場合のみ必要です。
- #2 プラスドライバー

DC 電源装置ユニット (PSU) のケーブルをまとめるのに、以下のツールが必要です。

- AMP 90871-1 圧着ハンドツールまたは同等のツール
- Tyco Electronics 58433-3 または同等のもの
- サイズ 10 の AWG ソリッドワイヤまたは絶縁された銅製のより線から絶縁材を除去できる絶縁電線プライヤ

■ **メモ:** アルファワイヤパーツナンバー 3080 または同等のもの (65/30 より線) を使用します。

前面ベゼル (オプション)

前面ベゼルの取り外し

1. ベゼルの左端でベゼルロックを解除します。
2. ベゼルロックの横にあるリリースラッチを押し上げます。
3. ベゼルの左端を手前に引いてベゼル右端のフックを外し、ベゼルを取り外します。

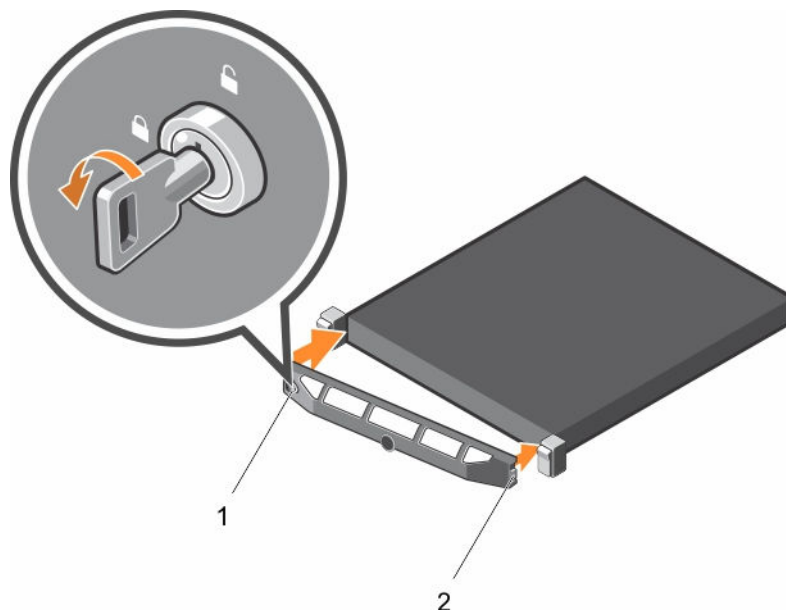


図 9. 前面ベゼルの取り外しと取り付け

前面ベゼルの取り付け

1. ベゼルの右端をシャーシに取り付けます。
2. ベゼルのもう一方の端をシステムにはめ込みます。
3. キーロックでベゼルを固定します。

システムカバーの取り外し

前提条件

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. システムとすべての周辺機器の電源を切ります。
3. システムを電源コンセントと周辺機器から外します。
4. オプションのベゼルを取り外します。詳細については、[「前面ベゼルの取り外し」](#)を参照してください。

手順

1. ラッチリリースロックをロック解除位置に回します。
2. カバーリリースラッチを持ち上げて、システムカバーを取り外します。

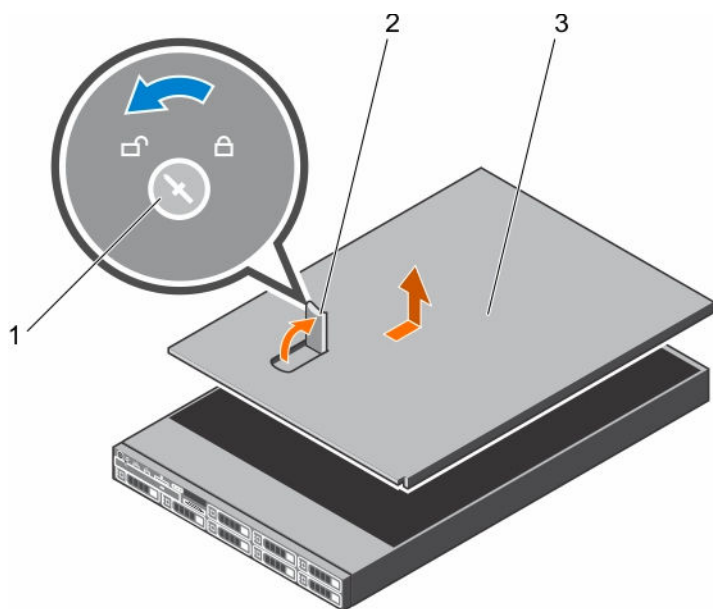


図 10. システムの取り外しと取り付け

- | | |
|---------------|------------|
| 1. ラッチリリースロック | 2. システムカバー |
| 3. ラッチ | |

システムカバーの取り付け

前提条件

「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。

手順

1. システムカバーのスロットをシャーシのタブに合わせます。
2. カバーリリースラッチを押し、ラッチが所定の位置にロックされるまでカバーをシャーシの前方に向かって押します。
3. ラッチリリースロックを時計方向に回してロック位置にします。
4. オプションのベゼルを取り付けます。
5. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

システムの内部

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

✍ メモ: ホットスワップ対応のコンポーネントは橙色、コンポーネントのタッチポイントは青色で示してあります。

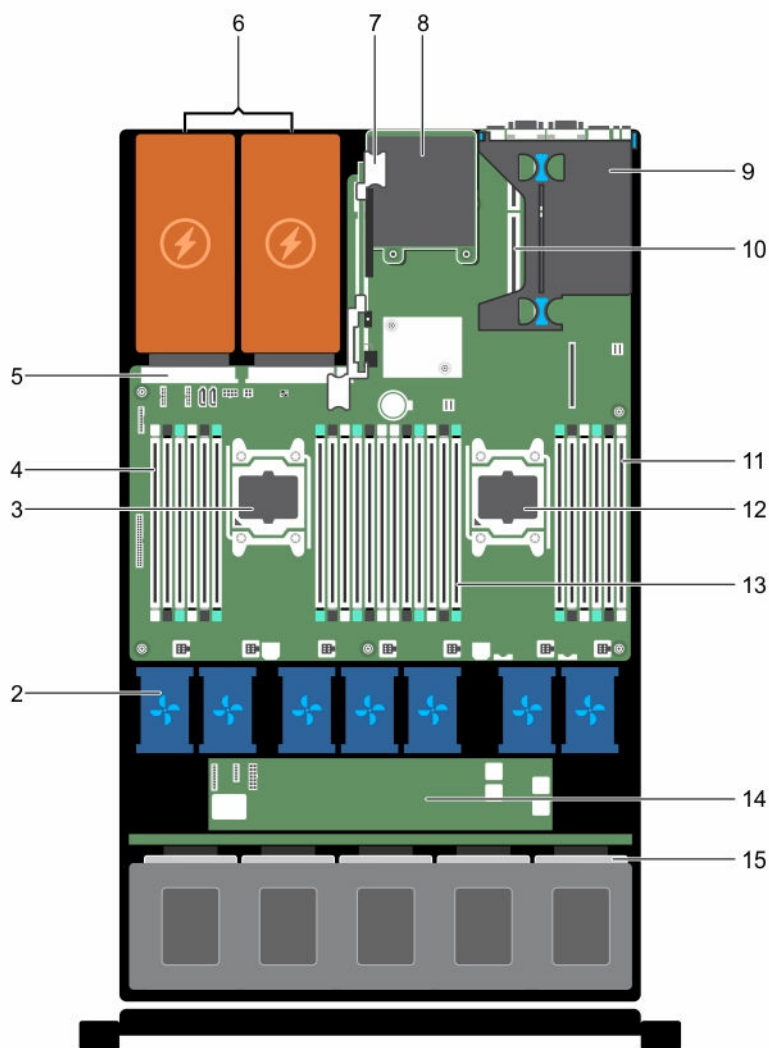


図 11. システムの内部 – ハードドライブ 10 台搭載システム

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. コントロールパネルアセンブリ | 2. 冷却ファン (7) |
| 3. プロセッサ 1 | 4. DIMM (6) |
| 5. PSU コネクタ | 6. 電源装置 (2) |
| 7. ライザーカード 3 | 8. ネットワーク daughterカード |
| 9. ライザーカード 1 | 10. ライザーカード 2 |
| 11. DIMM (6) | 12. プロセッサ 2 |
| 13. DIMM (12) | 14. エクспанダボード |
| 15. ハードドライブ | |

冷却エアフローカバー

冷却エアフローカバーの取り外し

前提条件

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理(内部作業)による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ 注意: 冷却用エアフローカバーを取り外した状態でシステムを使用しないでください。システムが急激にオーバーヒートする可能性があり、システムのシャットダウンや、データ損失の原因となります。

手順

タッチポイントを持ち、冷却エアフローカバーを持ち上げてシステムから取り外します。

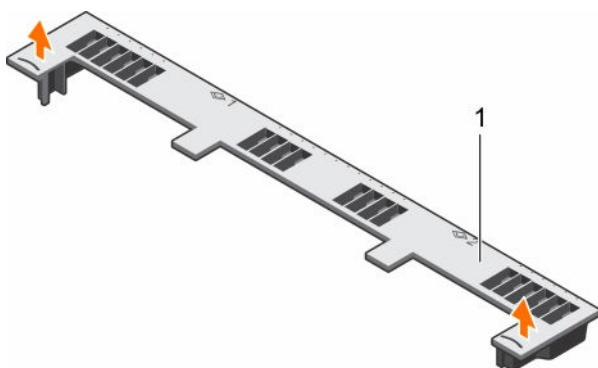


図 12. 冷却エアフローカバーの取り外しと取り付け

1. 冷却エアフローカバー

次の手順

1. 冷却エアフローカバーを取り付けます。
2. 「[システム内部の作業のあとに](#)」に記載の手順に従います。

冷却エアフローカバーの取り付け

前提条件

- 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理(内部作業)による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

📌 メモ: 冷却エアフローカバーをシャーシに正しく装着するため、システム内のケーブルがシャーシ側面に沿って配線されており、ケーブル固定ブラケットで固定されていることを確認してください。

手順


1. 冷却エアフローカバーのタブをシャーシの固定スロットに合わせます。
2. しっかりと装着されるまで、冷却エアフローカバーをシャーシに押し下げます。

次の手順

[「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。

システムメモリ


お使いのシステムは、DDR 4 レジスタ DIMM (RDIMM)、および負荷軽減 DIMM (LRDIMM) をサポートしています。

 **メモ:** MT/s は DIMM の速度単位で、MegaTransfers/ 秒の略語です。

メモリバスの動作周波数は、以下の要因に応じて 1333 MT/s、1600 MT/s、1866 MT/s、2133 MT/s になります。

- DIMM のタイプ (RDIMM または LRDIMM)
- 各チャンネルに装着されている DIMM の数
- 選択されているシステムプロファイル (たとえば、Performance Optimized (パフォーマンス重視の構成)、Custom (カスタム)、または Dense Configuration Optimized (密な構成の最適化))
- プロセッサでサポートされている DIMM の最大周波数

システムにはメモリソケットが 24 個あり、12 個ずつの 2 セット (各プロセッサに 1 セット) に分かれています。ソケット 12 個の各セットは、4 つのチャンネルで構成されています。どのチャンネルも、最初のソケットのリリースレバーは白、2 番目のソケットのレバーは黒、3 番目のソケットのレバーは緑に色分けされています。

 **メモ:** ソケット A1 ~ A12 の DIMM はプロセッサ 1 に、ソケット B1 ~ B12 の DIMM はプロセッサ 2 に割り当てられています。

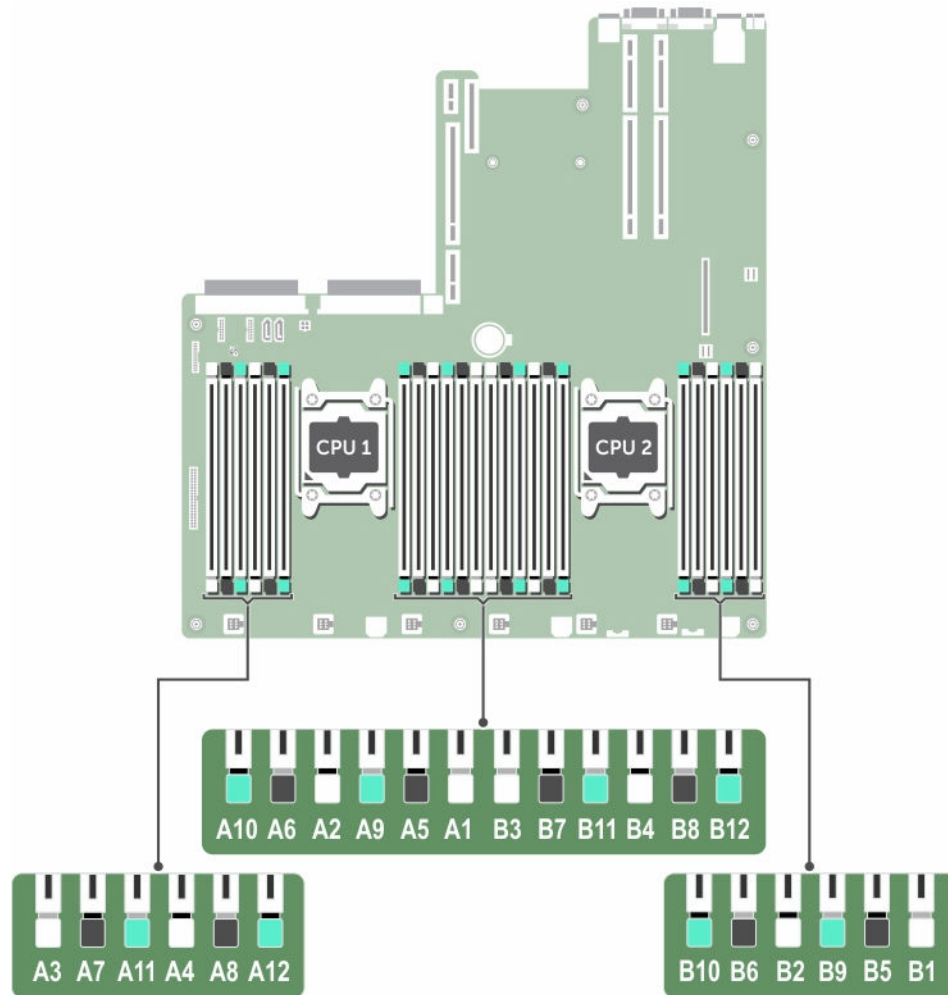


図 13. メモリソケットの位置

メモリチャネルの構成は次のとおりです。

- | | |
|----------------|--------------------------|
| プロセッサ 1 | チャンネル 0 : スロット A1、A5、A9 |
| | チャンネル 1 : スロット A2、A6、A10 |
| | チャンネル 2 : スロット A3、A7、A11 |
| | チャンネル 3 : スロット A4、A8、A12 |
| プロセッサ 2 | チャンネル 0 : スロット B1、B5、B9 |
| | チャンネル 1 : スロット B2、B6、B10 |
| | チャンネル 2 : スロット B3、B7、B11 |
| | チャンネル 3 : スロット B4、B8、B12 |

次の表は、サポートされている構成のメモリ装着と動作周波数を示したものです。

表 25. メモリ構成の例

DIMM のタイプ	装着 DIMM/ チャンネル	動作周波数 (単位 : MT/s)	最大 DIMM ランク / チャンネル
1.2 V			
RDIMM	1	2133、1866、1600、1333	デュアルランクまたはシングルランク
	2	2133、1866、1600、1333	デュアルランクまたはシングルランク
	3	1866、1600、1333	デュアルランクまたはシングルランク
LRDIMM	1	2133、1866、1600、1333	クアッドランク
	2	2133、1866、1600、1333	クアッドランク
	3	1866、1600、1333	クアッドランク


メモリモジュール取り付けガイドライン

このシステムは、あらゆる有効なチップセットアーキテクチャ構成でシステムを設定することが可能なフレキシブルメモリ構成をサポートしています。メモリモジュール取り付けの推奨ガイドラインは次のとおりです。

- RDIMM と LRDIMM を併用しないでください。
- x4 と x8 DRAM ベースの DIMM は併用できます。詳細については、「[モードごとのガイドライン](#)」を参照してください。
- デュアルまたはシングルランク RDIMM をチャンネルごとに 3 枚まで装着できます。
- ランクカウントに関係なく、LRDIMM は 3 枚まで装着できます。
- プロセッサが取り付けられている場合に限り、DIMM ソケットに DIMM を装着してください。シングルプロセッサシステムの場合は、ソケット A1 ~ A12 が使用できます。デュアルプロセッサシステムの場合は、ソケット A1 ~ A12 と B1 ~ B12 が使用できます。
- 白のリリースタブがついているソケットに最初に、次に黒、緑の順に、すべてのソケットに装着してください。
- ソケットはランクの高いものから次の順序で装着します。白のリリースレバーが付いているソケットに最初に、次に黒、緑の順です。たとえば、シングルランクとデュアルランクの DIMM を併用する場合は、白のリリースタブが付いているソケットにデュアルランク DIMM を装着して、黒のリリースタブが付いているソケットにシングルランク DIMM を装着します。
- 容量の異なるメモリモジュールを併用する際は、最大容量を持つメモリモジュールをソケットに装着します。たとえば、4 GB と 8 GB の DIMM を併用する場合は、白色のリリースタブがついているソケットに 8 GB の DIMM を装着し、黒色のリリースタブが付いているソケットに 4 GB の DIMM を装着します。
- デュアルプロセッサ構成では、各プロセッサのメモリ構成は同一でなければなりません。たとえば、プロセッサ 1 のソケット A1 に DIMM を装着した場合、プロセッサ 2 はソケット B1 に (...以下同様) DIMM を装着する必要があります。
- 他のメモリ装着ルールが守られていれば、異なる容量のメモリモジュールを併用できます (たとえば、4 GB と 8 GB のメモリモジュールを併用できます)。
- システム内で 2 つ以上の DIMM を併用することはできません。
- パフォーマンスを最大にするには、各プロセッサにつき 4 枚の DIMM を一度に装着してください (各チャンネルに DIMM 1 枚)。

モードごとのガイドライン

各プロセッサに4つのメモリチャンネルが割り当てられます。使用可能な構成は、選択するメモリモードによって異なります。

-  **メモ:** x4 と x8 DRAM ベースの DIMM が併用でき、RAS 特性がサポートされます。ただし、特定の RAS 特性に関するすべてのガイドラインに準拠している必要があります。x4 DRAM ベースの DIMM は、メモリ最適化 (独立チャンネル) モードで SDDC (Single Device Data Correction) を維持します。x8 DRAM ベースの DIMM が SDDC を獲得するには、アドバンス ECC モードを必要とします。


以下の各項では、各モードの詳しいメモリ装着ガイドラインを説明します。

アドバンス ECC (ロックステップ)

Advanced ECC (アドバンス ECC) モードでは、SDDC が x4 DRAM ベースの DIMM から x4 と x8 の両方の DRAM に拡張されます。これにより、通常動作中のシングル DRAM チップ障害から保護されます。

メモリ取り付けガイドライン:


- メモリモジュールは、サイズ、速度、テクノロジーが同一のものを取り付けてください。
- 白のリリースレバーが付いているメモリソケットには同一の DIMM を取り付ける必要があります、黒色のリリースタブが付いているソケットについても、同様のルールが当てはまります。このルールに従うことで、同一の DIMM が確実にペアで取り付けられます。たとえば、A1 と A2、A3 と A4、A5 と A6 ... という具合です。

-  **メモ:** アドバンス ECC でのミラーリングはサポートされていません。

メモリ最適化 (独立チャンネル) モード


このモードでは、使用するデバイス幅が x4 のメモリモジュールの場合のみ SDDC がサポートされます。特定のスロット装着の要件はありません。

メモリスペアリング

-  **メモ:** メモリスペアリングを使用するには、セットアップユーティリティでこの機能を有効にする必要があります。

このモードでは、各チャンネルにつき1ランクがスペアとして予約されます。いずれかのランクで修正可能なエラーが絶えず検知される場合、そのランクからのデータがスペアランクにコピーされ、障害の発生したランクは無効になります。

メモリスペアリングを有効にすると、オペレーティングシステムが利用できるシステムメモリは各チャンネルとも1ランク少なくなります。たとえば、4 GB のデュアルランク DIMM を 16 枚使用するデュアルプロセッサ構成では、利用可能なシステムメモリは $16 \text{ (DIMM)} \times 4 \text{ GB} = 64 \text{ GB}$ とはならず、 $3/4 \text{ (ランク / チャンネル)} \times 16 \text{ (DIMM)} \times 4 \text{ GB} = 48 \text{ GB}$ となります。

-  **メモ:** メモリスペアリングは、マルチビットの修正不能なエラーには対応できません。

-  **メモ:** Advanced ECC/Lockstep (アドバンス ECC/ロックステップ) モードと Optimizer (オプティマイザ) モードは、どちらもメモリスペアリングをサポートしています。

メモリミラーリング

メモリミラーリングは他のどのモードよりも DIMM の信頼性に優れており、向上された修正不能マルチビットエラー保護を提供します。ミラーリング設定では、使用可能なシステムメモリ総量が取り付けられた総物理メモリの2分の1になります。取り付けられたメモリの半分は、アクティブな DIMM のミラーリングに使

用されます。修正不能なエラーが発生した場合、システムはミラーリングされたコピーに切り替えられます。これにより、SDDC とマルチビットの保護が確保されます。

メモリ取り付けガイドライン：

- メモリモジュールは、サイズ、速度、テクノロジーが同一のものを取り付けてください。
- 白のリリースレバーが付いているメモリソケットには同一の DIMM を取り付ける必要があります、黒色および緑色のリリースタブが付いているソケットについても、同様のルールが当てはまります。このルールに従うことで、同一の DIMM が確実にペアで取り付けられます。たとえば、A1 と A2、A3 と A4、A5 と A6 ... という具合です。

メモリ構成の例

該当するメモリのガイドラインに則したメモリの構成例（プロセッサが 1 基および 2 基の場合）を以下の表に示します。


 **メモ:** 以下の表で、1R、2R、4R はそれぞれ、シングル、デュアル、クアッドランクの DIMM を表します。

表 26. メモリ構成 – プロセッサ 2 基

システムの容量 (GB)	DIMM のサイズ (GB)	DIMM の枚数	DIMM のランク、構成、周波数	装着する DIMM スロット
64	16	4	2R、x4、2133 MT/s、 2R、x4、1866 MT/s、	A1、A2、B1、B2
128	16	8	2R、x4、2133 MT/s、 2R、x4、1866 MT/s、	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4
256	16	16	2R、x4、2133 MT/s、 2R、x4、1866 MT/s、	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8
384	16	24	2R、x4、2133 MT/s、 2R、x4、1866 MT/s、	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12
512	32	16	LRDIMM、4R、x4、2133 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8
768	32	24	RDIMM、4R、x4、2133 MT/s LRDIMM、4R、x4、2133 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12
1500	64	24	RDIMM、4R、x4、2133 MT/s LRDIMM、4R、x4、1600 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、A7、A8、A9、A10、A11、A12、B1、B2、B3、B4、B5、B6、B7、B8、B9、B10、B11、B12

メモリモジュールの取り外し

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#)に記載の手順に従います。
3. 冷却用エアフローカバーを取り外します。

⚠ 警告: メモリモジュールは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。メモリモジュールが冷えるのを待ってから作業してください。メモリモジュールはカードの両端を持って取り扱い、メモリモジュールのコンポーネントまたは金属製の接触部には触らないようにしてください。

△ 注意: システムの適切な冷却状態を維持するため、メモリモジュールを取り付けないメモリソケットには、メモリモジュールダミーを取り付ける必要があります。メモリモジュールダミーは、それらのソケットにメモリモジュールを取り付ける予定の場合にのみ取り外すようにしてください。

手順

1. 該当するメモリモジュールソケットの位置を確認します。

△ 注意: 各モジュールは、カードの端だけを持ち、メモリモジュールの中央部や金属の接触部に触れないように取り扱ってください。

2. メモリモジュールをソケットから解除するには、メモリモジュールソケットの両端にあるイジェクタを同時に押します。

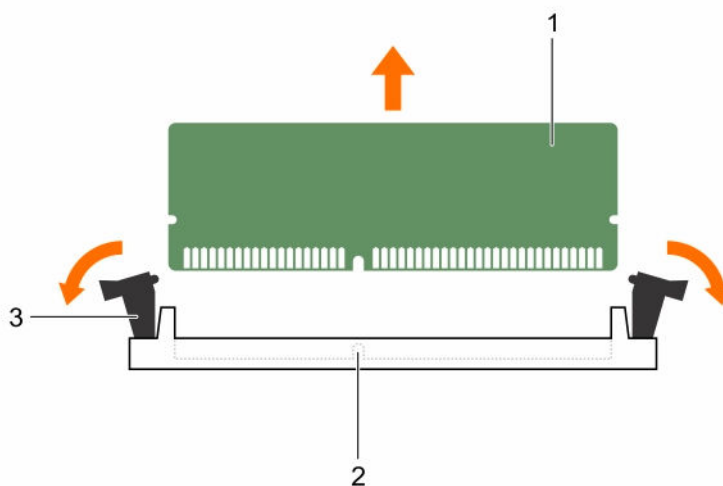


図 14. メモリモジュールの取り外しと取り付け


1. メモリモジュール

2. メモリモジュールソケット


3. メモリモジュールソケットのイジェクト
(2)

メモリモジュールの取り付け

前提条件


 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。
3. 冷却エアフローカバーを取り外します。
4. 冷却ファンアセンブリの取り外し


 **警告:** メモリモジュールは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。メモリモジュールが冷えるのを待ってから作業してください。メモリモジュールはカードの両端を持って取り扱い、メモリモジュールのコンポーネントまたは金属製の接触部には触らないようにしてください。


手順

1. 該当するメモリモジュールソケットの位置を確認します。


 **注意:** 各モジュールは、カードの端だけを持ち、メモリモジュールの中央部や金属の接触部に触れないように取り扱ってください。


2. ソケットにメモリモジュールまたはメモリモジュールダミーが取り付けられている場合は、それを取り外します。

 **メモ:** 取り外したメモリモジュールダミーは、今後の使用のため保管しておきます。

 **注意:** 取り付け中のメモリモジュール、またはメモリモジュールソケットへの損傷を防ぐため、メモリモジュールを折ったり曲げたりしないでください。メモリモジュールの両端は同時に挿入してください。

3. メモリモジュールのエッジコネクタをメモリモジュールソケットの位置合わせキーに合わせ、メモリモジュールをソケット内に挿入します。

 **メモ:** メモリモジュールソケットには位置合わせキーがあり、メモリモジュールは一方方向にしか取り付けられないようになっています。

 **注意:** メモリモジュールの中央にかけないようにしてください。メモリモジュールの両端に均等に力を加えてください。

4. ソケットレバーが所定の位置にしっかりと収まるまで、メモリモジュールを親指で押し込みます。

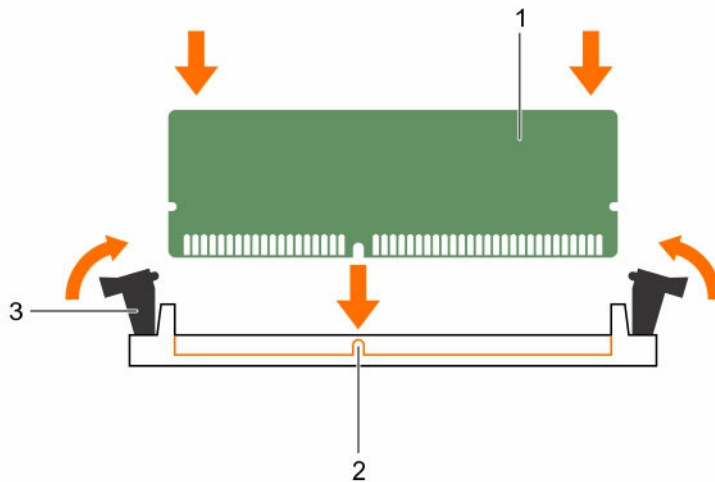


図 15. メモリモジュールの取り付け

1. メモリモジュール
2. 位置合わせキー
3. メモリモジュールソケットのイジェクタ
(2)

メモリモジュールがソケットに適切に装着されると、メモリモジュールソケットのレバーがメモリモジュールが装着されている別のソケットのレバーと同じ位置に揃います。

5. 本作業の手順 1~4 を繰り返して、残りのメモリモジュールを取り付けます。

次の手順

1. 冷却エアフローカバーを取り付けます。
2. 「[システム内部の作業のあとに](#)」に記載の手順に従います。
3. F2 を押してセットアップユーティリティを起動し、**System Memory** (システムメモリ) 設定を確認します。システムは、取り付けられたメモリを反映するためにすでに値を変更しています。
4. 値が正しくない場合、1つ、または複数のメモリモジュールが適切に取り付けられていない可能性があります。本手順の手順 1~4 を繰り返して、メモリモジュールがそれぞれのソケットにしっかりと装着されていることをチェックしてください。
5. システム診断プログラムでシステムメモリのテストを実行します。

ハードドライブ

全てのハードディスクドライブは、ハードディスクドライブバックプレーンを介してシステム基板に接続されます。ハードディスクドライブは、ハードディスクドライブスロットに収まるホットスワップ対応ハードディスクドライブキャリア内に設置されます。

△ **注意:** システムの動作中にハードドライブを取り付けたり取り外したりする前に、ストレージコントローラカードのマニュアルを参照して、ホットスワップ対応ハードドライブの取り外しと挿入をサポートするように、ホストアダプタが正しく設定されていることを確認します。

△ 注意: ハードドライブのフォーマット中は、システムの電源を切ったり、再起動を行ったりしないでください。ハードドライブの故障の原因となります。

✎ メモ: ハードドライブバックプレーン用として使用が認められているテスト済みのハードドライブのみを使用してください。

ハードドライブをフォーマットする場合は、フォーマットの完了までに十分な時間の余裕をみておいてください。大容量のハードドライブはフォーマットに数時間を要する場合があります。

2.5 インチハードドライブダミーの取り外し

前提条件

△ 注意: システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブスロットすべてにハードドライブダミーを取り付ける必要があります。

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。

手順

リリースボタンを押し、ハードドライブダミーをハードドライブスロットから引き出します。

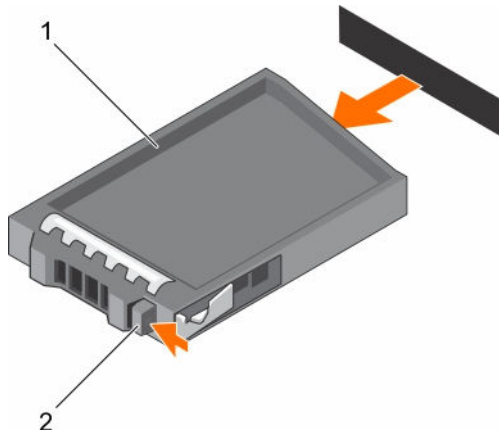


図 16. 2.5 インチハードドライブダミーの取り外しと取り付け

1. ハードドライブダミー
2. リリースボタン

2.5 インチハードドライブダミーの取り付け

前提条件

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。

手順

リリースボタンがカチッと固定されるまで、ハードドライブダミーをハードドライブスロットに挿入します。

次の手順

前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

ホットスワップ対応ハードドライブの取り外し

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「安全にお使いいただくための注意」を必ずお読みください。
2. 必要に応じて、ベゼルを取り外します。

✎ メモ: データの損失を防ぐために、お使いのオペレーティングシステムがホットスワップ対応ドライブの取り付けに対応していることを確認してください。お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

手順

1. リリースボタンを押してハードドライブキャリアリリースハンドルを開きます。
2. ハードドライブキャリアをハードドライブスロットから引き出します。

△ 注意: システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブスロットすべてにハードドライブダミーを取り付ける必要があります。

3. すぐにハードドライブを取り付けない場合は、空のハードドライブスロットにハードドライブのダミーを挿入します。

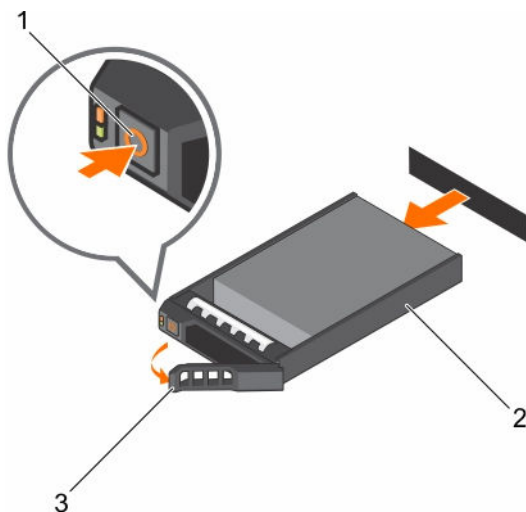


図 17. ホットスワップ対応 HDD または SSD の取り外しと取り付け

1. リリースボタン
2. ハードドライブキャリア
3. ハードドライブキャリアハンドル

ホットスワップ対応ハードドライブの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。

△ 注意: ハードドライブバックプレーン用として使用が認められているテスト済みのハードドライブのみを使用してください。

△ 注意: ハードディスクドライブの取り付け時は、隣接するドライブが完全に取り付けられている事を確認してください。完全に取り付けられていないキャリアの隣にハードディスクキャリアを挿入してハンドルをロックしようとする、完全に取り付けられていないキャリアのシールドバネが損傷し、使用できなくなる可能性があります。

△ 注意: データの損失を防ぐために、お使いのオペレーティングシステムがホットスワップによるドライブの取り付けに対応していることを確認してください。お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

△ 注意: ホットスワップ対応の交換用ハードディスクドライブを取り付け、システムの電源を入れると、ハードディスクドライブの再構築が自動的に始まります。交換用ハードディスクドライブが空であるか、または上書きしてよいデータのみが格納されていることの確認を確実に行ってください。交換用ハードディスクドライブ上のデータはすべて、ハードディスクドライブの取り付け後ただちに失われます。

手順

1. ハードディスクドライブスロットにハードディスクドライブダミーが取り付けられている場合は、ダミーを取り外してください。
2. ハードドライブをハードドライブキャリアに取り付けます。詳細については、「[ハードドライブキャリアへのハードドライブの取り付け](#)」を参照してください。
3. ハードディスクドライブキャリア前面のリリースボタンを押して、ハードディスクドライブのハンドルを開きます。
4. ハードディスクドライブキャリアがバックプレーンに接続されるまで、キャリアをハードディスクドライブスロットに挿入します。
5. ハードディスクドライブのキャリアハンドルを閉じて、ハードディスクドライブを所定の位置にロックします。

次の手順

オプションの前面ベゼルを取り付けます。

ハードドライブキャリアからのハードドライブの取り外し

前提条件

1. #1 プラスドライバを手元に用意します。
2. ハードドライブキャリアをシステムから取り外します。

手順

1. ハードドライブキャリアのスライドレールからネジを外します。
2. ハードドライブを持ち上げてハードドライブキャリアから取り出します。

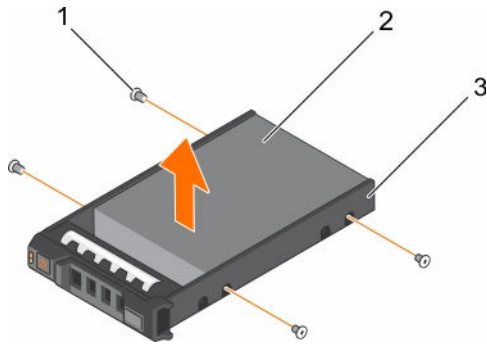


図 18. ハードドライブの取り外しとハードドライブキャリアへの取り付け

- | | |
|----------------|------------|
| 1. ネジ (4) | 2. ハードドライブ |
| 3. ハードドライブキャリア | |

ハードドライブキャリアへのハードドライブの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

#1 プラスドライバーを手元に用意します。

手順

1. ハードディスクドライブのコネクタ側をキャリア後部に向けて、ドライブをハードディスクドライブキャリアに挿入します。
2. ハードドライブのネジ穴をハードドライブキャリアのネジ穴のセットに合わせます。
正しく揃うと、ハードドライブの背面がハードドライブキャリアの背面と同一面に揃います。
3. ネジを取り付けて、ハードドライブをハードドライブキャリアに固定します。

SATADOM

SATADOM は、標準 SATA データ接続が内蔵された disk-on-module (DOM) フォームファクタです。デフォルトで、SATADOM には電源ケーブルが取り付けられており、読み取り / 書き込み位置に設定されています。

SATADOM は オンボード SATA コントローラを使用するため、追加のコントローラを必要としません。

Nutanix では、データドライブとは個別のコントローラ上に起動デバイスがあるため、システムのディスクパフォーマンスが向上します。

SATADOM に関する重要な情報

XC シリーズアプライアンスに同梱の SATA Disk - On - Motherboard (SATADOM) は、アプライアンスの起動デバイスとして使用することを意図しています。

 **メモ:** 書き込み集中型のアクティビティおよび XC アプライアンスによって利用されるプロセスは、起動デバイスではなく SSD および HDD 上で実行されるようになっていきます。

ハイパーバイザーの起動デバイスは、アプリケーションでの使用を意図していません。

 **警告:** 書き込み集中型のソフトウェアをさらに **SATADOM** に起動ディスクに追加すると、設計された仕様以上にデバイスが摩耗し、その結果として早期にハードウェア障害が発生します。

ハイパーバイザーオペレーティングシステムでアプリケーションを実行しないでください。

書き込み集中型アプリケーションの例


以下は、書き込み集中型アプリケーションの例です。

- System Center エージェント。
 - System Center Configuration Manager (CCMExec.exe)。
 - System Center Operations Manager (MonitoringHost.exe)。
- 書き込み集中型エージェント。
- データベース。
- ディスク管理ユーティリティ (サードパーティのディスクデフラグまたはパーティションツール)。
- アプライアンスの意図される使用以外の追加ロール (Web サーバー、ドメインコントローラ、RDS、など)。
- クライアントベースのアンチウイルス。
- SATADOM で直接仮想マシンを実行。仮想マシンは、ソリッドステートドライブ (SSD) およびハードディスクドライブ (HDD) 上で実行してください。

SATADOM の取り外し


前提条件


1. 「[安全にお使いいただくために](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. テープバックアップユニット (TBU) の電源コネクタから、電源ケーブルを外します。
2. SATADOM のロックリリースを押して、SATADOM をシステムから上方に引き出します。

 **メモ:** SATADOM を取り外したら、再利用、返品、または一時的な保管のために静電気防止パッケージに入れておきます。

 **メモ:** デルでは、SATADOM の読み取り / 書き込みデフォルト設定は変更しないことをお勧めします。

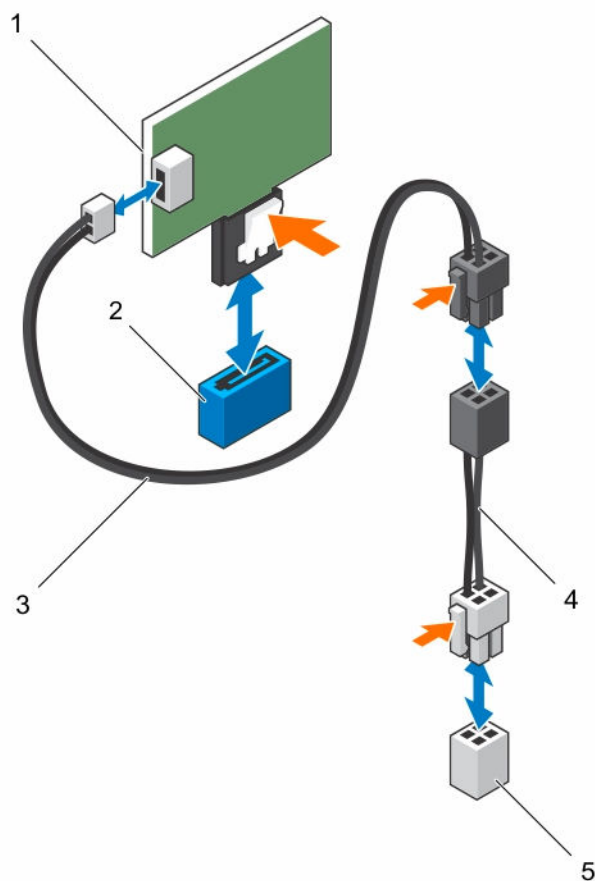


図 19. SATADOM の取り外しと取り付け

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. SATADOM | 2. SATA コネクタ |
| 3. 電源ケーブル | 4. 電源アダプタ |
| 5. SATADOM TBU 電源コネクタ | |

次の手順


「[システム内部の作業を終えた後に](#)」に記載の手順に従います。

SATADOM の取り付け

前提条件


1. 「[安全にお使いいただくために](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** デルでは、SATADOM の読み取り / 書き込みデフォルト設定は変更しないことをお勧めします。

手順

1. SATADOM のロックリリースを押し、システム基板にある優先 SATADOM コネクタに SATADOM を差し込みます。

 **メモ:** 優先 SATADOM コネクタは SATA9 であり、青色表示です。黒色表示の SATA8 コネクタを使用することも可能です。


2. システム基板の SATADOM TBU 電源コネクタに電源ケーブルを接続します。

次の手順

[「システム内部の作業を終えた後に」](#)に記載の手順に従います。

冷却ファン


お使いのシステムは、ホットスワップ対応の冷却ファンをサポートします。


 **メモ:** 特定のファンに問題が発生した場合には、システム管理ソフトウェアによってファン番号が示されるため、冷却ファンアセンブリ上のファン番号をメモして、問題のファンを容易に識別し、交換することができます。


冷却ファンの取り外し


前提条件


1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#)に記載の手順に従います。

 **警告:** システムの電源が入っている状態でシステムカバーを開いたり取り外したりすると、感電するおそれがあります。冷却ファンの取り外しや取り付けの際には、細心の注意を払ってください。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **注意:** 冷却ファンはホットスワップ対応です。システムの電源が入っている間にも適切な冷却を維持するため、ファンは一度に一台のみを交換するようにしてください。

 **注意:** カバーを取り外した状態で 5 分間以上システムを使用しないでください。

 **メモ:** 各ファンの取り外し手順は同じです。

手順

ファンをつかみ、持ち上げてシステムから取り外します。

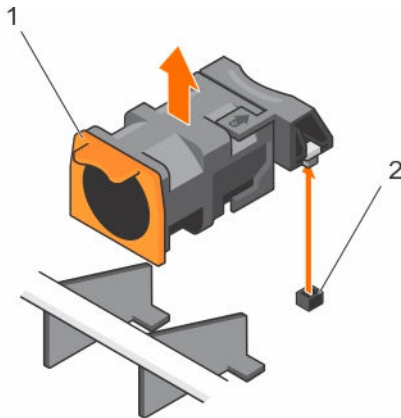


図 20. 冷却ファンの取り外しと取り付け

1. 冷却ファン (7)

2. 冷却ファンコネクタ (7)

冷却ファンの取り付け

前提条件

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 冷却ファンの底部にあるプラグをシステム基板のコネクタに合わせます。
2. タブが所定の位置にロックされるまで、冷却ファンを固定スロットに挿入します。

次の手順

「[システム内部の作業のあとに](#)」に記載の手順に従います。

拡張カードと拡張カードライザー

✍ **メモ:** 拡張カードライザーがないか、サポートされていない場合、SEL イベントとして記録されます。システムの電源がオンになるのに支障はなく、BIOS POST メッセージも F1/F2 一時停止のメッセージも表示されません。

拡張カードの取り付けガイドライン

お使いのシステムは PCI Express Generation 3 拡張カード対応です。

表 27. 3 枚の PCIe 拡張カードをサポートするシステム

ライザー	PCIe スロット	プロセッサの接続	高さ	長さ	リンク幅	スロット幅
1	1	プロセッサ 2	ロープロファイル	ハーフレンジス	x16	x16
1	2	プロセッサ 2	ロープロファイル	ハーフレンジス	x8	x16
3	3	プロセッサ 1	ロープロファイル	ハーフレンジス	x16	x16





 **メモ:** ライザー 1 スロットを使用するには、両方のプロセッサを取り付ける必要があります。

表 28. 2 枚の PCIe 拡張カードをサポートするシステム

ライザー	PCIe スロット	プロセッサの接続	高さ	長さ	リンク幅	スロット幅
2	1	プロセッサ 1	ロープロファイル	ハーフレンジス	x8	x16
		プロセッサ 2	ロープロファイル	ハーフレンジス	x16	x16

 **メモ:** ライザー 3 の PCIe 拡張カードスロット (スロット 2) では、3/4 レングスのカードのみサポートされます。

 **メモ:** 3 枚の PCIe カードを備えたサーバーの場合、MiniSAS HD サードパーティカードのみスロット 3 でサポートされます。2 枚の PCIe カードを備えたサーバーの場合、MiniSAS HD サードパーティカードのみスロット 1 でサポートされます。

 **メモ:** 拡張カードを取り付けることができるのは、ライザー 2 上の 1 スロットのみです。

次の表は、冷却効果が確保され機械的にも適合するように拡張カードを取り付けるためのガイドです。表に示すスロットの優先順位に従って、優先度の最も高い拡張カードを最初に取り付ける必要があります。その他すべての拡張カードは、カードの優先順位とスロットの優先順位に従って取り付けてください。

表 29. 拡張カードの取り付け優先順位

カードの優先順位	カードの種類	最大 3 枚の PCIe 拡張カードをサポートするシステム	
		スロットの優先順位	可能な枚数
1	PCIe ブリッジ	1	1
2	10 Gb NIC	3、2、1	3
3	1 Gb NIC	3、2、1	3
4	オンボード RAID	内蔵スロット	1
5	NDC	内蔵スロット	1

拡張カードの取り外し


前提条件

1. 「安全にお使いいただくために」の項に記載された安全ガイドラインに従ってください。
2. 「システム内部の作業を始める前に」の項に記載された手順に従います。

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。ユーザーは、製品マニュアルで許可されている範囲で、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示に従って、トラブルシューティングと簡単な修理を行う必要があります。デルで認められていない修理による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 拡張カードまたは拡張カードライザーに取り付けられているケーブルをすべて外します。
2. 拡張カードを取り外すには、拡張カードラッチを持ち上げます。
3. 拡張カードの端を持ち、ライザーの拡張カードコネクタから取り外します。
4. 拡張カードを取り外したままにする場合は、空の拡張スロットの開口部に金属製のフィラーブラケットを取り付け、拡張カードラッチを閉じます。

 **メモ:** システムが米国連邦通信委員会（FCC）の認証を維持するために、空いている拡張スロットにダミーブラケットを取り付けてください。また、ダミーブラケットはゴミやホコリがシステムに入るのを防ぎ、システム内部の適正な冷却と通気を助ける働きがあります。

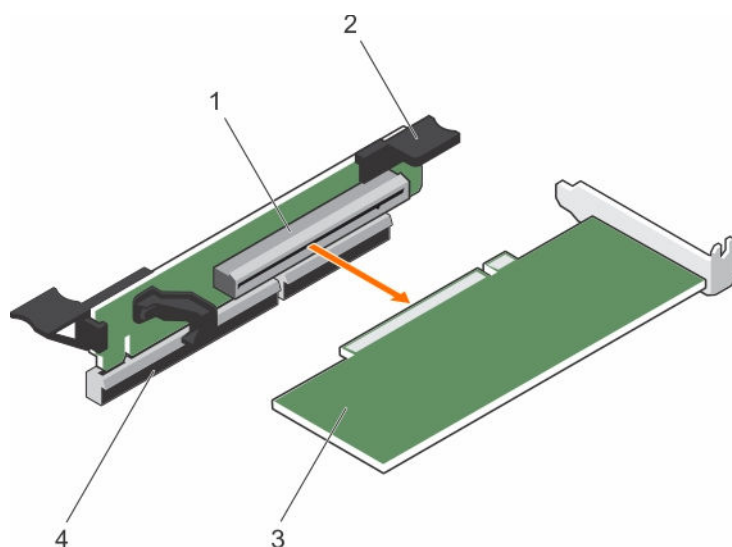


図 21. 拡張カードの取り外しと取り付け

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 拡張コネクタ | 2. 拡張カードラッチ |
| 3. 拡張カード | 4. 拡張カードラッチ |

次の手順

「システム内部の作業を終えた後に」の項に記載された手順に従います。

関連ビデオ <http://www.Dell.com/XCseries/XC630/PCI>



拡張カードの取り付け

前提条件

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

✍ **メモ:** 両方のプロセッサが取り付けられている場合、使用できるのは拡張カードライザー 1 およびライザー 2 スロットの x16 リンクのみです。

手順

1. 拡張カードを開梱し、取り付けの準備をします。
手順については、カードに付属のマニュアルを参照してください。
2. システム基板 / ライザー上の拡張カードコネクタの位置を確認します。
3. 拡張カードラッチを開き、フィラーブラケットを取り外します。
4. カードの両端を持ち、カードエッジコネクタを拡張カードコネクタに合わせます。
5. カードが完全に装着されるまで、カードエッジコネクタを拡張カードコネクタにしっかりと挿入します。
6. 拡張カードラッチを挿入します。

次の手順


1. システムカバーを閉じます。
2. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
3. カードのマニュアルに従って、必要なすべてのデバイスドライバをインストールします。
4. 「[システム内部の作業のあとに](#)」に記載の手順に従います。
5. カードのマニュアルに従って、必要なすべてのデバイスドライバをインストールします。

拡張カードライザーの取り外し

前提条件

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** 両方のプロセッサが取り付けられている場合、使用できるのは拡張カードライザー 1 およびライザー 2 スロットの x16 リンクのみです。

手順

1. タッチポイントを持ち、拡張カードライザーを持ち上げてシステム基板のライザーコネクタから外します。

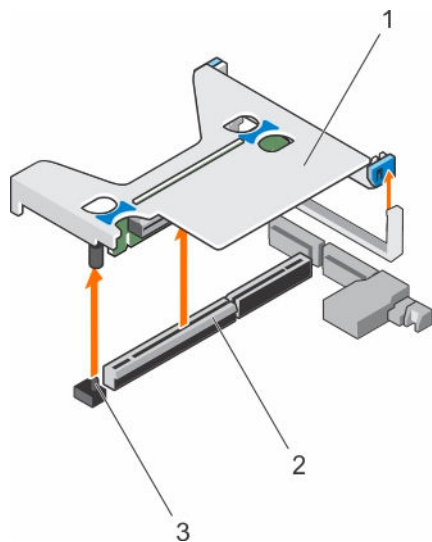


図 22. 拡張カードライザー 1 の取り外しと取り付け

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 拡張カードライザー 1 | 2. コネクタ |
| 3. ライザーガイドピン | |

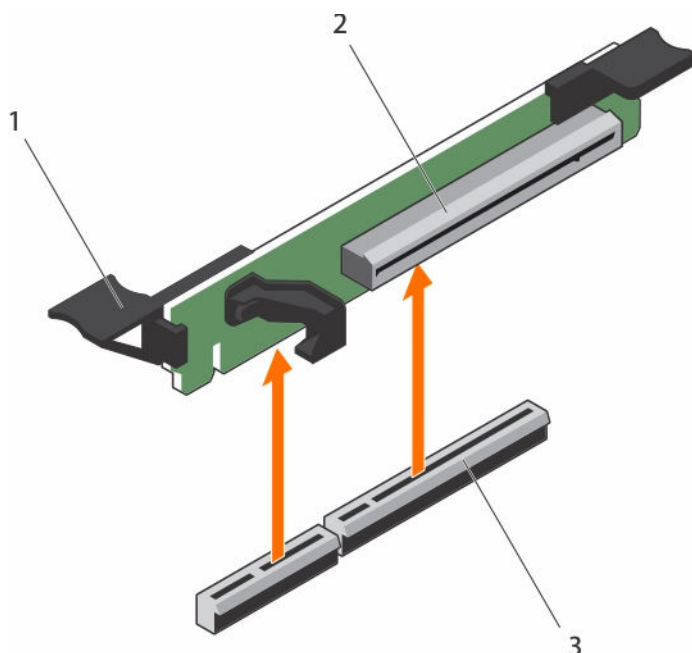


図 23. 拡張カードライザー 3 の取り外しと取り付け

1. コネクタ
 2. 拡張カードライザー 3
 3. 拡張カードリリースラッチ
2. 該当する場合、ライザーへの拡張カードの取り付け、または取り外しを行います。
 3. 拡張カードライザーを取り付けます。

次の手順

[「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。

拡張カードライザーの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順


1. 該当する場合、拡張カードを拡張カードライザーに再度取り付けます。
2. 拡張カードライザーをシステム基板上的コネクタとライザーガイドピンに合わせます。
3. 拡張カードライザーを所定の位置に下ろし、拡張カードライザーコネクタがシステム基板上的コネクタに完全に装着されるまでしっかり挿入します。

次の手順

1. [「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。
2. カードのマニュアルに従って、必要なすべてのデバイスドライバをインストールします。


内蔵デュアル SD モジュール

内蔵デュアル SD モジュール (IDSMD) カードには SD カードスロット 2 個が用意されています。このカードには次の機能があります。

- デュアルカードオペレーション – 両方のスロットで SD カードを使用してミラーリング構成を維持し、冗長性を提供します。
 -  **メモ:** セットアップユーティリティの **Integrated Devices (内蔵デバイス)** 画面で **Redundancy (冗長性)** オプションが **Mirror Mode (ミラーモード)** に設定されている場合、1 枚の SD カードから別の SD カードに情報が複製されます。
- シングルカード動作 – シングルカード動作はサポートされますが、冗長性は提供されません。

内蔵デュアル SD モジュールの取り外し

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

- [「安全にお使いいただくための注意」](#) を必ずお読みください。
- [「システム内部の作業を始める前に」](#) に記載の手順に従います。

手順

- システム基板の内蔵デュアル SD モジュールの位置を確認します。
- SD カードが取り付けられている場合は、取り外します。
- プラスチック製のプルタブを持ち、デュアル SD モジュールを引いてシステム基板から取り外します。

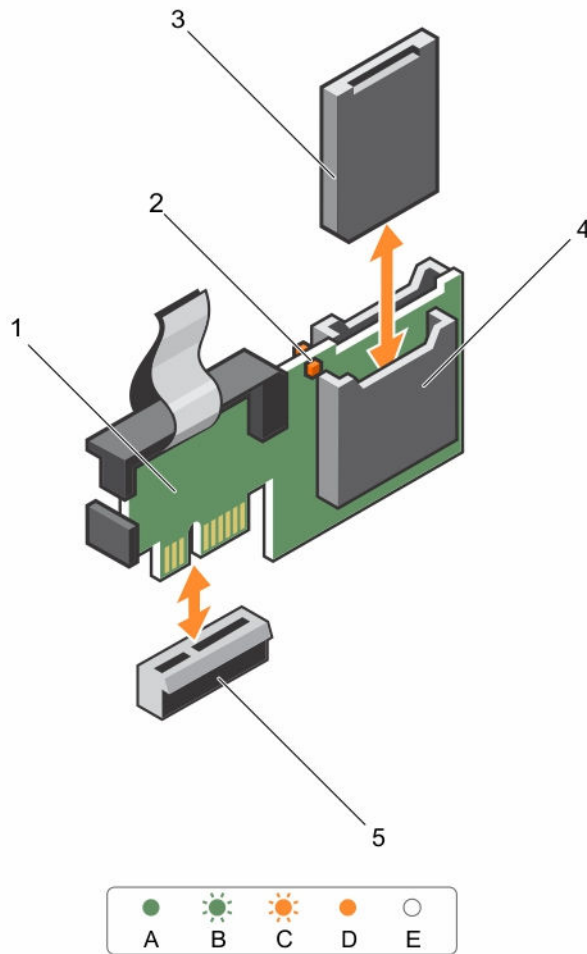


図 24. 内蔵デュアル SD モジュール (IDSMD) の取り外しと取り付け

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 内蔵デュアル SD モジュール | 2. LED ステータスインジケータ (2) |
| 3. SD カード (2) | 4. SD カードスロット 2 |
| 5. SD カードスロット 1 | 6. IDSMD コネクタ |

次の表は、IDSMD インジケータコードについて説明しています。

表 30. IDSMD インジケータコード

表記規則	IDSMD インジケータコード	説明
A	緑色	カードがオンラインであることを示します
B	緑色の点滅	再構築またはアクティビティを示します
C	橙色の点滅	不一致またはカードをカードに障害が発生したことを示します。


表記規則	IDSDM インジケータコード	説明
D	橙色	カードがオフライン、故障している、または書き込みが禁止されていることを示します。
E	消灯	カードが取り付けられていないか、起動していないことを示します。

次の手順

[「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。

内蔵デュアル SD モジュールの取り付け

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#)に記載の手順に従います。

手順

1. システム基板上の IDSDM コネクタの位置を確認します。IDSDM コネクタの位置を確認するには、[「システム基板コネクタ」](#)を参照してください。
2. システム基板上のコネクタにデュアル SD モジュールを合わせます。
3. システム基板にしっかりと装着されるまで、デュアル SD モジュールを押し込みます。

次の手順


1. SD vFlash メディアカードを取り付けます。取り外し前には、各 SD カードに対応するスロットを示すラベルを一時的に付けておきます。SD カードを同じスロットに差し込みます。
2. [「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。

内蔵 SD カード

内蔵 SD カードの取り外し

前提条件

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#)に記載の手順に従います。

 **メモ:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

内蔵デュアル SD モジュール、またはバックプレーンエキスパンダボード上の SD カードスロットの位置を確認し、カードを内側方向に押し、スロットから解放して、カードを取り出します。


次の手順


[「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。

内蔵 SD カードの取り付け

前提条件


1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#)に記載の手順に従います。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** お使いのシステムで SD カードを使用するには、セットアップユーティリティで内蔵 SD カードポートが有効に設定されていることを確認します。

手順

1. 内蔵デュアル SD モジュール、またはバックプレーンエキスパンダボードの SD カードコネクタの位置を確認します。カードのラベル側を上にして、接続ピンがある端をスロットに挿入します。

 **メモ:** スロットは正しい方向にしかカードを挿入できないように設計されています。

2. カードをカードスロットに押し込み、所定の位置にロックします。

次の手順

[「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。

内蔵ストレージコントローラカード

お使いのシステムには、内蔵コントローラカード用の専用拡張カードスロットがシステム基板上に装備されています。内蔵ストレージコントローラカードは、システムの内蔵ハードドライブ用の内蔵ストレージサブシステムを提供します。コントローラは、お使いのシステムに搭載されたストレージコントローラのバージョンによってサポートされる SAS および SATA ハードドライブをサポートします。

内蔵ストレージコントローラカードの取り外し

前提条件

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#)に記載の手順に従います。
3. 冷却用エアフローカバーを取り外します。
4. 拡張カードライザー 1 を取り外します。
5. #2 プラスドライバをお手元にご用意ください。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 内蔵ストレージコントローラケーブルをシステム基板の内蔵ストレージコントローラカードコネクタに固定しているネジを緩めます。
2. 内蔵ストレージコントローラケーブルを持ち上げて外します。
3. カードの一方の端を持ち上げて傾け、システム基板の内蔵ストレージコントローラカードホルダから取り外します。
4. カードを持ち上げてシャーシから取り出します。

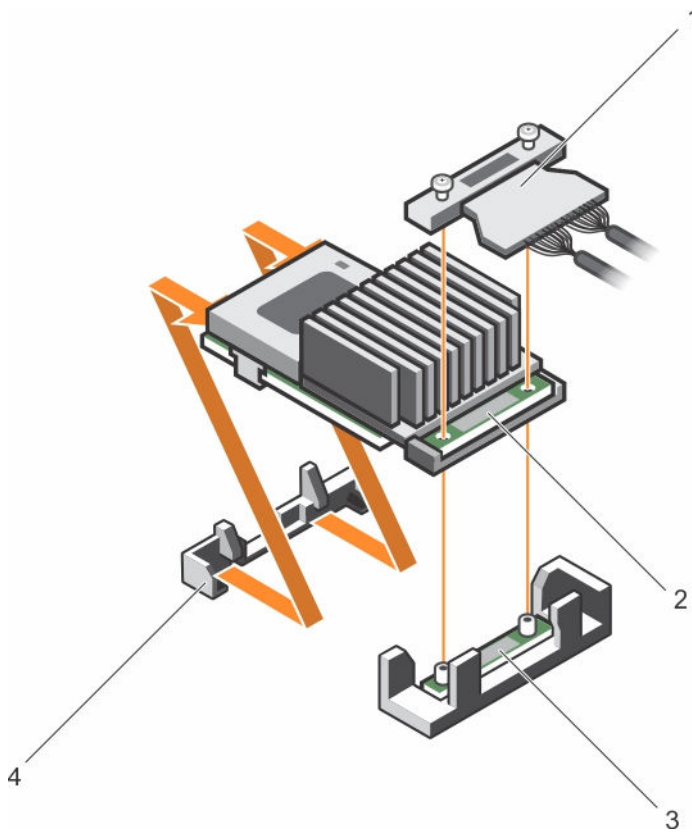


図 25. 内蔵ストレージコントローラカードの取り外しと取り付け

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| 1. 内蔵ストレージコントローラケーブル | 2. 内蔵ストレージコントローラカード |
| 3. システム基板上的内蔵ストレージコントローラカードコネクタ | 4. 内蔵ストレージコントローラカードホルダ |

次の手順

1. 拡張カードライザー 1 を取り付けます。
2. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
3. [「システム内部の作業のあとに」](#) に記載の手順に従います。

内蔵ストレージコントローラカードの取り付け

前提条件

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。
3. 冷却エアフローカバーを取り外します。
4. 拡張カードライザー 1 を取り外します。
5. #2 プラスドライバをお手元にご用意ください。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. コネクタの反対側の内蔵ストレージコントローラカードの端を内蔵ストレージコントローラカードホルダに合わせます。
2. 内蔵ストレージコントローラカードのコネクタ側を、システム基板の内蔵ストレージコントローラカードコネクタに押し下げます。
システム基板のタブが、内蔵ストレージコントローラカードのネジ穴の位置に合っていることを確認します。
3. 内蔵ストレージコントローラカードケーブルのネジを、コネクタのネジ穴に合わせます。
4. ネジを締めて内蔵ストレージコントローラカードケーブルをシステム基板の内蔵ストレージコントローラカードコネクタに固定します。

次の手順

1. 拡張カードライザー 1 を取り付けます。
2. 冷却エアフローカバーを取り付けます。
3. 「[システム内部の作業のあとに](#)」に記載の手順に従います。

ネットワークドーターカード

ネットワークドーターカードの取り外し

前提条件

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。
3. #2 プラスドライバを手元に置いておきます。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 拡張カードライザー 3 を取り外します。
2. #2 プラスドライバーを使用して、ネットワークドーターカードをシステム基板に固定している 2 本のネジを緩めます。
3. タッチポイント両側の端部でネットワークドーターカードを持ち、カードを持ち上げてシステム基板のコネクタから取り外します。
4. Ethernet コネクタが背面パネルのスロットから取り出されるまで、ネットワークドーターカードをシステム背面から引き出します。
5. ネットワークドーターカードをシステムから持ち上げて取り出します。

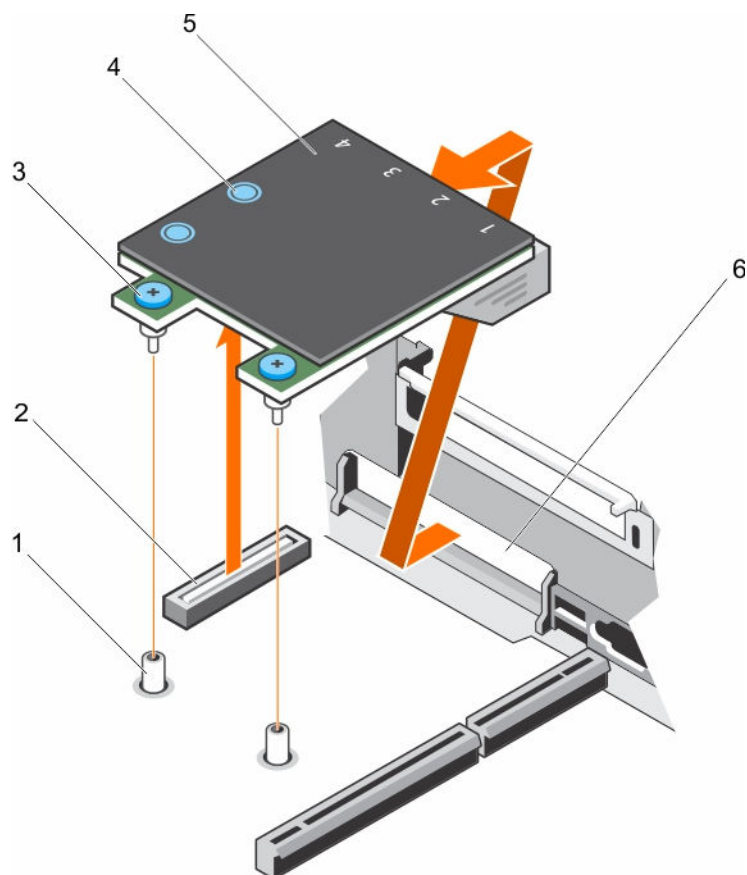


図 26. ネットワークドーターカードの取り外しと取り付け


- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. ネジソケット (2) | 2. システム基板上的コネクタ |
| 3. 固定ネジ (2) | 4. タッチポイント (2) |
| 5. ネットワークドーターカード | 6. Ethernet コネクタ用背面パネルスロット |


ネットワークドーターカードの取り付け

前提条件

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。

3. #1 プラスドライバを手元に置いておきます。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** サーバーに3枚の PCIe カードが備えられている場合は、お使いのシステムに PCIe 冷却エアフローカバーを取り付けるようにしてください。

手順

1. Ethernet コネクタが背面パネルのスロットに入る角度にカードを傾けます。
2. カードの後部にあるネジを、システム基板のネジ穴に合わせます。
3. カードのタッチポイントを押して、カードのコネクタがシステム基板のコネクタと確実に接触するようにします。
4. #2 プラスドライバを使用して、ネットワークドーターカードをシステム基板に固定する2本のネジを締めます。
5. 拡張カードライザー3を取り付けます。


次の手順

「[システム内部の作業のあとに](#)」に記載の手順に従います。

ヒートシンクとプロセッサ


次の作業は下記の手順に従って行ってください。


- 追加のプロセッサの取り付け
- プロセッサの交換

 **メモ:** システムの正常な冷却状態を維持するために、空のプロセッサソケットすべてにプロセッサダミーを取り付ける必要があります。


プロセッサの取り外し

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** システムの正常な冷却状態を維持するために、空のプロセッサソケットすべてにプロセッサダミーを取り付ける必要があります。

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. #2 プラスドライバをお手元にご用意ください。
3. システムをアップグレードする場合は、dell.com/support から最新バージョンのシステム BIOS をダウンロードし、圧縮されたダウンロードファイルに説明されている手順に従い、システムにアップデートをインストールします。

 **メモ:** システム BIOS のアップデートは Lifecycle Controller を使用して行います。

4. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。

5. フルレングス PCIe カードが取り付けられている場合は、取り外します。
6. 冷却エアフローカバーを取り外します。

⚠ 警告: ヒートシンクとプロセッサは、システムの電源を切った後もしばらくは触れられないほど高温です。ヒートシンクとプロセッサが冷えるのを待ってから作業してください。

⚠ 注意: プロセッサを取り外す場合を除き、ヒートシンクをプロセッサから取り外さないでください。ヒートシンクは適切な温度条件を保つために必要です。

手順

1. ヒートシンクを取り外すには、次の手順を行います。
 - a. ヒートシンクをシステム基板に固定しているネジのうち1つを緩めます。
ヒートシンクとプロセッサの接続が緩むまで、30 秒ほど待ちます。
 - b. 最初に取り外したネジの筋向いのネジがを取り外します。
 - c. 残りの 2 本のネジについても同じ手順を繰り返します。
 - d. ヒートシンクを取り外します。

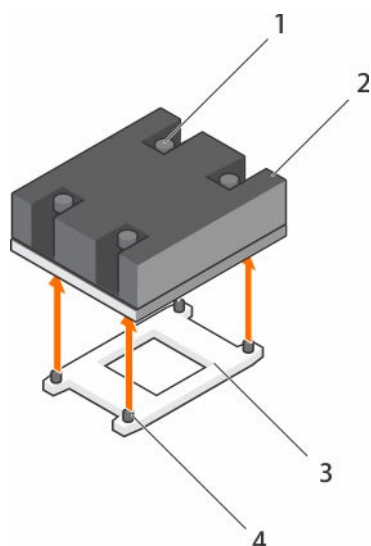


図 27. プロセッサヒートシンクの取り外しと取り付け

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. ネジ (4) | 2. ヒートシンク |
| 3. プロセッサソケット | 4. スロット (4) |

⚠ 注意: プロセッサは強い圧力でソケットに固定されています。リリースレバーはしっかりつかんでいないと突然跳ね上がるおそれがありますので、注意してください。

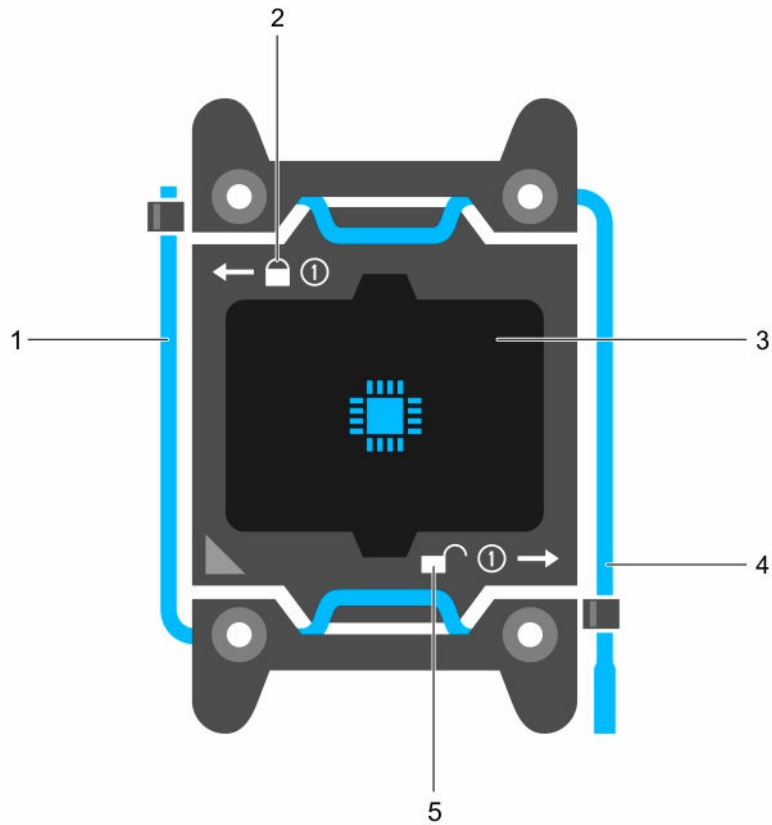




図 28. プロセッサシールド

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. クローズファーストソケットリリースレバー | 2. ロックアイコン |
| 3. プロセッサ | 4. オープンファーストソケットリリースレバー |
| 5. アンロックアイコン | |

2. プロセッサを取り外すには：

- a. アンロックアイコンの近くにあるオープンファーストソケットのリリースレバーを解除します  レバーを押し下げてタブの下から外します。
- b. 同様に、ロックアイコンの近くにあるクローズファーストソケットリリースレバーを解除します  レバーを押し下げてタブの下から外します。レバーを 90 度上に持ち上げます。
- c. オープンファーストソケットリリースレバーを下ろし、プロセッサシールドを持ち上げます。

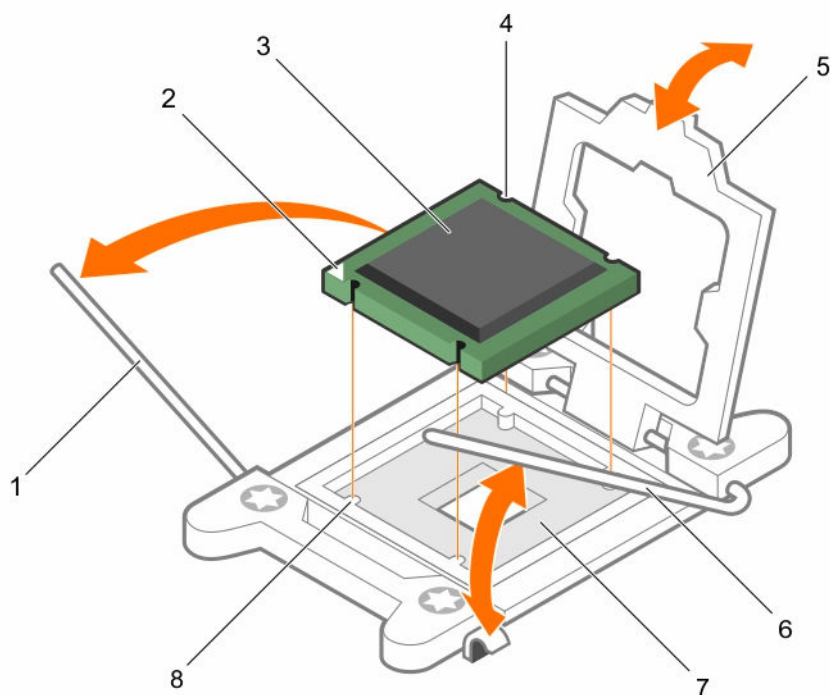


図 29. プロセッサの取り外しと取り付け

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. クローズファーストソケットリリースレバー | 2. プロセッサのピン 1 インジケータ |
| 3. プロセッサ | 4. スロット (4) |
| 5. プロセッサシールド | 6. オープンファーストソケットリリースレバー |
| 7. ソケット | 8. ソケットキー (4) |

- d. プロセッサシールドのタブを持ち、オープンファーストソケットリリースレバーが持ち上がるまで、プロセッサシールドを持ち上げます。

△ **注意:** ソケットピンは壊れやすく、損傷して修復できなくなることがあります。プロセッサをソケットから取り外す際には、ソケットのピンを曲げないように気をつけてください。

- e. プロセッサを持ち上げてソケットから外し、オープンファーストソケットリリースレバーを上げたままにしておきます。

✎ **メモ:** プロセッサを取り外したままにする場合は、ソケットピンを保護してソケットにほこりが入らないように空のソケットにソケット保護キャップを取り付ける必要があります。

✎ **メモ:** プロセッサを取り外したら、再利用、返品、または一時的な保管のために、静電気防止パッケージに入れます。プロセッサの底部に触れないでください。プロセッサは側面の端以外に触れないでください。


次の手順

1. ヒートシンクとプロセッサを取り付けます。「[プロセッサの取り付け](#)」を参照してください。


2. 「[システム内部の作業のあとに](#)」に記載の手順に従います。

プロセッサの取り付け


前提条件


 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。


1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. #2 プラスドライバーをお手元にご用意ください。
3. システムをアップグレードする場合は、dell.com/support から最新バージョンのシステム BIOS をダウンロードし、圧縮されたダウンロードファイルに説明されている手順に従い、システムにアップデートをインストールします。

 **メモ:** システム BIOS のアップデートは Lifecycle Controller を使用して行います。



4. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。
5. 冷却エアフローカバーを取り外します。


 **警告:** ヒートシンクとプロセッサは、システムの電源を切った後もしばらくは触れられないほど高温です。ヒートシンクとプロセッサが冷えるのを待ってから作業してください。


 **注意:** プロセッサを取り外す場合を除き、ヒートシンクをプロセッサから取り外さないでください。ヒートシンクは適切な温度条件を保つために必要です。

 **メモ:** プロセッサを1つだけ取り付ける場合は、CPU1 のソケットに取り付ける必要があります。

手順

1. ヒートシンクを取り外します。
2. 新しいプロセッサをパッケージから取り出します。
プロセッサが新品でない場合は、糸くずの出ない布を使って、残っているサーマルグリースをプロセッサから拭き取ります。
3. プロセッサソケットの位置を確認します。
4. ソケット保護キャップが取り付けられている場合は、取り外します。
5. アンロックアイコンの近くにあるオープンファーストソケットリリースレバーを  レバーを押し下げてタブの下から外します。
6. 同様に、ロックアイコンの近くにあるクローズファーストソケットリリースレバーを解除します  レバーを押し下げてタブの下から外します。レバーを 90 度上に持ち上げます。
7. プロセッサシールドのロック記号の近くにあるタブを持ち、シールドを持ち上げて、プロセッサが取り出せる状態にします。
8. プロセッサをソケットに取り付けるには、以下の手順に従ってください。

 **注意:** プロセッサの取り付け位置を間違えると、システム基板またはプロセッサが完全に損傷してしまうおそれがあります。ソケットのピンを曲げないように注意してください。



 **注意:** プロセッサの取り外しまたは再取り付け中に、手に着いた汚れをふき取ります。サーマルグリースやオイルのような汚れがプロセッサピンに付着すると、プロセッサを破損する可能性があります。

- a. プロセッサをソケットキーに合わせます。

△ 注意: プロセッサを無理に押し込まないでください。プロセッサの位置が合っていれば、簡単にソケットに入ります。

- b. プロセッサのピン1インジケータをソケットの三角形に揃えます。
- c. プロセッサのソケットがソケットキーに合うように、プロセッサをソケットに置きます。

△ 注意: プロセッサを無理に押し込まないでください。プロセッサの位置が合っていれば、簡単にソケットに入ります。

- d. プロセッサシールドを閉じます。
- e. ロックアイコンの近くにあるクローズファーストソケットリリースレバーを下げます。  タブの下に押しロックします。
- f. 同様に、アンロックアイコンの近くにあるオープンファーストソケットリリースレバーを下げます。  タブの下に押しロックします。

9. 次の手順でヒートシンクを取り付けます。

- a. 必要に応じて、清潔な糸くずの出ない布でヒートシンクからサーマルグリースを拭き取ります。
- b. プロセッサの上部にサーマルグリースを塗布します。プロセッサキットに含まれているサーマルグリースアプリケーションアプリアクター（注射器）で、図に示すようにプロセッサ上部の薄いらせん部分にグリースを塗布します。

△ 注意: 塗布するサーマルグリースの量が多すぎると、過剰グリースがプロセッサソケットに付着し、汚れるおそれがあります。

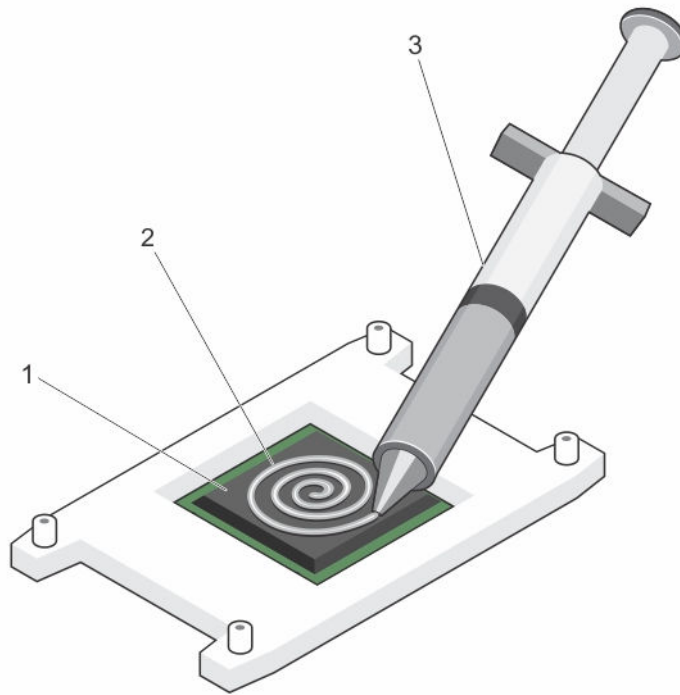



図 30. プロセッサの上部へのサーマルグリースの塗布


1. プロセッサ

2. サーマルグリース

3. サーマルグリースアプリーケータ（注射器）

 **メモ:** サーマルグリースは、1回のみ使用することを目的としています。使用後は、アプリーケータ（注射器）を破棄してください。

- c. ヒートシンクをプロセッサの上に置きます。
- d. ヒートシンクをシステム基板に固定する 4 本のネジを締めます。

 **メモ:** 対角関係にあるネジを締めていきます。ヒートシンクを取り付ける際に、ヒートシンク固定ネジを締めすぎないでください。締めすぎを避けるには、ヒートシンク固定ネジを抵抗を感じ始めるまで締めて、ネジが固定されたらそれ以上締めないようにします。ネジの張力が 6 in-lb (6.9 kg-cm) を超えないようにしてください。


次の手順


1. 冷却エアフローカバーを取り付けます。
2. 該当する場合、PCIe カードを取り付けます。
3. 冷却ファンアセンブリを取り外した場合は、取り付けます。
4. 「[システム内部の作業のあとに](#)」に記載の手順に従います。
5. 起動中に F2 を押してセットアップユーティリティを起動し、プロセッサの情報が新しいシステム構成と一致していることを確認します。
6. システム診断プログラムを実行し、新しいプロセッサが正しく動作することを確認します。


電源装置ユニット


お使いのシステムでは、以下のうちいずれかひとつをサポートしています。

- 495 W、750 W、または 1100 W AC 電源装置モジュール 2 台、または
- 1100 W DC 電源装置モジュール 2 台、または
- 750 W の混在モード電源装置モジュール 2 台

 **メモ:** Titanium 電源装置ユニットの公称定格は、200~240 VAC 入力限定です。

 **メモ:** 同一の PSU が 2 台搭載されている場合、電源装置の冗長性（1+1 – 冗長性あり、または 2+0 – 冗長性なし）はシステム BIOS で設定されます。冗長モードでは、ホットスペアが無効の場合、システムへの電力供給は両方の PSU から同等に行われます。ホットスペアが有効になっている場合、効率を最大限にするため、システムの使用率が低いときに 1 台の PSU がスタンバイモードに切り替わります。

 **メモ:** 2 台の電源装置ユニットが使用されている場合は、最大出力電力が同じである必要があります。

 **メモ:** AC 電源装置ユニットについては、拡張電源パフォーマンス (EPP) ラベルが背面に貼付されている電源装置ユニットのみを使用してください。旧世代のサーバーからの電源装置ユニットと混在させると、電源装置ユニットが mismatch の状態となったり、または電源が入らなくなったりすることになる可能性があります。

ホットスペア機能

お使いのシステムではホットスペア機能がサポートされており、電源ユニットの冗長性に関連する電力のオーバーヘッドが著しく軽減されています。

ホットスペア機能を有効に設定すると、冗長電源装置がスリープ状態に切り替わります。アクティブな電源装置が負荷の 100% をサポートするため、より高い効率で稼働します。スリープ状態の電源装置は、アクテ

ィブな電源装置の出力電圧を監視します。アクティブな電源装置の出力電圧が低下すると、スリープ状態の電源装置がアクティブな出力状態に戻ります。

両方の電源装置をアクティブにするほうが、1 台の電源装置をスリープ状態にするよりも効率的である場合は、アクティブな電源装置は、スリープ中の電源装置をアクティブにすることもできます。


電源装置のデフォルト設定は次のとおりです。

- アクティブな電源装置の負荷が 50% を超えると、冗長電源装置がアクティブ状態に切り替えられます。
- アクティブな電源装置の負荷が 20% を下回ると、冗長電源装置がスリープ状態に切り替えられます。

ホットスワップ機能の設定は、iDRAC 設定を使用して行います。iDRAC 設定の詳細については、dell.com/support/home にある『*Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide*』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。

電源装置ユニットダミーの取り外し

2 台目の電源装置ユニットを取り付ける場合は、電源装置ユニットダミーを外側へ引いて、ベイから取り外します。

-  **注意:** 非冗長構成の場合は、システムの正常な冷却状態を維持するために、2 つ目の電源装置ベイに電源装置ダミーを取り付ける必要があります。電源装置ダミーは、2 台目の電源装置を取り付ける場合にのみ取り外してください。

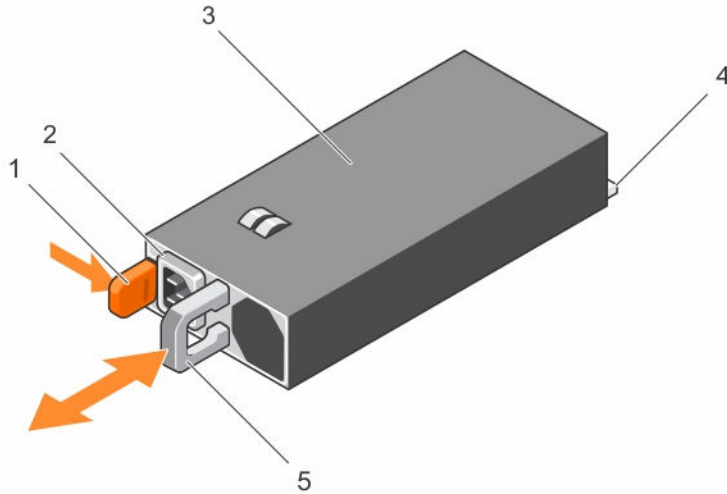


図 32. AC 電源装置ユニットの取り外しと取り付け

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. リリースラッチ | 2. 電源装置ユニットケーブルコネクタ |
| 3. 電源装置ユニット | 4. コネクタ |
| 5. 電源装置ユニットのハンドル | |


AC 電源装置ユニットの取り付け

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。





手順

- 両方の電源装置ユニットが同じタイプであり、最大出力電力が同じであることを確認します。
 - ✎ **メモ:** 最大出力電力（ワット数で表記）は PSU ラベルに記載されています。
- 該当する場合は、電源装置ユニットダミーを取り外します。
- 新しい電源装置ユニットをシャーシに挿入し、完全に装着されてリリースラッチが所定の位置にカチッと収まるまで押し込みます。
 - ✎ **メモ:** ケーブルマネージメントアームのラッチを外している場合は、再びラッチをかけます。ケーブルマネージメントアームの詳細については、システムのラックに関するマニュアルを参照してください。
- 電源ケーブルを電源装置ユニットに接続し、電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込みます。
 - △ 注意: 電源ケーブルを接続する際には、ケーブルをストラップで固定してください。

-  **メモ:** 新しい電源装置ユニットを取り付ける、新しい電源装置ユニットにホットスワップまたはホットアッドを行う場合は、システムが電源装置を認識してそのステータスを決めるまで 15 秒間待ってください。電源の冗長性は、検出が完了するまで発生しない場合があります。もう 1 台の電源装置ユニットを取り外す前に、新しい電源装置ユニットが検出され、有効になるまでお待ちください。電源装置ユニットのステータスインジケータが緑色に点灯すれば、電源装置ユニットは正常に機能しています。

DC 電源装置ユニットのケーブル接続の手順

お使いのシステムには、- 48 / 60 V DC 電源ユニットを 2 台取り付けることができます（利用可能時）。

-  **警告:** - (48~60) V DC 電源装置ユニット (PSU) を使用する装置の DC 電源接続およびアース接続は、適切な資格を持つ電気技術者が行う必要があります。DC 電源またはアースの接続はご自分で行わないでください。すべての電気接続は、システムの使用地域およびその国の条例と慣行に準拠する必要があります。デルで認められていない修理による損傷は、保証の対象となりません。製品に同梱の安全にお使いいただくための注意をすべてお読みになり、指示に従ってください。
-  **注意:** ユニットは銅線だけで配線し、特に指定がない限り、ソースとリターンの定格が 90 °C 以上の 10 American Wire Gauge (AWG) ワイヤを使用します。- 48 / 60 V DC (ワイヤ 1 本) を漏電電流定格の高い DC 用で定格 50 A の過電流保護分岐回路で保護します。
-  **注意:** 装置を AC 電源から電氣的に絶縁された -48 / -60 V DC 電源（信頼できるアースが施された -48 / -60 V DC SELV 電源）に接続します。- 48 / -60 V DC 電源が効果的にアースされていることを確認してください。
-  **メモ:** アース端子には、容易にアクセスできる電源切断装置（承認済みで適切な定格のもの）が組み込まれている必要があります。

入力電源の要件


- 供給電圧：- (48 ~ 60) V DC
- 消費電流：32 A（最大）

キットの内容

- Dell 部品番号 6RYJ9 ターミナルブロックまたは同等のもの (1)
- #6-32 ロックワッシャー付きナット (1)

必要なツール

サイズ 10 の AWG ソリッドワイヤまたは絶縁された銅製のより線から絶縁材を除去できる絶縁電線プライヤ

-  **メモ:** アルファワイヤパーツナンバー 3080 または同等のもの (65/30 より線) を使用します。

必要なワイヤ

- UL 10 AWG、最長 2 m（より線）ブラックワイヤ 1 本 [- 48 / 60 V DC]
- UL 10 AWG、最長 2 m（より線）レッドワイヤ 1 本 (V DC リターン)
- UL 10 AWG、最長 2 m（より線）緑 / 黄、緑に黄縞ワイヤ 1 本（アース端子付き）

DC 電源装置ユニットの取り外し

前提条件

⚠ 警告: - (48~60) V DC 電源装置ユニット (PSU) を使用する装置の DC 電源接続およびアース接続は、適切な資格を持つ電気技術者が行う必要があります。DC 電源またはアースの接続はご自分で行わないでください。すべての電気接続は、システムの使用地域およびその国の条例と慣行に準拠する必要があります。デルで認められていない修理による損傷は、保証の対象となりません。製品に同梱の安全にお使いいただくための注意をすべてお読みになり、指示に従ってください。

⚠ 注意: システムが正常に動作するには、電源装置が 1 台は必要です。冗長電源が装備されたシステムでも、電源が入った状態で一度に取り外し、取り付けができる電源装置は、1 台だけです。

📌 メモ: 電源装置の取り外しに支障がある場合は、ラッチを外してオプションのケーブルマネジメントアームを持ち上げる必要があります。ケーブルマネジメントアームの詳細については、システムのラックに関するマニュアルを参照してください。

手順

1. 電源から電源ワイヤを、取り外す電源装置からコネクタを外します。
2. アース端子付きワイヤを外します。
3. リリースラッチを押し、電源装置をシャーシから引き出します。

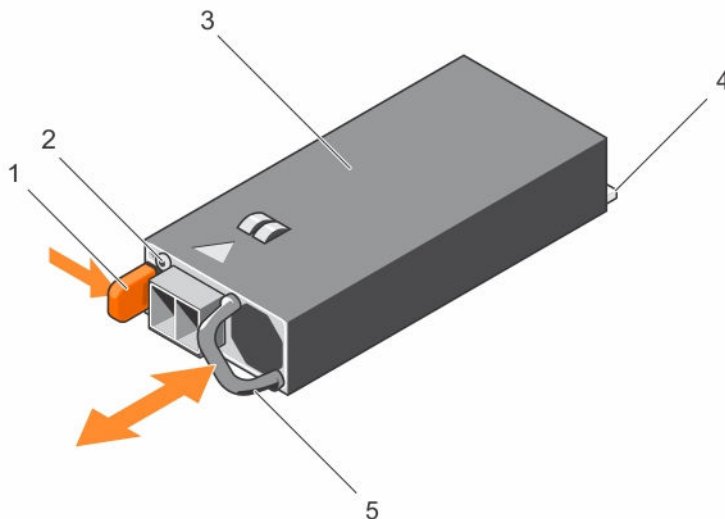



図 33. DC 電源装置の取り外しと取り付け

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. リリースラッチ | 2. 電源装置ステータスインジケータ |
| 3. 電源装置 | 4. コネクタ |
| 5. 電源装置のハンドル | |


DC 電源装置ユニットの取り付け

前提条件


 **警告:** - (48~60) V DC 電源装置ユニット (PSU) を使用する装置の DC 電源接続およびアース接続は、適切な資格を持つ電気技術者が行う必要があります。DC 電源またはアースの接続はご自分で行わないでください。すべての電気接続は、システムの使用地域およびその国の条例と慣行に準拠する必要があります。デルで認められていない修理による損傷は、保証の対象となりません。製品に同梱の安全にお使いいただくための注意をすべてお読みになり、指示に従ってください。

手順


1. 両方の電源装置のタイプと最大出力電力が同じであることを確認します。

 **メモ:** 最大出力電力 (ワット数で表記) は PSU ラベルに記載されています。


2. 電源装置ダミーが取り付けられている場合は、取り外します。
3. 新しい電源装置ユニットをシャーシに挿入し、完全に装着されてリリースラッチが所定の位置にカチッと収まるまで押し込みます。

 **メモ:** ケーブルマネージメントアームのラッチを外している場合は、再びラッチをかけます。ケーブルマネージメントアームの詳細については、システムのラックに関するマニュアルを参照してください。

4. アース端子付きワイヤを接続します。
5. 電源装置ユニットに DC 電源コネクタを取り付けます。

 **注意:** 電源ワイヤを接続するときは、ストラップでワイヤを電源装置のハンドルに固定します。

6. DC 電源にワイヤを接続します。


 **メモ:** 新しい電源装置の通常取り付けや、ホットスワップまたはホットアッドによって交換または取り付けを行う際には、システムが電源装置を認識して状態を判断するまで 15 秒待ちます。電源装置ステータスインジケータが緑色に点灯すれば、電源装置は正常に機能しています。


システムバッテリー

システムバッテリーの交換

前提条件

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#) を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#) に記載の手順に従います。
3. 冷却用エアフローカバーを取り外します。

 **警告:** 新しいバッテリーは取り付け方が間違っていると、破裂する恐れがあります。製造元が推奨する型、またはそれと同等の製品を取り付けてください。詳細については、お使いのシステムに同梱の「安全にお使いいただくための注意事項」を参照してください。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. バッテリーソケットの位置を確認します。詳細については、「[システム基板コネクタ](#)」を参照してください。

△ **注意:** バッテリーの取り付け、取り外しの際には、バッテリーコネクタが破損しないようにしっかり支えてください。

2. 新しいシステムバッテリーを取り付けるには、プラス側を上にしてバッテリーを持ち、固定タブの下に挿入します。
3. 所定の位置に収まるまでバッテリーをコネクタに押し込みます。

次の手順

1. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
2. [「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。
3. 起動中に F2 を押してセットアップユーティリティを起動し、バッテリーが正常に動作していることを確認します。
4. セットアップユーティリティの **Time** (時刻) および **Date** (日付) フィールドで正しい時刻と日付を入力します。
5. セットアップユーティリティを終了します。

ハードドライブバックプレーン

ハードドライブ 10 台搭載システムは、2.5 インチ (x10) SAS/SATA バックプレーンをサポートしています。

ハードドライブバックプレーンの取り外し

前提条件

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#) を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#)に記載の手順に従います。
3. すべてのハードドライブを取り外します。

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** ハードドライブおよびハードドライブバックプレーンの損傷を防ぐため、ハードドライブバックプレーンを取り外す前にハードドライブをシステムから取り外す必要があります。

△ **注意:** 後で同じ場所に取り付けることができるように、取り外す前に各ハードドライブの番号を書き留め、一時的にラベルを貼っておく必要があります。

手順

1. SAS/SATA/SSD データケーブルおよび電源ケーブルをバックプレーンから外します。
2. 光学ドライブに電源 / データケーブルが接続されている場合は、外します。
3. バックプレーンの青色のリリースタブを矢印の方向に押して、バックプレーンを上方向に持ち上げます。
4. バックプレーンの固定スロットがシャーシ上のタブから外れるまで、バックプレーンを引いてシステムから離します。

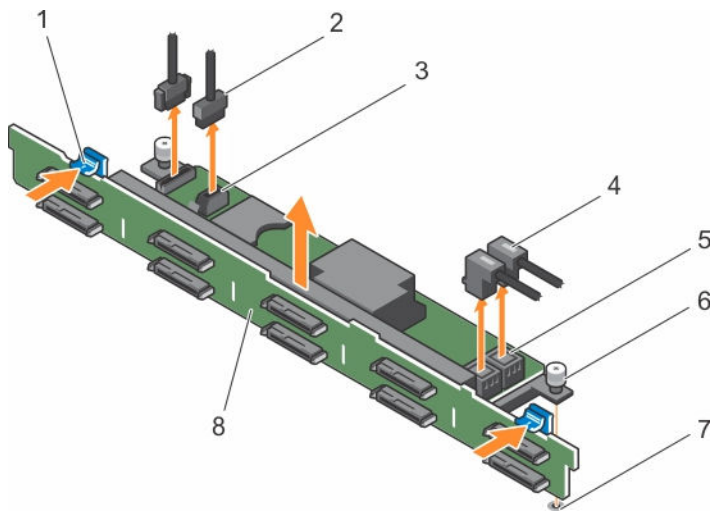


図 34. 2.5 インチ (x10) ハードドライブバックプレーンの取り外しと取り付け

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. SD 信号ケーブル | 2. SD 信号ケーブルコネクタ |
| 3. SAS ケーブル (2) | 4. SAS ケーブルコネクタ (2) |
| 5. ガイドピン | 6. ガイドピンスロット |
| 7. ハードドライブコネクタ | 8. SAS バックプレーン |

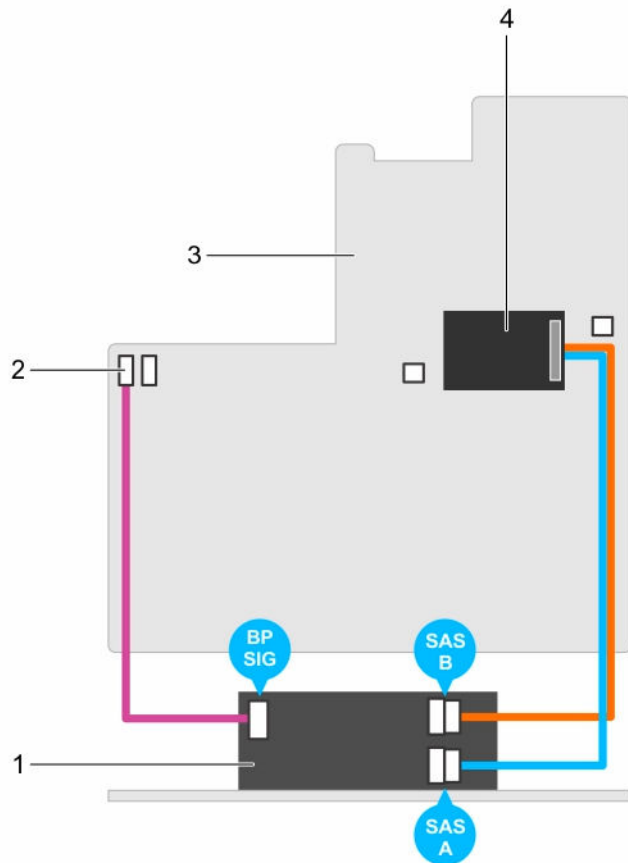


図 35. ケーブル配線図 – 2.5 インチ (x10) システム

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. SAS バックプレーンエキスパンダカード | 2. システム基板の信号ケーブルコネクタ |
| 3. システム基板 | 4. 内蔵ストレージコントローラカード |

ハードドライブバックプレーンの取り付け

前提条件

1. 「[安全にお使いいただくための注意](#)」を必ずお読みください。
2. 「[システム内部の作業を始める前に](#)」に記載の手順に従います。

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. シャーシのフックをガイドとして使用し、ハードドライブバックプレーンの位置を合わせます。
2. リリースタブが所定の位置に固定されるまで、ハードドライブバックプレーンを下げます。
3. バックプレーンに SAS/SATA/SSD データ、信号、電源ケーブルを接続します。

次の手順


1. ハードドライブを元の場所に取り付けます。
2. [「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。

コントロールパネルアセンブリ


コントロールパネルの取り外し - ハードドライブ 10 台

前提条件

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#)に記載の手順に従います。
3. #1 プラスドライバを準備しておきます。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. #1 プラスドライバを使用して、コントロールパネルをシャーシに固定しているネジ（シャーシ底部にあります）を外します。
2. コントロールパネルケーブルを、システム基板のコネクタ（J_CP および J_FP_USB）とハードディスクドライブエキスパンダカードのコネクタから外します。
 **メモ:** システム基板上的コネクタを見つけるには、「システム基板コネクタ」を参照してください。
3. コントロールパネルラッチを押し、コントロールパネルをスライドさせてシャーシから取り出します。
4. コントロールパネルケーブルをコントロールパネルから外します。

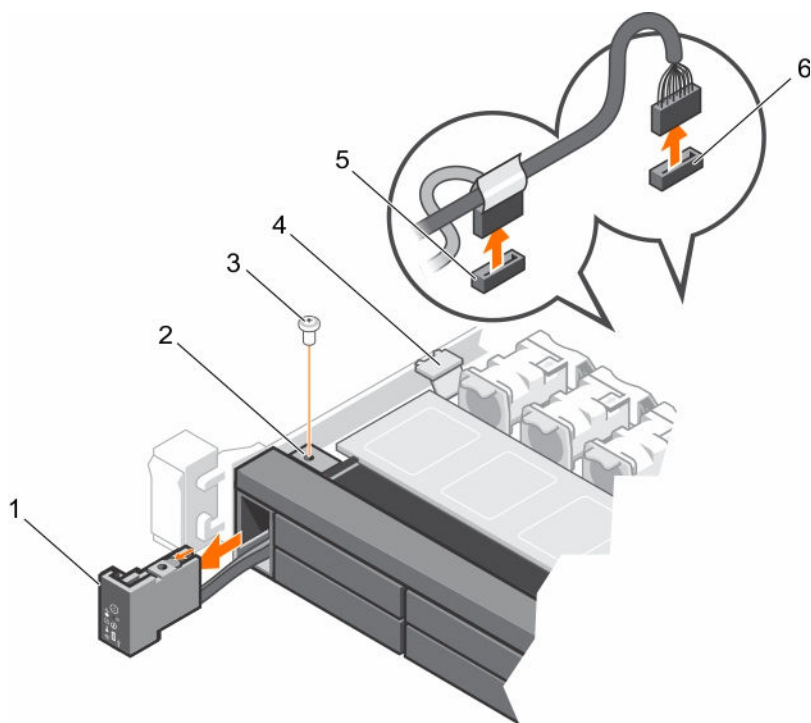


図 36. コントロールパネルの取り外しと取り付け

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1. コントロールパネルのリリースラッチ | 2. ケーブル固定クリップ |
| 3. システム基板に接続されたコントロールパネルケーブル | 4. J_FP_USB コネクタケーブル |
| 5. ネジ | 6. コントロールパネル |

コントロールパネルの取り付け - ハードドライブ 10 台搭載システム



前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

#1 プラスドライバを準備しておきます。

手順

1. シャーシを通してコントロールパネルケーブルを配線し、そのケーブルをコントロールパネルに接続します。
2. コントロールパネルが所定の場所にカチッと収まるまで、コントロールパネルをシャーシ内に押し込みます。
3. #1 プラスドライバを使用して、コントロールパネルをシャーシに固定するネジ（シャーシ底部にあります）を取り付けます。
4. システム基板の J_CP および J_FP_USB の位置を確認します。

-  **メモ:** システム基板上のコネクタを見つけるには、「システム基板コネクタ」を参照してください。
5. コントロールパネルケーブルを、システム基板のコネクタ (J_CP および J_FP_USB) とハードディスクドライブエキスパンダカードのコネクタに接続します。
-  **メモ:** システム内のコントロールパネルケーブルがシャーシ側面に沿って配線されており、ケーブル固定ブラケットで固定されていることを確認してください。


次の手順


[「システム内部の作業のあとに」](#)に記載の手順に従います。


システム基板

システム基板の取り外し

前提条件


 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **注意:** 暗号化キーと共に **Trusted Platform Module (TPM)** を使用している場合は、プログラムまたはシステムのセットアップ中にリカバリキーの作成を求められることがあります。このリカバリキーは必ず作成し、安全に保管しておいてください。このシステム基板を交換した場合は、システムまたはプログラムの再起動時にリカバリキーを入力しないと、ハードドライブ上の暗号化されたデータにアクセスできません。


 **注意:** マザーボードから **TPM プラグインモジュール** を取り外さないようにしてください。TPM プラグインモジュールをいったん取り付けると、特定のマザーボードに暗号化されてバインドされます。取り付けられた TPM プラグインモジュールを取り外そうとすると、その暗号化されたバインドが破壊され、再取り付けまたは他のマザーボードへの取り付けができなくなります。

1. [「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。
2. [「システム内部の作業を始める前に」](#)に記載の手順に従います。
3. 以下を取り外します。

- a. 冷却用エアフローカバー
- b. メモリモジュール
- c. 冷却ファン
- d. 電源ユニット
- e. すべての拡張カードライザーと拡張カード


 **警告:** ヒートシンクは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。システム基板を取り外す際に、ヒートシンクに触れないように注意してください。

- f. ヒートシンク、またはヒートシンクダミーとプロセッサ、またはプロセッサダミー

 **注意:** 不具合のあるシステム基板を交換する際には、プロセッサピンへの損傷を防ぐため、必ずプロセッサ保護キャップでプロセッサソケットをカバーしてください。


- g. 内蔵ストレージコントローラカード
- h. ネットワークドーターカード

- i. 内蔵デュアル SD モジュール
- j. 内蔵 USB キー（取り付けられていた場合）
- k. ホットスワップ対応ハードドライブ
- l. ハードディスクドライブバックプレーン


 **注意:** ミニ SAS ケーブルとコネクタの損傷を防ぐために、システム基板からミニ SAS ケーブルを取り外す際は正しい手順を守ってください。

手順

1. 次の手順でミニ SAS ケーブルをシステム基板から外します。
 - a. ミニ SAS ケーブルコネクタを押して、システム基板のコネクタにさらに深く挿入します。
 - b. ミニ SAS ケーブルコネクタの金属製タブを押し下げた状態に保ちます。
 - c. ミニ SAS ケーブルをシステム基板上的コネクタから外します。
2. システム基板から他のすべてのケーブルを外します。

 **注意:** システム基板をシャーシから取り外す際には、システム識別ボタンに損傷を与えないように注意してください。

3. システム基板ホルダを持ち、青色のリリースピンを上げて、システム基板をシステムの前方に向かってスライドさせます。システム基板を持ち上げてシャーシから取り出します。

 **注意:** システム基板は、メモリモジュール、プロセッサ、またはその他のコンポーネントを持って持ち上げないでください。

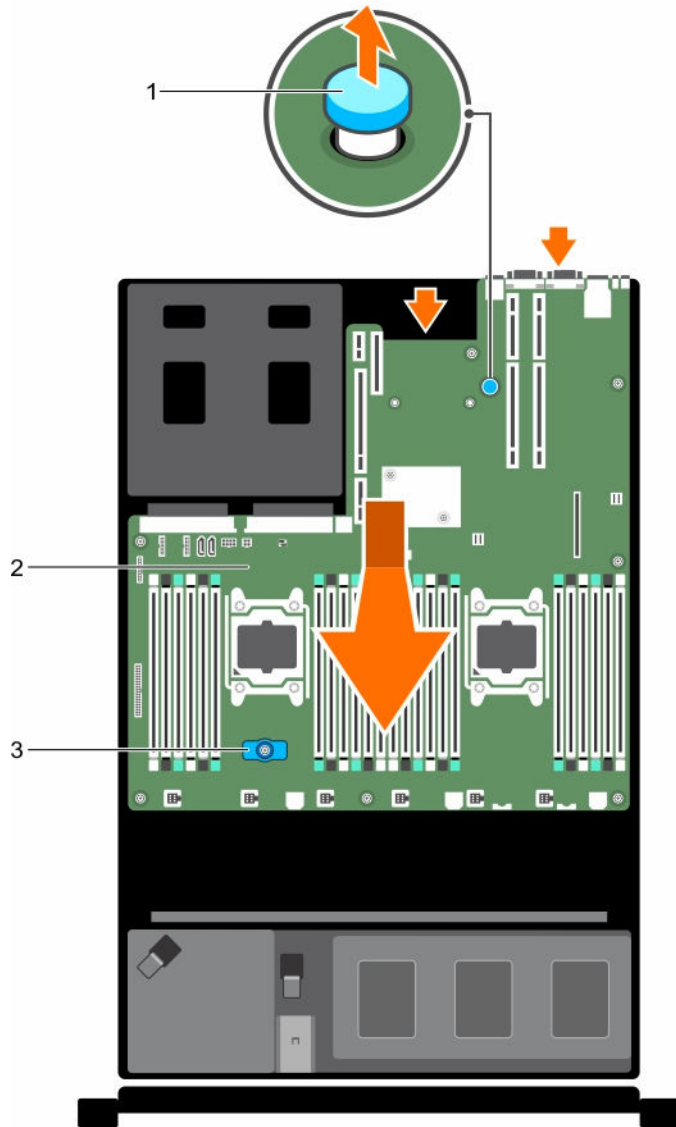


図 37. システム基板の取り外しと取り付け

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. システム基板ホルダ | 2. システム基板 |
| 3. リリースピン | |


システム基板の取り付け


前提条件

- △ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 新しいシステム基板アセンブリのパッケージを開きます。


 **注意:** システム基板は、メモリモジュール、プロセッサ、またはその他のコンポーネントを持って持ち上げないでください。

 **注意:** システム基板をシャーシに取り付ける際には、システム識別ボタンに損傷を与えないように注意してください。

2. タッチポイントを持って、システム基板をシャーシ内に下します。
3. 正しく装着するまで、システム基板をシャーシの後方へ押し込みます。

次の手順

1. Trusted Platform Module (TPM) を取り付けます。TPM の取り付け方法についての情報は、「[Trusted Platform Module の取り付け](#)」を参照してください。TPM の詳細については、「[Trusted Platform Module](#)」を参照してください。
2. 以下を取り付けます。
 - a. 内蔵ストレージコントローラカード
 - b. 内蔵デュアル SD モジュール
 - c. すべての拡張カードライザー
 - d. ヒートシンク / ヒートシンクダミーとプロセッサ / プロセッサダミー
 - e. メモリモジュールおよびメモリモジュールのダミーカード
 - f. ネットワークドーターカード
 - g. 冷却ファンアセンブリ
 - h. 冷却エアフローカバー
 - i. PSU
3. すべてのケーブルをシステム基板に再接続します。

 **メモ:** システム内のケーブルがシャーシ側面に沿って配線され、ケーブル固定ブラケットで固定されていることを確認します。
4. 「[システム内部の作業のあとに](#)」に記載の手順に従います。
5. 新規または既存の iDRAC Enterprise ライセンスをインポートします。詳細に関しては、[dell.com/esmanuals](#) で『Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。
6. 次の手順を実行していることを確認してください:
 - a. 簡易復元 機能を使用してサービスタグを復元します。詳細については、「[簡易復元](#)」を参照してください。
 - b. サービスタグがバックアップフラッシュデバイスにバックアップされていない場合は、手動でシステムのサービスタグを入力します。詳細については、「[システムサービスタグの入力](#)」を参照してください。
 - c. BIOS および iDRAC のバージョンをアップデートします。
 - d. Trusted Platform Module (TPM) を再度有効にします。詳細については、「[BitLocker ユーザー向け TPM の再有効化](#)」、または「[TXT ユーザー向け TPM の再有効化](#)」を参照してください。

セットアップユーティリティを使用してシステムのサービスタグを入力

このタスクについて

システムのサービスタグがわかっている場合は、セットアップユーティリティメニューを使用してサービスタグを入力します。

手順

1. システムの電源を入れます。
2. F2 キーを押して **System Setup** (セットアップユーティリティ) を起動します。
3. サービスタグ設定をクリックします。
4. サービスタグを入力します。



メモ: Service Tag (サービスタグ) フィールドが空欄の場合のみサービスタグを入力できます。正しいサービスタグを入力してください。一度サービスタグが入力されると、更新または変更できません。

5. **OK** をクリックします。

Easy Restore (簡単な復元) を使用してサービスタグを復元

このタスクについて

お使いのシステムのサービスタグがわからない場合は、簡単な復元機能を使用します。簡単な復元機能により、システム基板を交換した後に、お使いのシステムのサービスタグ、ライセンス、UEFI 設定、およびシステム設定データを復元できます。すべてのデータは自動的にバックアップフラッシュデバイスにバックアップされます。BIOS が新しいシステム基板とバックアップフラッシュデバイスのサービスタグを検知すると、BIOS はユーザーにバックアップ情報の復元を促すプロンプトを表示します。

手順

1. システムの電源を入れます。
BIOS が新しいシステム基板を検出した場合、またサービスタグがバックアップフラッシュデバイスにある場合、BIOS はサービスタグ、ライセンスのステータス、および **UEFI Diagnostics** (UEFI 診断) パージョンを表示します。
2. 次の手順のいずれか1つを実行します。
 - a. サービスタグ、ライセンス、および診断情報を復元するには、**Y** を押します。
 - b. Lifecycle Controller ベースの復元オプションに移動するには、**N** を押します。
 - c. <F10> を押して、前に作成した **Hardware Server Profile** (ハードウェアサーバープロファイル) からデータを復元します。
3. 次の手順のいずれか1つを実行します。
 - a. **Y** を押して、システムの設定データを復元します。
 - b. **N** を押して、デフォルトの構成設定を使用します。

Trusted Platform Module

Trusted Platform Module (TPM) を使用して、キーの生成 / 保存、パスワードの保護 / 認証、およびデジタル証明書の作成 / 保存を行います。TPM は、Windows Server での BitLocker ハードドライブ暗号化機能の有効化にも使用することもできます。



注意: システム基板から **Trusted Platform Module (TPM)** を外そうとしないでください。TPM が取り付けられた後、TPM はその特定のシステム基板に暗号でバインドされます。取り付け済みの TPM を取り外そうとすると、暗号バインドが壊れるため、再度取り付けることも他のシステム基板に取り付けることもできなくなります。

Trusted Platform Module (TPM) の取り付け

このタスクについて

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

[「安全にお使いいただくための注意」](#)を必ずお読みください。

手順

1. システム基板上的の TPM コネクタの位置を確認します。
2. TPM のエッジコネクタを TPM コネクタのスロットの位置に合わせます。
3. プラスチック製のボルトがシステム基板のスロットに合うように、TPM を TPM コネクタに挿入します。
4. 所定の位置に収まるまでプラスチック製のボルトを押します。

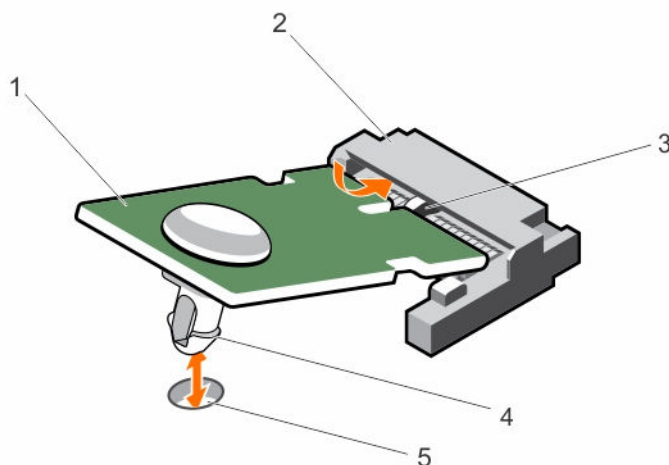


図 38. TPM の取り付け

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. TPM | 2. TPM コネクタ |
| 3. TPM コネクタのスロット | 4. プラスチック製のボルト |
| 5. システム基板のスロット | |

BitLocker ユーザー向け TPM の再有効化

TPM を初期化します。

TPM の初期化の詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753140.aspx> を参照してください。

TPM ステータスは有効、アクティブ化に変更されます。

TXT ユーザー向け TPM の再有効化

1. システムの起動中に F2 を押して、セットアップユーティリティを起動します。
2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) で、**System BIOS** (システム BIOS) → **System Security Settings** (システムセキュリティの設定) の順にクリックします。
3. **TPM Security** (TPM セキュリティ) オプションで、**On with Pre-boot Measurements** (起動前測定でオン) を選択します。
4. **TPM Command** (TPM コマンド) オプションで、**Activate** (アクティブ化) を選択します。
5. 設定を保存します。
6. システムを再起動します。
7. セットアップユーティリティを再度起動します。
8. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティメインメニュー) で、**System BIOS** (システム BIOS) → **System Security Settings** (システムセキュリティの設定) の順にクリックします。
9. **Intel TXT** (Intel TXT) オプションで、**On** (オン) を選択します。

システムのトラブルシューティング

作業にあたっての注意

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

システム起動エラーのトラブルシューティング

オペレーティングシステムをインストールしたモードと同じ起動モードで起動する必要があります。

起動時に発生するその他すべての問題については、画面に表示されるシステムメッセージを書きとめておきます。

外部接続のトラブルシューティング

外付けデバイスのトラブルシューティングを行う前に、すべての外部ケーブルがシステムの外部コネクタにしっかりと接続されていることを確認します。

ビデオサブシステムのトラブルシューティング

1. モニタへのシステムおよび電源接続をチェックします。
2. システムからモニタへのビデオインタフェースのケーブル配線をチェックします。
3. 適切な診断テストを実行します。

テストが正常に終了したら、問題はビデオハードウェアに関連するものではありません。

テストが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

USB デバイスのトラブルシューティング

このタスクについて

USB キーボード / マウスのトラブルシューティングには、次の手順を実行してください。他の USB デバイスについては、手順 7 に進みます。

手順

1. システムからキーボードケーブルとマウスのケーブルを外して、再度接続します。
2. 問題が解決しない場合は、システムの反対側にある USB ポートにキーボード / マウスを接続します。

3. これで問題が解決した場合は、システムを再起動し、セットアップユーティリティを起動して、機能していない USB ポートが有効になっているかどうかを確認します。
USB 3.0 がセットアップユーティリティで有効になっていることを確認します。有効になっている場合は、無効にして、問題が解決するかどうかを確認します（古いオペレーティングシステムでは、USB 3.0 をサポートしていません）。
4. **IDRAC Settings Utility**（IDRAC 設定ユーティリティ）で、**USB Management Port Mode**（USB 管理ポートのモード）が **Automatic**（自動）または **Standard OS Use**（標準 OS 使用）として設定されていることを確認してください。
5. キーボード / マウスを動作確認済みの別のキーボード / マウスに取り替えます。
問題が解決しない場合は、次の手順に進んで、システムに取り付けられているその他の USB デバイスのトラブルシューティングを開始します。
6. 取り付けられているすべての USB デバイスの電源を切り、システムから外します。
7. システムを再起動し、キーボードが機能している場合は、**System Setup**（システムセットアップ）を起動します。
8. すべての USB ポートが、セットアップユーティリティオプションの **ntegrated Devices**（内蔵デバイス）画面で有効になっていることを確認します。
9. USB 3.0 が、セットアップユーティリティで有効になっていることを確認します。有効な場合は、無効にしてシステムを再起動します。
キーボードが機能していない場合でも、リモートアクセスが使えます。
10. システムにアクセスできない場合は、システム内部の NVRAM_CLR ジャンパをリセットし、BIOS をデフォルト設定に戻します。
11. **IDRAC Settings Utility**（IDRAC 設定ユーティリティ）で、**USB Management Port Mode**（USB 管理ポートのモード）が **Automatic**（自動）または **Standard OS Use**（標準 OS 使用）として設定されていることを確認してください。
12. 各 USB デバイスを一度に 1 つずつ再接続し、電源を入れます。
13. USB デバイスにより同じ問題が発生する場合は、そのデバイスの電源を切り、USB ケーブルを動作確認済みのケーブルと交換して、デバイスの電源を入れます。


次の手順

すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

iDRAC ダイレクト（USB XML 設定）のトラブルシューティング

USB ストレージデバイスとサーバー設定の詳細については、dell.com/esmanuals にある『Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。

手順

1. お使いの USB ストレージデバイスが、USB 管理ポート前面に接続されていることを確認してください。
 アイコンで識別できます。
2. USB ストレージデバイスが、パーティションが 1 つだけの NTFS または FAT32 ファイルシステムで構成されていることを確認します。
3. USB ストレージデバイスが正しく構成されていることを確認します。USB ストレージデバイスの構成に関する詳細については、dell.com/esmanuals の『Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。

4. **IDRAC Settings Utility** (iDRAC 設定ユーティリティ) で、**USB Management Port Mode** (USB 管理ポートのモード) が、**Automatic** (自動) または **iDRAC Direct Only** (iDRAC Direct のみ) に設定されていることを確認します。
5. **iDRAC Managed: USB XML Configuration** (iDRAC Managed: USB XML 設定) オプションが、**Enabled** (有効)、または **Enabled only when the server has default credential settings** (サーバーにデフォルト認証設定がある場合のみ有効) のいずれかであることを確認してください。
6. USB ストレージデバイスを取り外して、再度挿入します。
7. インポート操作が機能しない場合は、別の USB ストレージデバイスでお試してください。

次の手順

すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

iDRAC ダイレクト (ノートブック接続) のトラブルシューティング

USB ノートブックの接続とサーバーの設定の詳細については、dell.com/esmanuals の『Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide』(Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド) を参照してください。

手順

1. お使いのノートブックが前面 USB 管理ポートに接続されていることを確認します。これは  USB タイプ A/A ケーブルのアイコンで識別されます。
2. **IDRAC Settings Utility** (iDRAC 設定ユーティリティ) で、**USB Management Port Mode** (USB 管理ポートのモード) が、**Automatic** (自動) または **iDRAC Direct Only** (iDRAC Direct のみ) に設定されていることを確認します。
3. ノートパソコンで、Windows オペレーティングシステムが実行されている場合は、iDRAC 仮想 USB NIC デバイスドライバがインストールされていることを確認します。
4. ドライバがインストールされている場合は、iDRAC Direct ではルーティングできないアドレスを使用しているため、WiFi 経由のネットワーク、またはケーブル接続されたイーサネットに接続されていないことを確認します。

次の手順

すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

シリアル I/O デバイスのトラブルシューティング

手順

1. システム、およびシリアルポートに接続された周辺機器すべての電源を切ります。
2. シリアルインタフェースケーブルを動作確認済みのケーブルと取り替え、システムとシリアルデバイスの電源を入れます。
問題が解決したら、インタフェースケーブルを動作確認済みのケーブルと交換します。
3. システムとシリアルデバイスの電源を切り、シリアルデバイスを同じタイプのデバイスと取り替えます。
4. システムとシリアルデバイスの電源を入れます。

次の手順

問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

NIC のトラブルシューティング

手順


1. 適切な Diagnostic (診断) テストを実行します。実行可能な診断テストについては、「[システム診断プログラムの使用](#)」を参照してください。
2. システムを再起動し、NIC コントローラに関するシステムメッセージがないかチェックします。
3. NIC コネクタの該当するインジケータを確認します。
 - リンクインジケータが点灯しない場合は、すべてのケーブル接続を確認します。
 - アクティビティインジケータが点灯しない場合は、ネットワークドライバファイルが損傷しているか、失われた可能性があります。
該当する場合は、ドライバを削除し、再インストールします。NIC のマニュアルを参照してください。
 - 必要に応じて、オートネゴシエーション設定を変更します。
 - スイッチまたはハブの別のコネクタを使用します。
4. 適切なドライバがインストールされ、プロトコルがバインドされていることを確認します。NIC のマニュアルを参照してください。
5. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面で NIC ポートが有効になっていることを確認します。
6. ネットワーク上の NIC、ハブ、およびスイッチが、すべて同じデータ転送速度、および二重に設定されていることを確認します。各ネットワークデバイスのマニュアルを参照してください。
7. すべてのネットワークケーブルのタイプが適切で、最大長を超えていないことを確認します。

次の手順

すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

システムが濡れた場合のトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
2. システムカバーを取り外します。
3. システムから次のコンポーネントを取り外します。
 - ハードドライブ
 - ハードドライブバックプレーン
 - USB メモリキー
 - ハードドライブトレイ
 - 冷却エアフローカバー
 - 拡張カードライザー (取り付けられている場合)
 - 拡張カード


- 電源装置ユニット
 - 冷却ファンアセンブリ（取り付けられている場合）
 - 冷却ファン
 - プロセッサとヒートシンク
 - メモリモジュール
4. システムを完全に乾燥させます（少なくとも 24 時間）。
 5. 手順 3 で取り外したコンポーネントを取り付けます。
 6. システムカバーを取り付けます。
 7. システムと周辺機器の電源を入れます。
システムが正常に起動しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。
 8. システムが正常に起動する場合は、システムをシャットダウンして、取り外した拡張カードをすべて再度取り付けます。
 9. 適切な Diagnostics（診断）テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。

次の手順

テストが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

システムが損傷した場合のトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順


1. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
2. システムカバーを取り外します。
3. 以下のコンポーネントが正しく取り付けられていることを確認します。
 - 冷却エアフローカバー
 - 拡張カードライザー（取り付けられている場合）
 - 拡張カード
 - 電源装置
 - 冷却ファンアセンブリ（取り付けられている場合）
 - 冷却ファン
 - プロセッサとヒートシンク
 - メモリモジュール
 - ハードドライブキャリア
 - ハードドライブバックプレーン
4. すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認します。
5. システムカバーを取り付けます。
6. 適切な Diagnostics（診断）テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。


次の手順


テストが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

システムバッテリーのトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** システムの電源が長い期間（数週間から数か月）切られていた場合、NVRAM からシステム設定情報が失われる可能性があります。この状態は不良バッテリーが原因で発生します。

 **メモ:** 一部のソフトウェアは、システム時間が速くなったり遅くなったりする原因となる場合があります。セットアップユーティリティの時刻以外はシステムが正常に動作していると思われる場合、この問題は不良バッテリーではなく、ソフトウェアに起因するものである可能性があります。


手順

1. セットアップユーティリティで時刻と日付を再入力します。
2. システムの電源を切り、電源ケーブルをコンセントから少なくとも1時間外しておきます。
3. 電源ケーブルをコンセントに再接続し、システムの電源を入れます。
4. セットアップユーティリティを起動します。
セットアップユーティリティの日付と時刻が正しくない場合は、SEL でシステムバッテリーに関するメッセージをチェックします。

次の手順

問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

電源装置ユニットのトラブルシューティング


 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

電源の問題

1. 電源ボタンを押して、システムの電源が入っていることを確認します。電源ボタンを押しても電源インジケータが点灯しない場合は、しっかりと電源ボタンを押します。
2. 別の動作中のデバイスを差し込み、システム基板に障害が発生していないことを確認します。
3. 接続が緩んでいないことを確認します。
たとえば、電源ケーブルの接続が緩んでいることがあります。
4. 電源が適用規格を満たしていることを確認します。
5. 回路のショートがないことを確認します。
6. 適切な資格を持つ電気技術者に電圧線を確認してもらい、必要な仕様を満たしていることを確認します。


電源装置ユニットの問題

1. 接続が緩んでいないことを確認します。
たとえば、電源ケーブルの接続が緩んでいることがあります。
2. 電源ハンドル / LED に、電源装置が正常に機能していると表示されていることを確認します。
3. 最近システムをアップグレードした場合は、電源装置ユニットに新しいシステムをサポートするのに十分な電力があることを確認してください。
4. 冗長構成の電源供給を使用している場合は、両方の電源装置ユニットのワット数およびタイプが同じであることを確認してください。
LED が点灯しない場合は、ワット数がより大きな電源装置ユニットへのアップグレードが必要となる場合もあります。
5. 必ず、背面に拡張電源パフォーマンス (EPP) のラベルが貼付されている電源装置ユニットのみを使用するようにしてください。
6. 電源装置ユニットの再度取り付け

 **メモ:** 電源装置ユニットの取り付け後、システムが電源装置ユニットを認識し、正しく動作していることを確認するまで数秒待ちます。

問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

冷却問題のトラブルシューティング

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

次の条件を満たしていることを確認します。

- システムカバー、冷却エアフローカバー、EMI フィラーパネル、背面フィラーブラケットが取り外されていません。
- 室温が高すぎない。
- 外部の通気が妨げられていない。
- 冷却ファンが取り外されたり、故障していない。
- 拡張カードの取り付けガイドラインに準拠している。

追加の冷却を次のいずれかの方法で追加できます。

iDRAC Web GUI を使用する場合：

1. **Hardware (ハードウェア) → Fans (ファン) → Setup (セットアップ)** の順にクリックします。
2. **Fan Speed Offset (ファン速度オフセット)** ドロップダウンリストから、必要な冷却レベルを選択するか、カスタム値に最小ファン速度を設定します。

F2 セットアップユーティリティを使用する場合：

1. **iDRAC Settings (iDRAC 設定) → Thermal (温度)** を選択して、ファン速度オフセットまたは最小ファン速度から、より高いファン速度を設定します。


RACADM コマンドを使用する場合：


1. racadm help system.thermalsettings コマンドを実行します。

詳細については、dell.com/idracmanuals で『*Integrated Dell Remote Access Controller User's Guide*』（Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド）を参照してください。

冷却ファンのトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** 特定のファンに問題が発生した場合には、システム管理ソフトウェアによってファン番号が示されるため、冷却ファンアセンブリ上のファン番号を見て、問題のファンを容易に識別し、交換することができます。

手順


1. システムカバーを取り外します。
2. ファンを装着しなおすか、またはファンの電源ケーブルを抜き差しします。
3. システムカバーを取り付けます。
4. システムを再起動します。

次の手順

問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。


システムメモリのトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. システムが動作可能な場合、適切な Diagnostics（診断）テストを実行します。実行可能な診断テストについては、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。
診断で障害が示された場合は、診断プログラムによって示される対応処置を行います。
2. システムが動作しない場合、システムおよび周辺機器の電源を切り、コンセントからシステムを外します。少なくとも 10 秒待ってから、システムを電源に再接続します。
3. システムおよび接続されている周辺機器の電源を入れ、画面のメッセージをメモします。
特定のメモリモジュールにおける障害を示すエラーメッセージが表示される場合は、手順 12 に進みます。
4. セットアップユーティリティを起動し、システムメモリ設定をチェックします。必要に応じてメモリ設定を変更します。
メモリの設定が取り付けられているメモリと一致しているにもかかわらず、引き続きエラーメッセージが表示される場合は、手順 12 に進みます。


5. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
6. システムカバーを取り外します。
7. メモリチャンネルをチェックし、正しく装着されていることを確認します。
 **メモ:** 障害が発生しているメモリモジュールの位置については、システムイベントログまたはシステムメッセージを参照します。メモリデバイスを再度取り付けます。
8. ソケットに装着されている各メモリモジュールを抜き差しします。
9. システムを取り付けます。
10. セットアップユーティリティを起動して、システムメモリの設定を確認します。
問題が解決しない場合は、次の手順に進みます。
11. システムカバーを取り外します。
12. Diagnostic (診断) テストまたはエラーメッセージで特定のメモリに障害があることが表示された場合、そのモジュールを動作確認済みのメモリモジュールと取り替え、または交換します。
13. 特定されていないメモリモジュールで障害が発生している場合のトラブルシューティングを行うには、1 番目の DIMM ソケットに装着されているメモリモジュールを同じタイプおよび容量のモジュールと交換します。
画面にエラーメッセージが表示される場合、取り付けられた DIMM のタイプ、誤った DIMM の取り付け、または不良 DIMM 関連の問題である場合があります。画面上の手順に従って、問題を解決します。詳細については、「[メモリモジュール取り付けの一般的ガイドライン](#)」を参照してください。
14. システムカバーを取り付けます。
15. システムの起動中、表示されるエラーメッセージ、およびシステム前面の診断インジケータを観察します。
16. メモリの問題が引き続き表示される場合は、取り付けられているメモリモジュールごとに、手順 12~15 を繰り返します。


次の手順

すべてのメモリモジュールをチェックしても問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

SD カードのトラブルシューティング


前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。


 **メモ:** 特定の SD カードには、カード上に物理的な書き込み保護スイッチがあります。書き込み保護スイッチがオンになっていると、SD カードには書き込みできません。

手順

1. セットアップユーティリティを起動し、**Internal SD Card Port** (内蔵 SD カードポート) が有効になっていることを確認します。
2. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを取り外します。


 **メモ:** SD カードに障害が発生すると、内蔵デュアル SD モジュールコントローラがシステムに通知します。システムは、次回再起動時に障害を通知するメッセージを表示します。SD カードの障害発生時に冗長性が有効になっている場合、重要アラートがログに記録され、シャーシの正常性が劣化します。


4. 障害が発生した SD カードを新しい SD カードと交換します。
5. システムカバーを取り付けます。
6. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
7. セットアップユーティリティを起動し、**Internal SD Card Port** (内蔵 SD カードポート) と **Internal SD Card Redundancy** (内蔵 SD カードの冗長性) モードが必要なモードに設定されていることを確認します。
正しい SD スロットが **Primary SD Card** (プライマリ SD カード) として設定されていることを確認します。
8. SD カードが正常に機能しているか確認します。
9. **Internal SD Card Redundancy** (内蔵 SD カード冗長性) オプションが SD カードの障害発生時に **Enabled** (有効) に設定されている場合は、システムが再構築を実行するためのプロンプトを表示します。

 **メモ:** 再構築はプライマリ SD カードからセカンダリ SD カードに行なわれます。SD カードの再構築は、必要に応じて実行してください。

ハードドライブのトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **注意:** このトラブルシューティング手順により、ハードディスクドライブに保存されたデータが削除されるおそれがあります。続行する前に、ハードディスクドライブ上のすべてのファイルをバックアップしてください。

手順

1. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。
Diagnostics (診断) テストの結果に応じて、随時次の手順を実行します。
2. お使いのコントローラカード用に必要なデバイスドライバがインストールされており、正しく設定されていることを確認してください。詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
3. システムを再起動し、セットアップユーティリティを起動します。
4. セットアップユーティリティで、コントローラが有効になっており、ドライブが表示されていることを確認します。

次の手順

問題が解決しない場合は、拡張カードのトラブルシューティングを試行するか、または「[困ったときは](#)」を参照してください。

ストレージコントローラのトラブルシューティング

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

✎ メモ: SAS または PERC コントローラのトラブルシューティングを行う際には、オペレーティングシステムのマニュアルおよびコントローラのマニュアルを参照してください。


1. 適切な Diagnostics（診断）テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを取り外します。
4. 拡張カードが、取り付けガイドラインに従って取り付けられていることを確認します。
5. 各拡張カードがコネクタに確実に装着されていることを確認します。
6. システムカバーを取り付けます。
7. 電源ケーブルをコンセントに再接続し、システムと接続された周辺機器の電源を入れます。
8. 問題が解決しない場合は、システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
9. システムカバーを取り外します。
10. システムに取り付けられている拡張カードをすべて取り外します。
11. システムカバーを取り付けます。
12. 電源ケーブルをコンセントに再接続し、システムと接続された周辺機器の電源を入れます。
13. 適切な Diagnostics（診断）テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。テストに失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。
14. 手順 10 で取り外した各拡張カードについて、次の手順を実行します。
 - a. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
 - b. システムカバーを取り外します。
 - c. 拡張カードの 1 枚を取り付けなおします。
 - d. システムカバーを取り付けます。
 - e. 適切な Diagnostics（診断）テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。

テストが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

拡張カードのトラブルシューティング

前提条件

△ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** 拡張カードのトラブルシューティングを行う際には、OS と拡張カードのマニュアルを参照してください。

手順


1. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを取り外します。
4. 各拡張カードがコネクタに確実に装着されていることを確認します。
5. システムカバーを取り付けます。
6. 問題が解決しない場合は、システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
7. システムカバーを取り外します。
8. システムに取り付けられている拡張カードをすべて取り外します。
9. システムカバーを取り付けます。
テストが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。
10. 手順 8 で取り外した各拡張カードについて、次の手順を実行します。
 - a. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
 - b. システムカバーを取り外します。
 - c. 拡張カードの 1 枚を取り付けなおします。
 - d. システムカバーを取り付けます。
 - e. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。

次の手順

問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

プロセッサのトラブルシューティング

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. 適切な Diagnostic (診断) テストを実行します。実行可能な診断テストについては、「[システム診断プログラムの使用](#)」を参照してください。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを取り外します。
4. プロセッサとヒートシンクが正しく取り付けられていることを確認します。
5. システムカバーを取り付けます。
6. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。

次の手順


問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

システムメッセージ

システムコンポーネントを監視するシステムファームウェアおよびエージェントによって生成されたイベントメッセージおよびエラーメッセージのリストについては、Dell.com/idracmanualsにある『*Dell Event and Error Messages Reference Guide*』（Dell イベントおよびエラーメッセージリファレンスガイド）を参照してください。

警告メッセージ

警告メッセージは、問題発生の可能性のあることを知らせ、作業を続行する前に対応策をとるように求めます。たとえば、ハードドライブをフォーマットする前に、ハードドライブ上のすべてのデータが失われるおそれがあることを警告するメッセージが表示されます。警告メッセージは、通常、処理を中断して、y（はい）またはn（いいえ）を入力して応答することを要求します。

 **メモ:** 警告メッセージはアプリケーションまたはオペレーティングシステムにより生成されます。詳細については、オペレーティングシステムまたはアプリケーションに付属のマニュアルを参照してください。

診断メッセージ

お使いのシステムで診断テストを実行すると、システム診断ユーティリティがメッセージを表示する場合があります。システム診断の詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。


アラートメッセージ

システム管理ソフトウェアは、システムのアラートメッセージを生成します。アラートメッセージには、ドライブ、温度、ファン、および電源の状態についての情報、ステータス、警告、およびエラーメッセージがあります。詳細については、システム管理ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

システム診断の使用

システムに問題が起こった場合、デルのテクニカルサポートに電話する前にシステム診断プログラムを実行してください。システム診断プログラムを使うと、特別な装置を使用せずにシステムのハードウェアをテストでき、データが失われる心配もありません。お客様がご自分で問題を解決できない場合でも、サービスおよびサポート担当者が診断プログラムの結果を使って問題解決の手助けを行うことができます。

Dell Embedded System Diagnostics

 **メモ:** Dell 組み込み型システム診断は、Enhanced Pre-boot System Assessment (ePSA) 診断としても知られています。

内蔵されたこのシステム診断プログラムには、特定のデバイスグループや各デバイス用の一連のオプションが用意されており、以下の処理が可能です。

- テストを自動的に、または対話モードで実行
- テストの繰り返し
- テスト結果の表示または保存
- 詳細なテストで追加のテストオプションを実行し、障害の発生したデバイスに関する詳しい情報を得る
- テストが問題なく終了したかどうかを知らせるステータスメッセージを表示
- テスト中に発生した問題を通知するエラーメッセージを表示

内蔵システム診断を使用する状況

システム内の主要なコンポーネントまたはデバイスが正しく動作していない場合、内蔵されたシステム診断プログラムを実行すると、コンポーネントの障害が示されることがあります。

起動マネージャからの内蔵されたシステム診断プログラムの実行

1. システム起動中に F11 を押します。
2. 上下矢印キーを使用して、**System Utilities (システムユーティリティ) → Launch Diagnostics (Diagnostics (診断) の起動)** と選択します。

ePSA Pre-boot System Assessment (ePSA 起動前システムアセスメント) ウィンドウが表示され、システム内に検知された全デバイスがリストアップされます。Dell Diagnostics が検知された全デバイスのテストを開始します。

Dell Lifecycle Controller からの内蔵されたシステム診断プログラムの実行

1. システム起動中に F11 を押します。
2. **Hardware Diagnostics (ハードウェア診断) → Run Hardware Diagnostics (ハードウェア診断の実行)** を選択します。

ePSA Pre-boot System Assessment (ePSA 起動前システムアセスメント) ウィンドウが表示され、システム内に検知された全デバイスがリストアップされます。Dell Diagnostics が検知された全デバイスのテストを開始します。

システム診断プログラムのコントロール

表 31. システム診断プログラムのコントロール

メニュー	説明
構成	検知された全デバイスの設定およびステータス情報が表示されます。
結果	実行された全テストの結果が表示されます。
システムの正常性	システムパフォーマンスの現在の概要が表示されます。
Event Log (イベントログ)	システムで実行された全テストの結果のタイムスタンプ付きログが表示されます。少なくとも 1 つのイベントの説明が記録されていれば、このログが表示されます。





組み込み型システム診断の詳細については、dell.com/support/manuals の『*ePSA Diagnostics Guide* (Notebooks, Desktops and Servers)』(ePSA 診断ガイド (ノートブック、デスクトップ、およびサーバー)) を参照してください。

ジャンパとコネクタ

システム基板のジャンパ設定

パスワードジャンパをリセットしてパスワードを無効にする方法については、「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照してください。

表 32. システム基板のジャンパ設定

ジャンパ	設定	説明
PWRD_EN	 2 4 6 (default) (デフォルト)	パスワード機能が有効です (ピン 4 ~ 6)。
	 2 3 4	パスワード機能が無効です (ピン 2 ~ 4)。iDRAC のローカルアクセスが次の AC パワーサイクル時にロック解除されます。
NVRAM_CLR	 1 3 5 (default) (デフォルト)	構成設定がシステム起動時に保持されます (ピン 1 ~ 3)。
	 1 3 5	構成設定は、次のシステム起動時にクリアされます (ピン 3 ~ 5)。

システム基板のコネクタ

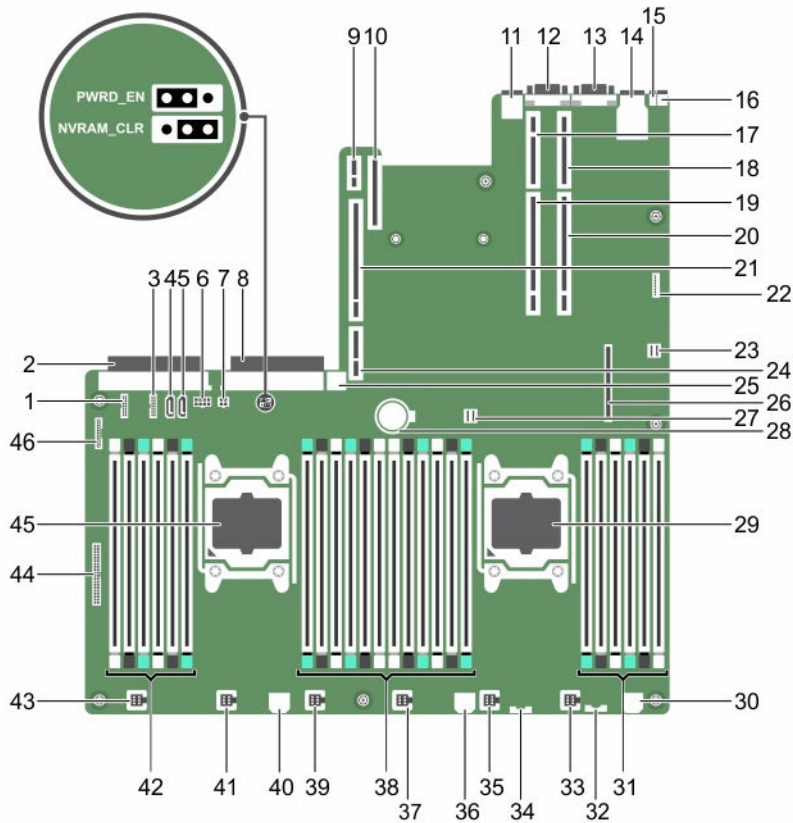


図 39. システム基板のコネクタとジャンパ

表 33. システム基板のコネクタとジャンパ

項目	コネクタ	説明
1.	J_BP_SIG1	バックプレーン信号コネクタ 1
2.	J_PS2	PSU 2 電源コネクタ
3.	J_BP_SIG0	バックプレーン信号コネクタ 0
4.	J_SATA_CD	光学ドライブ SATA コネクタ、SATADOM コネクタ
5.	J_SATA_TBU	SATA テープバックアップユニットコネクタ
6.	J_BP0	バックプレーン電源コネクタ
7.	J_TBU	テープバックアップユニットの電源コネクタ
8.	J_PS1	PSU 2 電源コネクタ


項目	コネクタ	説明
9.	J_IDSDM	内蔵デュアル SD モジュールコネクタ
10.	J_NDC	ネットワークドーターカードコネクタ
11	J_USB	USB コネクタ
12	J_VIDEO_REAR	ビデオコネクタ
13	J_COM1	シリアルコネクタ
14	J_IDRAC_RJ45	iDRAC8 コネクタ
15	J_CYC	システム識別コネクタ
16	CYC_ID	システム識別ボタン
17	J_RISER_2AX	ライザー 2 コネクタ
18	J_RISER_1AX	ライザー 1 コネクタ
19	J_RISER_2BX	ライザー 2 コネクタ
20	J_RISER_1BX	ライザー 1 コネクタ
21	J_RISER_3AX	ライザー 3 コネクタ
22	J_SATA_B	SATA コネクタ
23	J_QS	Quick Sync コネクタ
24	J_RISER_3BX	ライザー 3 コネクタ
25	J_USB_INT	内部 USB コネクタ
26	J_STORAGE	ストレージコントローラカードコネクタ
27	J_SATA_A	SATA コネクタ
28	BAT	バッテリーコネクタ
29	CPU2	プロセッサソケット 2
30	J_FAN1U_7	冷却ファンコネクタ
31	B1、B5、B9、B2、B6、B10	メモリモジュールソケット
32	J_BP3	ハードディスクライブバックプレーン電源コネクタ
33	J_FAN1U_6	冷却ファンコネクタ
34	J_BP_SIG2	バックプレーン信号コネクタ 2
35	J_FAN1U_5	冷却ファンコネクタ
36	J_BATT_SIG	バッテリー信号コネクタ
37	J_FAN1U_4	冷却ファンコネクタ
38	A1、A5、A9、A2、A6、A10、B3、B7、B11、B4、B8、B12	メモリモジュールソケット
39	J_FAN1U_3	冷却ファンコネクタ

項目	コネクタ	説明
40	J_FAN2U	冷却ファンコネクタ
41	J_FAN1U_2	冷却ファンコネクタ
42	A12、A8、A4、A7、A11、A3	メモリモジュールソケット
43	J_FAN1U_1	冷却ファンコネクタ
44	J_CTRL_PNL	コントロールパネルコネクタ
45	CPU1	プロセッサソケット 1
46	J_FP_USB	前面パネル USB コネクタ

パスワードを忘れたとき


システムのソフトウェアセキュリティ機能により、システムパスワードとセットアップパスワードを設定することができます。パスワードジャンパを使用すると、これらのパスワード機能を有効または無効にして、現在使用中のパスワードをどれでもクリアすることができます。

前提条件

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者しか実行できません。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。お使いの製品に同梱の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

手順

1. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
2. システムカバーを開きます。
3. システム基板ジャンパ上のジャンパを 4 および 6 番ピンから 2 および 4 番ピンに動かします。
4. システムカバーを閉じます。
既存のパスワードは、ジャンパが 2 および 4 番ピンにある状態でシステムを起動するまで無効化（削除）されません。ただし、新規システムパスワードまたはセットアップパスワードを割り当てる前に、ジャンパを 4 および 6 番ピンに戻す必要があります。

 **メモ:** 2 および 4 番ピンにジャンパがある状態で新規システムパスワードまたはセットアップパスワードを割り当てると、システムは次回の起動時に新しいパスワードを無効化します。

5. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
6. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
7. システムカバーを開きます。
8. システム基板ジャンパ上のジャンパを 2 および 4 番ピンから 4 および 6 番ピンに動かします。
9. システムカバーを閉じます。
10. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
11. 新しいシステムパスワードとセットアップパスワードの両方またはそのどちらか一方を設定します。

困ったときは

デルへのお問い合わせ

デルでは、オンラインおよび電話によるサポートとサービスオプションをいくつかご用意しています。アクティブなインターネット接続がない場合は、ご購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデル製品カタログで連絡先をご確認いただけます。これらのサービスは国および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。販売、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスの問題に関するデルへのお問い合わせは、

1. **Dell.com/support** にアクセスしてください。
2. お住まいの国を、ページ右下隅のドロップダウンメニューから選択します。
3. カスタマイズされたサポートを利用するには、次の手順に従います。
 - a. **Enter your Service Tag** (サービスタグの入力) フィールドに、お使いのシステムのサービスタグを入力します。
 - b. **Submit** (送信) をクリックします。
さまざまなサポートのカテゴリのリストが掲載されているサポートページが表示されます。
4. 一般的なサポートを利用するには、次の手順に従います。
 - a. 製品カテゴリを選択します。
 - b. 製品セグメントを選択します。
 - c. お使いの製品を選択します。
さまざまなサポートのカテゴリのリストが掲載されているサポートページが表示されます。
5. Dell グローバルテクニカルサポートへのお問い合わせ先詳細：
 - a. [Global Technical Support](#) (グローバルテクニカルサポート) をクリックしてください。
 - b. **テクニカルサポート** ページには、Dell グローバルテクニカルサポートチームへの電話、チャット、または電子メール送信のための詳細が記載されています。

Dell SupportAssist

より優れたサポートを得ることができるように、デルでは Dell SupportAssist のインストールと設定を推奨しています。

Dell SupportAssist は、問題が検出されたときにお使いのシステムに関する情報を収集して自動的にサポートケースを作成する、ソフトウェアアプリケーションです。Dell SupportAssist は、強化された、個別に対応できる効率的なサポートに役立ちます。デルでは、一般的な問題の解決、製品の設計および販売促進のためのこのデータを使用します。

Dell SupportAssist のインストールおよび設定の詳細については、<http://www.dell.com/en-us/work/learn/supportassist-servers-storage-networking> を参照してください。

お使いのシステムのサービスタグの位置

お使いのシステムは一意のエキスプレスサービスコードおよびサービスタグ番号によって識別されます。エキスプレスサービスコードおよびサービスタグは、システムの前面で情報タグを引き出して確認します。または、システムのシャーシに貼られたステッカーに情報が記載されている場合があります。この情報は、デルが電話によるサポートのお問い合わせを適切な担当者に転送するために使用されます。

Quick Resource Locator (QRL)

Quick Resource Locator (QRL) を使用して、システム情報やハウツービデオに素早くアクセスします。これには、Dell.com/QRL にアクセスするか、スマートフォンまたはタブレット、およびお使いの Dell システム上にあるモデル固有の Quick Resource (QR) コードを使用します。QR コードをお試しになるには、次のイメージをスキャンしてください。



図 40. Quick Resource Locator (QRL)